岩手県文化財調査報告書第82集

岩手県中世城館跡

分布調査報告書

1986.3

岩手県教育委員会

岩手県文化財調査報告書第82集
岩手県中世城館跡分布調査報告書　正　誤　表

頁	城館名	行	誤	正	頁	城館名	行	誤	正
3		下から　8	11地区	12	148	中　館	上から　11	堅堀	竪
〃	(表　中)	上から　8	胆沢村	町	153		(左)　〃　20	託記	話
9		(左)下から　19	堅穴	竪	〃		(〃)下から　6	氏に岩	は
11		(右)　〃　11	聯	瓶	〃		(右)上から　15	参連	陣
20	川口城		腰部1	郭	〃		(〃)下から　19	小深川	梁
30	胡四王館		空掘	堀	160		(〃)　10	堀立柱	掘
37	八方丁		八方丁	方八	167		上から　1	六日城	六日入城
43	玉崎館		中減？	滅	173	鹿合館	〃　1	朋沢郡	胆
50	瀬原柵		和記	話	181	赤荻城	〃　1	(追　加)	赤荻字宿
54	橘　城		とし2町	て	182	下黒沢城	〃　11	平場はは	はを取る
67	上野館		の基の	墓	〃	〃	〃　12	四方に	で
69	笠間館		結の城	詰	193	二桜館	〃　10	堀られ	掘
74	箱石沢館		腰腰2	郭	194		〃　7	〃	〃
88		(左)上から　8	万八丁	方	198		(左)　〃　20	ものが諸	か
〃		(〃)　〃　9	の陳	陣	199	千厩城	上から　2	ヱ千厩	ヱを取る
90		(左)下から　4	緑細瓦	釉	202	烏崎館	〃　4	線を走	が
92		(〃)上から　20	両辺を	西	219	布佐館	〃　10	堀立柱	掘
93	湯の館	上から　10	平担面	坦	224	末崎城	〃　7	東北	西
97	大　館	下から　7	急崖さる	とな	226	古　館	下から　7	北沢	北に沢
103		(右)上から　5	こと三	二	234		(左)上から　8	新族	親
106		(〃)　〃　13	平担地	坦	240	火渡館	上から　4	陵線	稜
109		(〃)　〃13,16,20	堀立柱	掘	248	船越御所	〃　7	を測し	り
111		(左)下から　8	薬研城	堀	254		(右)下から　15	大野地	村
〃		(右)上から　19	灰納	釉	261	中輪館	上から　5	ありい	いを取る
130	毒沢館	上から　7	接断	折	280	中里館	〃　10	面する	画
131		〃　11	堅堀	竪	282	大清水館	下から　8	断岸を	崖
134	相去城	下から　9	主郭掘	堀	〃	〃	〃　6	重掘	堀
136		(右)　〃　2	任置	仕	286	高家館	〃　3	の基	墓
142		上から　5	掘主柱	立					

岩手県中世城館跡

分布調査報告書

1986.3

岩手県教育委員会

序

本県には、国指定の盛岡城跡をはじめ、数多くの城跡や館跡があり、県民に親しまれております。

これらの城館は、歴史の進展に伴い、そのほとんどが廃墟と化し、栄枯盛衰の姿のみをとどめておりますが、しかし、その中には、往時の人々の歴史や文化を知る貴重な手がかりが秘められており、私たちにとって、かけがいのない大切な文化財となっております。

また、これらの城館跡の中には、史跡公園として整備され、歴史へのふれ合いの場として、あるいは地域の人々の憩いの場として、生かされ、活用されている所もありますが、近年における開発事業の進展は、城館跡にも波及するようになり、保護の対策が課題となっております。

県教育委員会は、このような状況に対処し、城館跡の周知と保護の促進を図るため、文化庁の補助を得て、県下全域を対象として、中世の城館跡を中心に、古代の城柵跡から近世の居館跡まで、現地踏査による総合分布調査を実施し、その成果を、報告書としてまとめました。

この報告書は、現地調査から資料の収集、整理にいたるまで、昭和57年度以来４年の歳月をかけて作成刊行されたものでありますが、この間、調査指導員の先生方をはじめ、調査員、地区調査員の方々、さらに、市町村教育委員会の多大のご指導、ご協力を得て刊行の運びとなったものであります。

ここに、関係者の方々に衷心から感謝申し上げます。

本報告書が、古里の歴史を解明する手がかりとして、また、地域を理解する資料として、できるだけ多くの県民にご覧いただき、広く活用されることを願ってやみません。

昭和61年３月

岩手県教育委員会

教育長　中　島　孝　助

例　　言

1．本書は、岩手県教育委員会が国庫補助金の交付をうけ、昭和57年度から60年度の４ケ年にわたり実施した「岩手県中世城館跡調査事業」の報告である。

2．調査は岩手県教育委員会が主体となり、別に委嘱した調査指導員、調査員、地区調査員を中心として、各市町村教育委員会の協力のもとに実施した。

3．調査対象は、本県内に所在する古代から中世末期までの城館跡を中心としたが、一部に近世の城郭も加えた。

4．各城館跡の名称は、原則として文献に見えるものを採用した。古文献に見えないものは地元の通称にしたがい、それも欠くものは小字名等を参照して、便宜的に命名したものもある。

5．調査にあたっては、古文書、古記録、地誌類、県市町村史、字切図、地籍図、古絵図、伝承、諸先学の研究業績等を活用するよう努めた。

6．本調査事業の成果の詳細（調査カード等）は、岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。

7．本書は、(1)関係特論、(2)地区概観、(3)城館跡一覧表、(4)城館跡個別記述、(5)分布図から構成されている。

(1)　関係特論は、本県における古代末期から中世終末期までの城館研究成果のうちから、今後のこの分野の研究に資すると思われるテーマを選択してある。それは歴史の大勢、研究上の留意点、遺物類に係るものである。

(2)　地区概観は、11地区の歴史的背景と、城館跡の分布状況について略述している。11地区は、教育事務所の所在地区によったものである。それは歴史的背景と大略一致する区分である。

(3)　城館跡一覧表は、各城館跡の概要を把握できる項目立てとした。なお、近世文書との対照の便を考慮し、江戸時代以降の村名等を行政変遷欄に示すこととした。

(4)　城館跡個別記述は、比較的保存状況良好なものの概述と、当該地区の歴史に重要な位置を占めるもの、あるいは発掘調査が実施されて、その内容が明らかになっているものの詳述の二種とした。

(5)　分布図は、20万分の１地形図に位置と番号を示した。なお、個別記述部分にも位置は示してある。

8．本書の執筆分担は次のとおりである。なお、これが同時に昭和60年度の調査体制ともなっている。

区　分	氏　　名	執　　筆　　内　　要
調査指導員	草　間　俊　一	岩手県の古代・中世の政治動向
〃	司　東　真　雄	城・関・館について
調　査　員	本　堂　寿　一	岩手県城館跡の一類型　―いわゆる蝦夷館について―
		北上・和賀地区概観、北上市、和賀町、湯田町、江釣子村、沢内村
〃	昆　野　　靖	岩手県内城館跡出土の陶磁器類について
		紫波地区概観、盛岡市、雫石町、紫波町
〃	小田野　哲　憲	岩手地区概観、岩手町、葛巻町、西根町、玉山村、滝沢村、胆沢村、衣川村、野田村
〃	伊　藤　博　幸	胆江地区概観、水沢市、前沢町、金ケ崎町
〃	熊　谷　常　正	気仙地区概観、松尾村、都南村、花泉町、東山町、室根村、大船渡市、陸前高田市
〃	工　藤　　武	西磐井地区概観、一関市、平泉町
〃	中　村　良　幸	稗貫地区概観、花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町
〃	佐々木　　勝	下閉伊地区概観、矢巾町、宮古市、山田町、岩泉町、田老町、田野畑村、新里村、川井村
〃	高　田　和　徳	二戸、九戸地区概観、種市町、山形村、大野村、一戸町、軽米町、九戸村
〃	関　　豊	久慈市、普代村、二戸市、浄法寺町、安代町
〃	畠　山　篤　雄	東磐井地区概観、千厩町、大東町、藤沢町、川崎村
岩手県教育委員会事務局文化課		上閉伊地区概観、釜石市、遠野市、大槌町、宮守村、江刺市、住田町、三陸町

調　査　の　方　法

調査は本県内に所在する城館跡を、周知の埋蔵文化財包蔵地として全県を網羅的、かつ統一的に把握することを目的として「岩手県中世城館跡調査実施要項」に基き実施した。「調査要項」は次のとおりである。

岩手県中世城館跡調査実施要項

1．調査目的　　本県には、国指定史跡九戸城跡をはじめとする多数の中世城館跡が残存しているが、近年ではこれら城館跡に係る開発行為が多発し、その保存に重大な懸念が生じている。本調査はこれらの遺跡について、その周知徹底と保護対策をたてることを目的とし、総合的な調査を行うものである。

2．調査計画の概要

(1)　調査主体者　　岩手県教育委員会

(2)　調査協力機関　　各市町村教育委員会

(3)　調査期間　　昭和57年～60年度

(4)　調査対象地区　　県内全域

第一次（57年度）岩手・紫波、稗貫、二戸各教育事務所管内

第二次（58年度）和賀、胆江、西磐井、東磐井各教育事務所管内

第三次（59年度）気仙、上閉伊、下閉伊、九戸各教育事務所管内

第四次（60年度）補足調査、調査報告書刊行

3．調査方法　　調査員を委嘱し、下記の事項について遺跡の調査を実施する。

(1)　調査対象　　館、砦、要害、柵、物見台、烽火台等

(2)　調査内容　　①　城館跡等に関する資料の収集

②　城館跡の所在確認

③　城館跡の規模・残存状況等の臨地調査

4．調査結果のまとめ

(1)　調査カードに記録し、県教委が集約する。

(2)　報告書は60年度に作成し、内容は概ね調査カードの記入項目に準ずる。

5．調査員　　調査指導員と調査員は文化課で選任し、地区調査員は市町村教育委員会の推薦により、それぞれ岩手県教育委員会教育長が委嘱する。

6．費用の支弁　　調査員が調査に従事した場合、謝金および旅費を予算の範囲内で支給する。

調査内容は「岩手県中世城館総合調査カード」に記入し記録化した。カードの様式は次に示したとおりである。参考までに調査項目を書き出しておく。

名称（別称）、所在地（行政変遷）、立地、地目、所有関係、残存状況、指定関係、他の法律との関係、予想される開発計画、管理状況、破損状況、残存する遺構の種別、地籍図上の特色、研究史（論文、地方史関係文献等）、史料、伝承、地名（大字、小字）、遺物、交通路、市場等、手工業関係、農業関係、宗教・信仰関係、集落との関係、関連城館、古戦場、築城者、築城時期、存続期間、主要居住者（変遷）、築城から廃城までに加えられた変化、主な事件、機能（性格、軍事的側面、日常生活的側面）、位置図、略測図（歩測図）、写真

資料不足から記入不能の項目も多いと思われたが、可能な限り収集に努めることとした。

岩手県中世城館跡総合調査カード

記入不要	整理番号		県遺跡番号	―
	関連する城館番号			
市町村別番号		関連する城館市町村別番号		
1 名称	（他の名称　　）			
2 所在地	現在	市郡	町村 大字　　字	
	旧 明治20年前	市郡	町村 大字　　字	
	旧 昭和30年頃（市町村合併以前）	市郡	町村 大字　　字	
3 遺構の状況	現状 a 占地状況	山頂、山麓、丘陵、平地、その他（　　）		
	現状 b 現況	山林、水田、畑、寺社境内地、宅地、その他（　　）		
	現状 c 所有関係	国有地、公有地、寺社有地、民有地、その他（　　）		
	保存度 d 残存状況	良、やや良、不良、消滅		
	保存度 e 史跡他指定	国・県・市・町・村　：史跡・旧跡・重要遺跡		
	保存度 f 他の法律・条例との関係	都市計画法（市街化区域、市街化調整区域、風致地区） 県自然環境保全条例（　　）　森林法（　　） 他		
	保存度 g 当面予定されている開発計画	有（　　）無		
	保存度 h 管理状況			
	保存度 i 破壊のある場合	全壊、部分壊（時期（　　頃）：原因（　　））		

遺構の状況	j 遺構の特色（郭<呼称>、櫓郭（張郭）、犬走り、ほり（空ほり、水ほり、たこほり） 土塁<折れひずみ、土塁形、石塁、虎口、水の口（口）、馬場、畝、櫓台、土橋、物見、のろし台、通路（大手、からめ手、ホリ底道）、古木、他

史料	d 遺物（陶磁器、武器、武具、瓦、鉄、ずすり、茶臼、木製品、他）
	e その他
6 歴史的状況	a 交通路（陸路、水路、のろし道、軍事道路、その他）
	b 商業関係（市場、市神、その他）
	c 手工業関係（鍛冶、鋳造、瓦屋、番匠<大工>、その他）
	d 農業関係（溜水、用水、その他）

歴史的状況	e 宗教・信仰関係（社寺、墓塔<五輪塔>、板碑、埋経遺構、石仏、その他）
	f 隣郭との関係
	g 関連する城館
	h 古戦場（首塚、五輪塔など）
	i その他

遺構の状況	地図上（公図、切図）上の特色

4 研究史		執筆者	題名	発行所掲載誌	備考（刊行年）
	①地方史誌（郷土誌）				
	②著書				
	③論文				
	④報告書				
	⑤その他				
	備考　発掘、測量				

5 史料 a 文献	史料名	刊本	備考（所蔵者）
①古文書			
②古記録			

史料				
	③地誌（元禄以前）			
	④金石文			
	⑤古絵図			
	⑥地籍帳			
	b 伝承（伝承者氏名　　）			
	c 地名	大字	小字	小字内の呼称（通称 小名、さげ名、字）、屋号

7 考察 a 歴史	
	1 築城者
	2 築城時期
	3 存続期間（築城から廃城まで）
	4 主要居城者（城主の変遷）
	5 築城から廃城まで城館に加えられた変化（拡張部分他）
	6 主な事件

考察	
性格	恒久的城館　：　臨時城砦 密接な関連をもつ城館（　　）
6 機能（記入自由欄）	軍事的にみて 日常的領主支配の視点からみて
報告者氏名	調査年月日

昭和57年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏　　名	調査担当地区
調査指導員	草　間　俊　一	調査地区全域
〃	司　東　真　雄	〃
調　査　員	昆　野　　靖	紫波町、滝沢村
〃	八　木　光　則	盛岡市、雫石町
〃	佐　藤　和　男	矢巾町、都南村
〃	本　堂　寿　一	花巻市、石鳥谷町
〃	中　村　良　幸	大迫町、東和町
〃	高　橋　昭　治	岩手町、西根町
〃	小田野　哲　憲	玉山村
〃	熊　谷　常　正	
〃	高　橋　信　雄	軽米町、九戸村
〃	高　田　和　徳	一戸町、葛巻町
〃	四　井　謙　吉	二戸市、安代町
〃	関　　豊	浄法寺町、松尾村

	氏　　名	調査担当地区
地区調査員	永　井　勝　栄	軽　米　町
〃	久保田　正　信	九　戸　村
〃	木ノ下　伝次郎	葛　巻　町
〃	田　口　方　三	浄　法　寺　町
〃	高　橋　忠　義	松　尾　村
〃	伊　藤　清　造	西　根　町
〃	太　田　忠　雄	玉　山　村
〃	小　島　　侠	滝　沢　村
〃	川　崎　義　仲	雫　石　町
〃	川　村　迪　雄	紫　波　町
〃	阿　部　三　夫	矢　巾　町
〃	菊　池　邦　雄	石　鳥　谷　町
〃	照　井　弘　道	花　巻　市
〃	小田島　留　吉	東　和　町

昭和58年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏名	調査担当地区
調査指導員	草間俊一	調査地区全域
〃	司東真雄	〃
調査員	本堂寿一	北上市、金ケ崎町
〃	稲野裕介	江刺市
〃	八重樫良宏	和賀町、沢内村
〃	高橋文明	江釣子村、湯田町
〃	伊藤博幸	水沢市、藤沢町
〃	瀬川司男	胆沢町
〃	本沢慎輔	平泉町、衣川村
〃	工藤武	一関市、花泉町
〃	熊谷常正	東山町、大東町
〃	畠山篤雄	千厩町、室根村
〃	村上光一	川崎村、藤沢町

	氏名	調査担当地区
地区調査員	藤田仁	沢内村
〃	藤原利雄	湯田町
〃	千葉周秋	金ケ崎町
〃	後藤幸喜	江刺市
〃	鈴木透	前沢町
〃	菅原峯治	衣川村
〃	渡辺正巳	花泉町
〃	加藤進一	大東町
〃	小野寺一郎	東山町
〃	熊谷肇	室根村
〃	及川文雄	川崎村
〃	石田末男	藤沢町

昭和59年度調査員及び調査担当地区一覧

	氏名	調査担当地区
調査指導員	草間俊一	調査地区全域
〃	司東真雄	〃
調査員	関豊	久慈市、種市町
〃	高田和徳	野田村
〃	昆野靖	山形村、大野村
〃	佐々木勝	川井村、新里村
〃	本堂寿一	普代村、宮古市
〃	中村良幸	山田町、宮守村
〃	畠山篤雄	釜石市、遠野市
〃	村上光一	大船渡市、陸前高田市
〃	高橋信雄	岩泉町、田老町
〃	小田野哲憲	田野畑村、大槌町
〃	熊谷常正	住田町、三陸町
地区調査員	沢里金五郎	久慈市
〃	野田松雄	種市町
〃	小田正年	野田村
〃	清水隆二	山形村

	氏名	調査担当地区
地区調査員	長谷川時次郎	大野村
〃	北田博	普代村
〃	斉藤英樹	宮古市
〃	武田将男	〃
〃	佐藤仁志	山田町
〃	菊池義彦	岩泉町
〃	田沢直志	田老町
〃	佐々木哲夫	田野畑村
〃	田鎖洗馬	新里村
〃	芳門留次郎	川井村
〃	武山利一	釜石市
〃	菊池春雄	遠野市
〃	荻野馨	〃
〃	花石公夫	大槌町
〃	水原義人	宮守村
〃	鈴木満広	大船渡市
〃	村上重吉	陸前高田市
〃	根来功範	住田町
〃	片山三郎	三陸町

調　査　の　結　果

4ケ年の調査によって下表のとおりの城館跡を確認できた。

確認城館数

57年度			58年度			59年度		
市町村	既知ケ所	確認ケ所	市町村	既知ケ所	確認ケ所	市町村	既知ケ所	確認ケ所
盛岡市	20	27	北上市	62	68	大船渡市	11	11
岩手町	17	12	和賀町	16	22	陸前高田市	22	55
雫石町	20	25	湯田町	8	9	住田町	10	10
葛巻町	25	31	江釣子村	7	8	三陸町	8	10
西根町	12	9	沢内村	9	14	釜石市	9	15
玉山村	33	36	水沢市	33	38	遠野市	41	45
滝沢村	4	7	江刺市	82	80	大槌町	3	7
松尾村	8	7	前沢町	15	17	宮守村	15	25
紫波町	46	51	金ケ崎町	20	17	宮古市	32	30
矢巾町	8	10	胆沢町	17	16	山田町	20	22
都南村	11	11	衣川村	12	10	岩泉町	11	10
花巻市	30	30	一関市	45	44	田老町	1	5
大迫町	34	29	平泉町	14	31	田野畑村	7	5
石鳥谷町	21	36	花泉町	42	48	新里村	9	17
東和町	20	22	千厩町	34	52	川井村	9	13
二戸市	25	26	大東町	29	47	久慈市	14	16
一戸町	20	23	藤沢町	32	33	種市町	4	15
浄法寺町	16	23	東山町	8	14	野田村	5	8
安代町	13	15	室根村	18	21	山形村	13	13
軽米町	20	32	川崎村	11	15	大野村	12	12
九戸村	9	17				普代村	5	2
計	412	479	計	514	604	計	268	346
総計			既知数	1,194		確認数	1,429	

目　　次

序
例　言
調査の方法
調査の結果

本　　文

（Ⅰ）関係特論

岩手県の古代・中世の政治動向……3
城・関・館について……6
岩手県城館跡の一類型
—いわゆる蝦夷館について—……9
城館跡等出土の陶磁器……10
城館跡等出土の穀物類……13

（Ⅱ）城館跡一覧表

岩手地区（19～26）、紫波地区（26～29）、花巻市・稗貫地区（29～34）、北上・和賀地区（35～40）、胆江地区（40～48）、西磐井地区（48～53）、東磐井地区（54～61）、気仙地区（61～65）、上閉伊地区（65～69）、下閉伊地区（69～74）、九戸地区（74～77）、二戸地区（78～84）

（Ⅲ）個別記述

（一）岩手地区概観……87
盛岡市（88～94）、岩手町（94～96）、雫石町（97）、葛巻町（98）、西根町（99～100）、玉山村（101～104）、滝沢村（104）、松尾村（105）

（二）紫波地区概観……106
紫波町（107～114）、矢巾町（114～116）、都南村（117～118）

（三）花巻市・稗貫地区概観……119
花巻市（120～122）、大迫町（123～125）、石鳥谷町（126～129）、東和町（130～132）

（四）北上・和賀地区概観……133
北上市（134～142）、和賀町（143～147）、湯田町（148）、江釣子村（148～149）、沢内村（150～152）

（五）胆江地区概観……153
水沢市（154～159）、江刺市（159～164）、前沢町（165～167）、金ケ崎町（168～172）、胆沢町（172～173）、衣川村（174）

（六）西磐井地区概観……175
一関市（177～184）、平泉町（185～186）、花泉町（186～197）

（七）東磐井地区概観……198
千厩町（199～201）、大東町（201～209）、藤沢町（210～213）、東山町（213～217）、室根村（215～218）、川崎村（219～221）

（八）気仙地区概観……222
大船渡市（223～225）、陸前高田市（225～231）、住田町（232）、三陸町（232～233）

（九）上閉伊地区概観……234
釜石市（235）、遠野市（236～240）、大槌町（240～241）、宮守村（242）

（十）下閉伊地区概観……243
宮古市（244～247）山田町（247～249）、田老町（250）、新里村（250～251）、川井村（252～253）

（十一）九戸地区概観……254
久慈市（255～256）、種市町（257～258）、野田村（259～260）、山形村（261～262）、大野村（263～265）、普代村（266）

（十二）二戸地区概観……267
二戸市（268～274）、一戸町（275～281）、浄法寺町（282～284）、安代町（284～285）、軽米町（285～288）、九戸村（288～290）

（十三）岩手県全域概観……291

付図　「岩手県中世城館跡分布地図」
縮尺20万分の1　　一葉

本　　文

（Ⅰ）

関　係　特　論

岩手県の古代・中世の政治動向

調査指導員　草　間　俊　一

大化改新による天皇を中心とする統一国家の形成に伴って、これまで蝦夷のすみかの道奥(みちのく)として、その開発がなおざりにされていた東北地方の開発が積極的に進められることになった。

まず、斉明天皇4(658)年、阿倍比羅夫による秋田方面の経営が始まり、太平洋岸方面の開発では和銅2(709)年に第1回の征討が行われた。その結果、和銅5(712)年には出羽国が置かれ、陸奥国の征討も、開始して15年目の神亀元(724)年には多賀城が建設されるまでになった。

しかし、それ以北の奥地の経営は容易ではなかったもののようで、宝亀11(780)年には、漸く覚鱉城が建設される状態であった。この覚鱉城は、その年に起った伊治公呰麻呂の叛乱によって完全に破壊されたらしく、現在もその所在地について、岩手県内に入った所に造られたものか、宮城県内に留まっていたのか不明の状態である。

このような叛乱が起き、蝦夷地の征討が進まない原因は岩手県の胆沢地方が賊奴の奥区に存在することにあるとして、その地方の征討が進められることになり、延暦7年(788)、朝廷は紀古佐美を征東大使として、5万2千人の大兵を以てその征討に当たらせたが、大敗を喫し、紀古佐美はその責任によって任を解かれた。朝廷は延暦10(791)年、新たに征討大使に大伴弟麻呂、副使に坂上田村麻呂を任命して、10万人の大軍で征討に当たらせたが、未だ十分な成果をあげることができなかったので、延暦16(797)年に坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命して、再びその征討に当たらせた。その結果、延暦21(802)年に胆沢城、延暦22(803)年に志和(波)城の築城となって、成果をあげることができた。しかし、奥地には蝦夷の残存するものがあり、その征討が田村麻呂によって計画されたが、実現をみないで中止された。続いて嵯峨天皇弘仁2(811)年、文屋綿麻呂が征夷大将軍として征討に当たり、爾薩体・閉伊2村の賊を征討することによって、その討伐の事業は一応終了した。綿麻呂は志波城の位置が水害を蒙って適当でないというので、徳丹城を新たに築城した。志波城は、前線基地として、規模も機構も鎮守府である胆沢城にまさるとも劣らぬ規模と機構をもっていたが、徳丹城は、その規模も機構も縮小したものとなり、蝦夷地平定の事業も一応完成したことを物語っている。

軍事的な征討の事業の完了に伴って、内治に重点が置かれ、神社や寺院が建立され、僧侶なども派遣されて、この地方の人心の教化が図られた。また、蝦夷と云われた人々の一部を東国や西国に移住させる一方、関東や中部地方の人々をこの地方に集団移住させて、その開発を促進させることになった。『和名抄』を見ると、郷村名として、磐井郡に丈几・山田・沙沢・仲村・磐井、江刺郡に大井・信濃・甲斐・稿井、胆沢郡に白河・下野・常口・上総・余戸、気仙郡に気仙・大島(高山寺本による)をあげているが、関東・中部地方の人々が移住して村を作っていた一端が知られる。

神社では『延喜式』を見ると、胆沢郡に磐神社・駒形神社・和我叡登挙神社(和賀郡の飯豊神社の錯誤であろう)。石手堰神社・胆沢川神社・止止井神社・於呂閉志神社、斯波郡に志賀理和気神社、気仙郡に理訓許段神社・登奈孝志神社・衣太手神社、磐井郡に配志和神社・儛草神社、江刺郡に鎮岡神社があげられている。

寺院では、『文徳実録』天安元(857)年6月2日の条に「陸奥国にある極楽寺を定額寺に預ける。」とある。極楽寺は、北上市稲瀬にある国見山極楽寺がそれに当たると考えられている。そのほか、水沢市黒石にある黒石寺に安置されている木造薬師如来坐像には「貞観4年12月」の胎内墨書銘があり、当時岩手地方で造られた仏像と見られる点から、黒石寺がこの頃作られていたことを物語るものである。

このほか、和賀郡東和町成島の毘沙門天立像と、その脇にある阿弥陀如来立像、伝吉祥天立像なども古い仏像である。これらは、平安時代の初期開拓期に創建された寺院であると考えられる。また、鉈彫りといわれる丸ノミで作った浄法寺町天台寺の諸仏像などについては、種々異見もあるがこの頃のものと考えたい。

北上川や馬渕川の流域の平地や台地一帯に、奈良時代に蝦夷といわれた人々の集落である竪穴住居跡群が存在するが、それ以上に平安時代の竪穴住居跡群の集落も存在することが最近の調査で明らかになった。なお、花巻市の胡四王山の山頂近くに空堀が三重に周らされ、そこにある平安時代の一群の竪穴住居跡群がそれと関係があるものかどうかは興味のあるところである。

平安時代の半頃、中央政治が弛緩し、地方政治が混乱した際に、武士が勃興し、地方に叛乱が続出したが、岩手県には、この時代を代表する「前九年の役」と「後三年の役」の両乱が起り、源氏の武門の棟梁としての名声を高めた。それがその後、曲折はあったが頼朝の武家政治実現への大

きな力となったのである。

「前九年の役（1051～1062）」は、厨川柵を本拠として、衣館以北の北上川・中流域を支配した安倍氏の叛乱であるが、安倍氏はその勢力が強まると、衣関の以南にも勢力を進出して諸柵を築き朝命に背いた。朝廷は源頼義を陸奥守として、その鎮定に当らせたので、一旦は安倍氏も降伏して叛乱はおさまったが、頼義の任期があけて帰る際に事件が起き、戦乱が再び起った。その平定には、出羽の豪族清原武則の救援があって、漸く戦乱はおさまった。

安倍氏の北上川流域に設けた諸柵の主要なものは、北上川の西岸で、奥羽山脈に発して北上川に流入する支流河川の北岸の台地に、河川を南にひかえた北側に置かれている。つまり、南方からの侵入にそなえたものといえる。それに対して、蝦夷地征討の際に築かれた胆沢城や志波城は、支流河川の南側に設けられ、北方に備える形をとっている。ただし、徳丹城だけは、その必要も無くなっている。

その後、清原氏が出羽の故地とともに安倍氏の支配した奥六郡を支配したが、その一族に内訌が起きたのが「後三年の役（1083～1087）」である。その鎮定は、陸奥守であった源義家によってなされたことが、義家の声望をますます高めたので、朝廷はその声望の高まるのを喜こばず、この戦乱を私の争いとして、その功に報ゆるところが無かったばかりか、義家の陸奥守の任を解いて無官とした。義家は私財を割いて部下の功に報いたことが、武門の棟梁として源氏の声望を確立することとなった。

「後三年の役」によって、清原氏は自滅したが、その後に抬頭したのが藤原氏で、清衡・基衡・秀衡の三代百年の栄華が実現した。藤原氏の初代清衡は、前九年の役に捕えられて惨殺された藤原経清の子であったが、その母は安倍氏の出身であり、後に清原武則の子武貞の妻となったので、その連子として清原氏に養なわれ、清原真衡の没後、奥六郡を清原武衡と二分し（武衡が岩手・紫波・稗貫三郡、清衡が和賀・江刺・胆沢三郡）て治めたが、武衡が清衡の勢力を憎んで、その館を急襲して暗殺を企てたことから、また戦乱が勃発した。両者の争いは義家の救援を得た清衡の勝利となって、奥六郡を清衡が支配することになった。清衡は江刺の豊田館から、奥六郡の関門の平泉に居館を移すとともに、ここに関山中尊寺を建築することになった。これは、長い間の戦乱で戦没した霊を弔うとともに、仏教による文化の華をこの地に咲かせること、併せて奥州ならびに国家の平安を祈念することにあった。この平和主義の文化振興は、その後、基衡・秀衡に引きつがれ、三代百年の文化の華が開くことになった。中でも秀衡は陸奥守と鎮守府将軍にもなり、名実ともに「北方の王者」として君臨した。

この平和な藤原氏の支配も、頼朝の武家政治による全国制覇の前に、秀衡はよく抵抗して、一歩も奥州に手を触れさせなかったが、四代目の凡庸な泰衡はそれに抗し得ず、頼朝の前に滅亡した。

この地方も鎌倉幕府の支配下に入ると、多数の関東御家人が奥州に下向し土着することになった。武家時代には、平安時代からこの地の特産とされてきた馬は、当時の武士の重要な武具の一つであったので、関東御家人はこの地方に多大の関心をもったことが考えられる。

関東御家人の所領拝領についてみると、南部氏が広大な糠部郡を一人で拝領したとか、葛西氏が胆沢郡や江刺郡など広大な所領を拝領して、その下に千葉氏などを置いたなどということは、当時はあり得ないことで、実際には、多くの御家人が独自にそれぞれ所領を拝領し、それも数ケ所に分れていたことが考えられるが、それについての詳述は省略する。いずれにしても、関東武士が各地に土地を拝領するとともに、その地に館を築いて居住することになった。

これらの館が当初から、防衛的な要素をもったものかどうか明らかでないが、鎌倉時代末～南北朝の争乱に伴う戦乱は、各地の武士をして、外敵の侵入を防ぐために、河川を利用した丘陵などの要害の地を選んで館を構えさせることとなっていく。

それは室町時代から戦国時代へと進むとともに、いっそう防衛的要素が整備されていったと考えられる。この戦国の争乱のうちに、北奥の糠部地方は南部氏によって、県南の胆沢・磐井・気仙郡の地方は葛西氏によって一円領知されるところとなり、南部領・葛西領となっていった。その中間の岩手・紫波・稗貫・和賀・上閉伊郡などには、それぞれ一郡乃至半郡を支配する戦国武将が輩出した。戦国時代に各地域がどの武将の配下に入ったかは個別に述べられているので省略するが、各地に土着の武装した豪族が、要害の地に館を設けて、それぞれの地方を支配した。『南部叢書』に収められている「邦内郷村志」に記載されている館跡や『宮城県史』に収められている「仙台領古城書立の覚」にのっている館跡は、戦国時代の各地の豪族によって営なまれたものである。その中で、有力な者ほど規模も大きく、防衛的機能も整備されていたと考えられる。

これらの諸城も、秀吉の天下統一による「一国一城」の方針のもとに、大半は破却されることになった。『盛岡南部

家文書』の「天正18年7月27日付け、豊臣秀吉朱印状」①と、「天正20年6月11日付け、南部大膳大夫分国之内諸城破却書上之事」②は、この間の事情を物語る好資料である。

資料　②　(1)

南部大膳大夫分国之内諸城破却共書上之事

南部之内稗貫郡　鳥谷崎　平城　南部主馬持分
南部之内和賀郡　鬼柳　平城破却　代官鬼柳源四郎
同　二子　平城破　南部主馬持分　代官川村左衛門四郎
同　岩崎　山城破　信直抱　代官藤四郎
同　江釣子　平城破　信直抱　代官川村與三郎
同　安俵　平城破　信直抱　代官中野修理
稗貫郡之内十二丁目　平城破　寺前縫殿助持分
同　寺林　平城破　信直抱　代官佐平治
同　新堀　山城　江刺兵庫持分
同　大迫　山城破　信直抱　代官九日町十郎兵衛
志和郡之内片寄　山城破　信直抱　中野修理持分
同　肥爪　平城破　代官川村中務
同　見舞　平城破　信直抱　代官日戸内膳
同　長岡　平地破　南部東膳助持分
同　乙部　平地破　福士右衛門持分
岩手郡之内不来方　平城　福士彦三郎持分
同　厨川　平地破　工藤兵部少輔持分
同　下田　平地破　川村中務持分
同　沼宮内　山城破　川村治部少輔持分
同　滴石　平地破　信直抱　代官八日町太郎兵衛
同　一方井　山城破　安保孫三郎持分
糠部郡之内姉帯　山城破　野田甚五郎持分
同　一戸　平地破　信直抱　代官石井信助
閉伊郡之内増沢　山城　浅沼忠次郎持分
同　葛巻　山城破　工藤掃部助持分
同　横田　山城破　信直抱　代官九戸左馬助
同　板沢　山城破　浅沼藤次郎持分
同　千徳　山城破　同唐之供留守甲斐守　一戸孫三郎持分
同　田鎖　山城破　唐之供留守兵庫　佐々木十郎左衛門持分
糠部郡之内野田　山城破　唐之供留守岳角蔵　一戸掃部助持分
同　久慈　山城破　信直抱　代官久慈修理
同　種市　山城破　久慈孫三郎持分
同　古軽米　山城破　古佐衛門佐
同　金田一　平城破　信直抱　代官木村杢尉
同　三戸　平地　信直留守居甲斐守
同　名久井　平地　唐之供留守彦七郎　南部中務持分
同　剣吉　平地　唐之供留守彦八郎　南部左衛門尉持分
同　毛馬内　山城　南部大学持分
同　花輪　山城　大光寺左衛門佐持分
同　浄法寺　山城破　畠山修理持分
同　櫛引　平地破　信直抱　代官桜庭将監　(3)

資料　①

豊臣秀吉朱印状　（盛岡　南部氏）

覚

一南部内七郡事大膳大夫可任覚悟事
一信直妻子定在京可仕事
一知行方令検地壱所入丈夫ニ召置　在京之賄　相続候様ニ可申付事
一家中之者共相拘諸城悉令破却　則妻地三戸江引寄可召置事
一右条々及異儀者在之者　今般可被加御成敗候条　堅可申付事

以上

天正十八年七月廿七日　豊臣秀吉（朱印）

南部大膳大夫殿

同　八戸　平地城　唐之供名代弥十郎　南部彦次郎特分
同　中市　平地破　小笠原弥九郎特分
同　新田　平地破　南部彦七郎持分
同　沢田　平地破　恵比奈左近持分
同　洞内　平地破　佐藤将監持分
同　七戸　平地破　信直抱　代官横浜左近
同　野辺地　山城　唐之供留守左近　七戸将監持分
城数四十八ケ所、此内不破城十二ケ所、右之外、猶諸城有之者、此判形之者共江、可レ被レ加二御成敗一者也。

天正廿年六月十一日　南部主馬助直愛
中野修理直康
南部東膳助直重
南部彦七郎正永
南部左衛門尉信愛
南部帯刀助義質
八戸彦次郎直栄

乾源太郎殿

南右馬助正愛　(5)

速見勝左衛門殿

城・関・館について

調査指導員　司　東　真　雄

城

岩手県における古代の城は四城ある。いずれも国(政府)によって造られた城である。

一は、延暦21（802)年、坂上田村麻呂将軍によって作られた胆沢城であり、多賀城から鎮守府が移された。すなわち胆沢城には、行政府と鎮守府の両様の機能があった。八丁四方の築地塀の内部に、政庁域や官衙域が設けられ、律令制に則った統治を図っていたのである。また、その一環として、この地方を方位で企画した可能性がある。たとえば真南二里半の明後沢に高大寺、真北二里半の門岡村に北大寺、東二里半の軽石村に高大寺、西二里半に十条院（後の永徳寺）を建て、五里四方を府内としていたのではなかろうか。検討に値する課題であろう。

鎮守府としては、南の高大寺を遠見寺とも呼んでいた可能性がある。胆沢郡の南端衣川村と、北大寺の上の山を国見山と呼んでいるが、展望がきくところからして軍事上の要地であったことの反映かとも思われる。

また、倉沢村(大同元―806―年に、胆沢郡を割いて江刺郡を置いた)、白鳥村(前沢町)、小山村・若柳村(胆沢町)の4ケ所に「方ハ丁（囲)」という地名が残っていることはそれらに鎮兵の支団地が置かれた可能性もある。

江刺市の鶴脛と三照の曲り角の台地に「伝城（蔦木)」という地名が存在することは、ここに烽火櫓があったことを示すとも考えられるし、同様の地形である田茂山(羽田町)百岡（金ケ崎町)、片岡（岩谷堂町)、岩城(門岡村岩脇)などには連絡の櫓が存在した可能性がある。鎮守府の防備の陣をなしていたものであろう。

伝城と片岡には土塁・堀跡と思われるものが存在し、伝城からは金環を表採し、片岡からは布目瓦・曲玉等が採集された由であるが、その証佐とも考えられよう。

二は、延暦22（803)年、坂上田村麻呂によって造られた志和（波）城である。胆沢城と同じく南二里半に高水寺(矢巾町、旧高清水村)があるし、雫石川から水を引いて城内に田園を開いて、現地人への生活文化の改善指導にも力を注いでいた可能性がある。未だ郡も置かれていない段階で、開発を先行させていたのであろうが、度々の水害で城として不適地となり、兵千名を残して、南方の北上川に近い徳丹へ城を移すことになる。

三は、弘仁4（813)年、文屋綿麻呂が造った徳丹城である。この城も胆沢城と同様に、その内部に田園をもっていた可能性があるし、和賀郡黒沢尻村と稗貫郡宮野目村に残る「方ハ丁」という地名は、この城の支軍団の名残りの可能性がある。また、南方の城山、西方の煙山という地名も烽火櫓等の施設の反映とも考えられよう。

四は、嘉応2（1170）年、藤原秀衡が鎮守府将軍に任じられた時、胆沢城の鎮守府へ赴任せず平泉へ鎮守府を置いたとされる。平泉の祇園社と三日町の間に「囲」という地名が残っているが、あるいはここであったかもしれない。完成しても源頼朝によって破却されたとみえ、地名にのみ「囲」が残ったものであろうか。

次に触れておきたいのは、宝亀11（780)年に、胆沢の賊を討つために造られた覚鱉城についてである。その擬定地は先学により数多く示されてきているが、金ケ崎町の鳥海柵跡を含む地域もその一つであろう。

天喜5（1057）年、安倍頼時が戦死した鳥海柵の周辺で、奈良時代遺構のある西根遺跡である。過去の学術調査で8世紀代の提瓶が出土しており、また堀・土塁等も残存する。

この城は広い地であったとみえ、胆沢城の東北隅に「カクベツ」の地名が残っている。「鱉」は泥亀のことである。古代は亀を奇瑞の兆としていた。北上川辺に現在でも生息している。当時この辺へ大泥亀が出たので柵名と地名も覚鱉となったのでもあろうか。

天平9（757)年、大室駅から和我君へ従った帰服の現地人がこの地へ土着し、故地名で鳥海村とし、その子孫達を造成の人夫として竣工したものとも考えられる。

この年、多賀城から紀広純将軍が覚鱉城に合流し胆沢の賊を討つ計画であった。ところが、伊治城に入ったところで伊治公呰麻呂に殺されてしまう。そのために、覚鱉城も4ケ月で幻の城となってしまった。

擬定地についての検討課題として提起しておく。

関

岩手県には、軍防令による関門が二時期にわたって置か

れた可能性がある。

一は、元慶の乱の際である。陸奥国津軽郡の現地人が反乱をおこし、出羽国秋田城と近郊を潰滅させた。勅命で鎮守府から二千の兵を送ったが、兵達は二回にわたって逃亡を企てた。津軽から、反乱をおこした人々が胆沢城へ向かって来るとの情報が入ったことは当然考えられる。

元慶4（880）年、鎮守府将軍は胆沢城を守るために胆沢郡外に関門を設けたのではなかろうか。その候補地として旧江刺郡広瀬川の北岸、東海道筋の内倉沢がある。昭和24年農作業中に9世紀代の土師器杯が出土し「關」の墨書文字が見られた。これは関上の門の意味である。この辺は関の下の地名である。その上に三関村、二関村、一関村があり一関村には柿木という地名もあり、関兵を配した「垣の柵」の名残りとも考えられる。

磐井郡にも一関村、二関村、三関村があり、三関村の丘上には館跡も見られ、兵を置いた場所と考えられる。

二は、永承6（1051）年、陸奥国司藤原登任が、押領使安倍頼良を討伐するため、衣川村に関を置いた際であろう。六郡のうち、その子供達へ与えていた柵と、一族を置いている柵との分断策であったろう。関役人には藤原経清、平永衡を置き衣関といった。衣川要害に本拠のある安倍頼良の娘二人は共に関役人の妻になっていた。経清の妻に生まれたのが清衡である。

康平5（1062）年、衣関は破却され、行政区も磐井郡平泉村へ替えられた。その関所跡へ、天治元（1124）年、多宝寺、中尊堂、金色堂、経蔵などが建立され、基衡の時期の保延6（1140）年には中尊寺一山となったものであろう。

柵

柵は、多賀柵、桃生柵、覚鱉柵など、城に改められる前から存在した。

河岸段丘上に、太柱の上部を削って尖らし、少し埋め、土を盛り土塁とし、柵列の囲いとした。内側は2～3の郭に仕切る。郭と郭をつなぐ土橋も造られた。

典型的な例は、安倍氏の鶴脛柵跡に残存したという。当時は柵の直下を北上川が流れていたらしく、北上川西の段丘は土塁、土塁の内側は空堀で道となっており、郭が3つ続き、両側に溜池があり、裏手には柵を守るかのように長い水田となっていたという。

隣村の三照村の比浦柵も郭も構造が類似していたといわれ、東端は10間ほどの深い沢となり、北側の柵下は1間毎の丸太の柵であったという。西側の郭の切れ目の一部は、現在でも照岡小学校側から見ることができる。

この2柵は、あるいはセットとして存在した可能性がある。同様に、瀬原柵と白鳥柵（卯木）、鳥海柵と白糸柵（金ケ崎町諏訪神社周辺）、黒沢尻柵と鶴渡柵（小鳥崎）、厨川柵と嫗戸柵なども、いずれもセットをなしている。

『前太平記』に、安倍氏の諸柵の記述が見えるが、磐井柵（柵の瀬の柵か）、瀬原柵、大麻野柵、鳥海柵、鶴脛柵、比浦柵、比与鳥柵、厨川柵、嫗戸柵、その他とある。黄海柵、小松楯、黒石の安倍柵などがその他のうちであろうか。卯木というのは、卯の花の咲く空木の垣か。鬼柳町の卯木からは11世紀の土師器片と碁石10個が出土している。

館

館とは狭い城のことである。範囲は大であっても小であっても守りの拠点としての形をなしているので館といった。建物を含む楯である。大館、小館、東館、西館、上館、下館、一の台、二の台などとセットで存在したと考えられる館名も多く見える。

沼館、漆立（漆の割木の柵列か）、柿木（垣の城）、梅木（埋木の柵か）、卯木（空木の生垣か）などは情景、地形からした館名であろう。

築館は自然の台地を、守備に適したように加工した館であり、城輪、箕輪、月輪、樽柵などは守備の陣形を名称とした営地である。

要害には二種ある。一は、無建物、平常時には人がいない砦で、金ケ崎町永徳寺への途中に存在したという。陸前高田市の両替は、気仙方言で要害のことである。上に館跡があり神社になっている。

二は、館の建物を守るため周囲までの堅めを含んでいるものである。『前太平記』に「安倍頼良は衣川の要害に住していた」とあるのは、周囲の堅めまで含んでいたのである。

陸前高田市竹駒町の壺館、江刺市石関の茶臼城、臥牛城、柄杓城などは、その形状からの命名である。

斉羽場城は弓矢練習場が城になったものと考えられる。

岩脇は、岩が屏風のようにそそり立っている丘の上に占城した城、即ち岩城であろう。

岩崎城は、北上市黒岩と和賀町にあり、いずれも舌状台地上に立地した城で、地質からの命名であろう。

兵部館、内膳館のように、館主の名で呼ばれる城もある。

須々孫城のように、地名そのままを城名とし、城主もまた前姓を棄て、地名を以って新姓としたものである。

館名は忘れられているが、稗貫郡太田の昌歓寺、雫石町広養寺、江釣子村江釣子神社、川崎村浪分神社のように、その跡と考えられる地が社寺となっている所もあり、金ケ崎町法雲寺、陸前高田市光照寺、気仙町金剛寺のように墓地一帯が南北朝期の館跡と考えられる地もある。和賀町藤根の稲葉神社の地は安倍館と呼ばれるが、館主は不明である。

江釣子城や平泉町花館の如くに校地等になって詳細不明となっているところ、北上市二子城や大東町猿沢館のように公園化しているところもある。

花泉町二桜城、朝日館、紫館は景による雅名である。

向城といってセットを思わせる名称もあるが、角懸城のように向城がありながら忘れ去られている地もある。

一見孤立した館のように見えるが、現地へ行ってみると「見張る」とか「伝える」ための施設が併存していることが多く、これらを組みあわせて館が成立していると考えるべきであろう。仙台博物館蔵の「仙台領内城要害図」という絵図面には、館の位置はもちろん、見張りの山も記されている。これこそ、館や城の実相を示していると見るべきである。

馬場先という地名も多い。羽場の地名と同様に付近に館が存在することを思わせる。館と結びつけて考えるべきものである。

次に時代性についてふれよう。平安時代初期の城は、すべて低地に築かれている。胆沢城は胆沢川から、志和(波)城は雫石川から、徳丹城は岩崎川からそれぞれ水を引き、城内に堀をもち田園を耕した可能性がある。

平安時代も中期になり、安倍氏が磐井、胆沢、江刺、和賀、稗貫、斯波6郡の押領使（管理者）になると、領地を多く所有するようになり、北上川沿岸中心に、段丘上にブロック型の柵を設けた。東館、西館という型は安倍氏の柵に準ずる館と思われ、古い形式に属しよう。

藤原清衡が豊田城に住したころまでは、たとえ舌状台地であっても、段丘上に単式のブロックの城の形式をとる。

秀衡の頃になると、平泉の判官館のように丘頂部にも館が構えられることも見え始める。

なお、安倍氏時代には小松楯と書かれた字も、しだいに館と記されるようになってくる。

鎌倉時代から山城が出てくる。また、地頭の館を城と呼び、支城や重臣の居所もすべて館と呼んでいた。地形に従い、あるいは戦略上変化のある館が見られるようになる。

古い山城は「帯」という浅堀の道が二段めぐらされることが多い。

鉄砲が導入されると高い土塁となってくる。大原飛騨守の如くに、かって藤原清衡が築いた新山寺廃寺の跡地を利用し、新山城とした例もある。

県南部地方は、石巻（宮城県）に本城をもつ葛西氏のもとの千葉六党によって、磐井、気仙、胆沢、江刺が分割支配され、党人各々がさらに村々に家臣を配し、馬上侍も各々館をもち有機的結合を図った。

戦国時代末期になると、鉄砲による防禦による構えで、本丸、二丸、三丸、内堀、枡型の型ができてくる。

堀は古代からあるが、薬研堀は馬が足を折るように掘られ、戦国時代末以降の堀は灰や泥で深く水をたたえるようになった。

二重の櫓門は、窓から鉄砲を持つ建物となった。花巻市鳥谷ケ崎神社の門は、かっての和賀郡二子城の大手門である。

江戸時代になると、盛岡城のように大名の城として、本丸に天守閣、二丸、隅櫓、堀、惣門、内丸という構えとなった。

花泉町湧津・金沢、気仙町今泉、前沢町、岩谷堂町のように、町割の中に枡形が見られるところもあり、戦略的には敵にとって迷路となっている。江刺市野手崎の小梁川氏の館のように、幕府の許しを得て惣門内に枡形を置き、出陣の際、隊の人数を目算するほか、攻撃された場合の迷路としたものや、また望楼の地に祖霊社を建てる例もある。

遠野市の南部氏支城について珍しいのは、瑞応院本堂の建築である。広廊下と内陣は鴬張りであり、殿様の御座間は襖が忍び返しであり、殿居侍の密詰所になっている。

水沢市正法寺は、太閤代官として胆沢、江刺郡仕置に来た石田三成の本陣であり、和賀郡では浅野弾正が光林寺を本陣としたが、瑞応院のような本陣建築ではなかった。瑞応院本堂は今は幻となってしまった。おそらくは、京都桃山伏見城の御座間の模倣ではなかったかと思われる。

以上、城館調査等に関連した留意点について簡単にふれてみた。胆沢城の府内観、点在する方八丁の解釈、烽火の存在、覚鱉城の擬定地、関門の存在、地名の解釈等には多くの仮説を含んでいるが、今後の検討課題の一つを提示したいとの意図のもとに、あえて記述したものである。

岩手県城館跡の一類型

―― いわゆる蝦夷館について ――

調査員　本　堂　寿　一

東北地方の古代城柵については、律令国家が設けた城柵・官衙と、「前九年・後三年の両役」の時代の柵が知られている。前者については、発掘調査によってその実態が徐々に解明されつつあるが、後者については不明な点が多く、その発展過程についてはまったく究明されていないのが現状である。

にもかかわらず、この東北地方には城柵・官衙や柵に対応するものとして、蝦夷自身の城郭、すなわち「蝦夷館」というものの存在が伝承されてきた。こうした伝承は先住民に対する推量から生じ、古代とか中世とか時間的序列の詮索を必要としない昔語りであった。

ところが、これに学問的見解が加わって「チャシ」というアイヌ語が付され、加えて中世城館との区別がつけがたいために、構造単純で小規模な館（タテ）の前身がチャシと考えられるにいたった。しかし、未だに外観構造による推定に依存しており、解決をみていない。

この問題は発掘調査によって解決するより方法はないわけであるが、これまでの成果を基礎として、ある程度の仮説をたてることはできる。

館跡の構造が単純だとか、小規模だとか、人里離れた山間部に所在するとかの理由で、蝦夷の館跡とするのは誤りであるが、囲郭内に竪穴式住居跡が群在したり、囲郭施設が存在しなくとも、きわめて生活不便と思われる高所にそれらが存在する場合、その集団の防禦的立地かと思われる場合もある。ただし、この場合も、竪穴式住居跡と囲郭遺構が同時存在であるという確証は無いし、生活不便とはいっても、生産様式の違いによっては、人々の行動範囲も異なってこようから、いちがいに断定はできないわけである。

東北地方において、在地民の古代城柵としてその実態が明らかにされた例に、秋田県横手市所在の大鳥井山遺跡がある。そのほか、岩手県では、一関市泥田山遺跡や、岩手町沼館遺跡のように、堀跡内部から平安時代中期以降の遺物類が検出された例もある。しかし、文献上明らかな盛岡市厨川柵跡や、金ケ崎町鳥海柵跡、紫波町比爪館跡、平泉町関山中尊寺を含めて、当時の遺物検出はあっても防禦施設の遺構は明確にされていない。

大鳥井山遺跡は、横手川右岸の段丘状丘陵部に所在し、通称大鳥山、子吉山、台所館という地形的区割からなる三館で構成されている。これらのうち発掘調査されたのは子吉山の約2haであるが、空堀に沿う柵列のほかに、浅い住居様竪穴遺構と掘立柱建物跡がセット関係にあるかのように、数ブロックで確認されている。それぞれが家族単位的であり、これらが全域に広がっているとすれば「集落保塞的」遺跡ということができる。すなわち、この大鳥井山遺跡に限ってみれば、弥生時代の環濠集落と中世の城館との中間的な要素が認められるのである。

大鳥井山遺跡は、大鳥太郎頼遠の居館、大鳥井柵と通称され、その造営年代は「後三年の役」の合戦と発掘遺物から、11世紀中葉を盛時としている。そこで注意されねばならぬ点は、この年代に至った仙北地方や北上川流域では、竪穴式住居から多くは掘立柱住居に移行していると考えられることである。したがって、それ以北の地方において、今もって明確に窪んでいる竪穴式住居跡も、それ以前か、逆に中世の住居様竪穴遺構である可能性も考えられるわけである。

平安時代の竪穴式住居跡が内在する館跡で、広大な面積が発掘された例に、秋田県鹿角市の乳井遺跡や、青森県大鰐町の大館遺跡がある。しかし、これらの調査報告書でも竪穴式住居跡と囲郭した堀との同時性は明確ではない。

以上のほかに、擦文期の竪穴住居跡と囲郭する堀が同時だという青森市蓬田の大館遺跡があるが、この例のほかに同類を求めることは、今のところ困難である。

以上のほかに、囲郭施設は伴わないが、登降困難な山頂部や丘陵斜面に竪穴式住居跡が分布する例も多い。たとえば、岩手県西根町子飼山遺跡は、谷底からの比高100 m以上の高所であり、狭い山頂部に4～5棟の竪穴群がある。

また、その北西約3kmの、同町暮坪遺跡は、比高約80mの丘陵状台地で、数10棟の竪穴群が存在する。

いずれも丘陵基部はほぼ同レベルで奥地へと続いているが、谷の傾斜は急であり、その登り降りは困難で、飲料水の確保等から考えれば、近谷秀雄氏が主張するように、高地性防禦集落なのかもしれない。しかし、この場合も、生産圏がさらに高地にあり、竪穴群のある尾根突端から基部にかけて、平地から高地への道に当っていることも考えられる。

こうした山間集落跡は、現在のところ、北上川中流域から北部にかけて多く報告されているが、県北部においてはかなりの高所や傾斜面に構えられた集落跡の発掘例も増加している。これらについても防禦施設が付帯されているのであれば、その立地的性格を規定できるのであるが、その

度合いは感覚的に判断せざるを得ない段階にある。

防禦の必要度は、社会の未組織的段階ほど高いわけであるが、防禦施設の出現と兵の組織化は一体的なものでありその実体化は一定の発達段階にあることは城郭史からいって明らかである。

蝦夷（俘囚）を対象として考えれば、元慶２（878)年の乱などからして、北奥の集落民は、きわめて兵的性格を帯びた段階にいたっていると想定される。しかし、その組織化は安倍氏や清原氏といった大族長に淘汰される過程にあり、そうした中の拠点的集落こそ防備の必要性が高かったと考えられる。『陸奥話記』などからすれば、その数は地侍の数ほどあった中世城館の比ではなく、領主的居館として定型化していなかったことが予想される。

城館跡等出土の陶磁器

調査員　昆　野　　靖

岩手県内における古代から中・近世にかけての出土陶磁器は、90余りの遺跡で確認されており、発掘調査遺跡の増加と相俟って、各種の資料が漸増している。従来、陶磁器の出土遺跡は、主として経塚・墳墓・寺院跡等であったが城館跡や集落遺跡からの出土例が増加し、国産品のみならず多様な舶載陶磁器が広汎に分布していることが明らかとなり、さらに官衙・城柵跡においても新たな資料が発見されている。

１．官衙・居館跡等の陶磁器

平安時代から鎌倉時代にかけての陶磁器は、官衙・城柵、居館、寺院、経塚、集落等40余の遺跡から出土している。

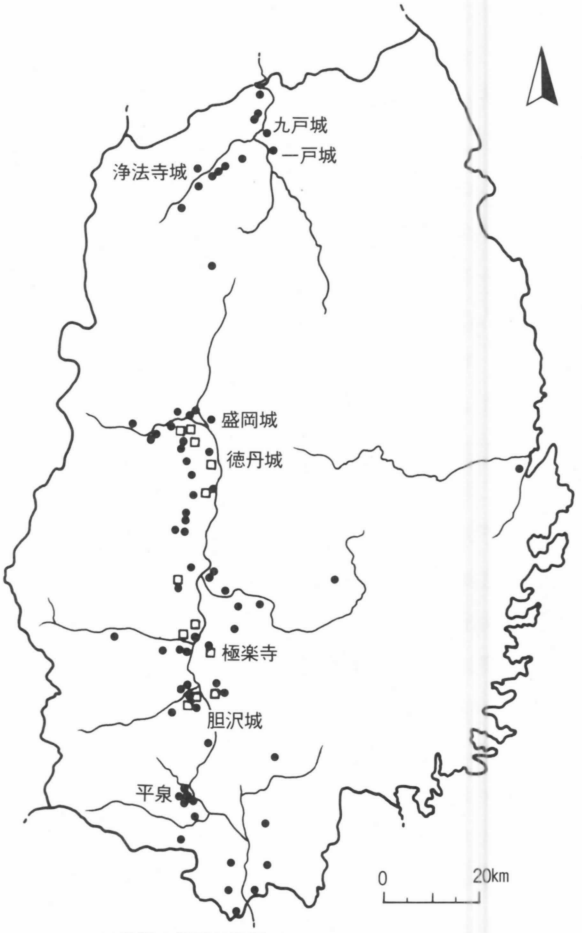
延暦２（802）年の造営とされる水沢市胆沢城跡からは９世紀後半から10世紀前半の施釉陶器及び舶載磁器合せて400余点が発見され（註１)、弘仁２（813）年に志和城から移転造営された矢巾町徳丹城跡からは、緑釉瓦や灰釉陶器が出土している（註２)。前者には畿内産の緑釉陶器、東海産の灰釉陶器があり、碗・皿・瓶・壺・香炉等が含まれる。また、中国産磁器には越州窯系青磁碗・皿・鉢・邢州窯系白磁碗･皿等20点があり、いくつかに器形分類される。

官衙跡のほかに、10～11世紀の施釉陶器を出土する遺跡には、北上川流域の集落遺跡（註３）と「定額寺」とされる北上市極楽寺跡（註４）がある。いずれも畿内・東海産の緑・灰釉碗・皿・壺等が１～２点出土しており、分布状況とともに注目されるものがある。

奥六郡を支配した安倍氏の柵のうち、鳥海柵擬定地の金ケ崎町鳥海Ａ・Ｂ遺跡と、これに隣接する西根遺跡(註５）からは、常滑焼や渥美袈裟襷文壺など、12世紀の東海産瓷器系陶器が出土している。

平泉藤原氏に関連する遺跡では、藤原清衡・基衡の居館と伝えられる平泉町柳之御所跡から、在地産の土師質土器や須恵器系の壺とともに東海産の施釉陶器、中国産の陶磁器が多量にみられる。東海産には常滑壺・三筋壺・鉢、渥美袈裟襷文壺等があり、舶載品には同安窯系青磁櫛描文碗竜泉窯系青磁蓮弁文皿・瓶、青白磁合子・梅瓶・水注、白磁碗・皿・鉢・四耳壺・梅瓶、褐釉壺等各種に及び、第16次調査までに東海産瓷器系陶器 560 点、須恵器系陶器70点、輸入陶器80点余りに達している（註６)。土師質土器に比して出土点数が少ないが、毛越寺や中尊寺･周辺の遺跡（註７）から出土する陶磁器組成に共通する点が多い。

そのほか、藤原清衡の平泉移転以前の居館とされる江刺市豊田城跡（註８）から、白磁櫛描文四耳壺が発見され、清衡の子清綱の居館紫波町比爪館跡（註９）には白磁玉縁碗・水注等が出土している。また、東和町丹内山神社経塚（註10）に白磁四耳壺が湖州鏡とともに出土する（註10）



陶磁器出土主要遺跡分布図

など、12世紀後半には中国産磁器が北上川流域に広く搬入されていることが推測される。また、東海産の陶器は、浄法寺町天台寺経塚等馬渕川支流域（註11）にも及んでおり宗教遺跡を中心に同様の経路を経て浸透していることが指摘されるが、なお限られた受容段階が推測される。

2．城館跡等の陶磁器

鎌倉時代以後中世の陶磁器は、平安時代末期から存続する居館跡等を含めて26遺跡から出土している。しかし、中世前半の遺物は全体的に少なく、室町～戦国時代の陶磁器は著しく増加し広汎に分布する。

13～14世紀では、源頼朝によって本領安堵された清綱の子俊衡の居館比爪館跡に竜泉窯青磁筒形香炉、柳之御所跡に常滑壺、瀬戸四耳壺、竜泉窯系青磁皿・花瓶等（註12）がある。ほかに、花巻市古館遺跡（註13）に同青磁花文貼瓶、水沢市膳性遺跡（註14）に青磁碗、青白磁唐草文梅瓶が出土している。

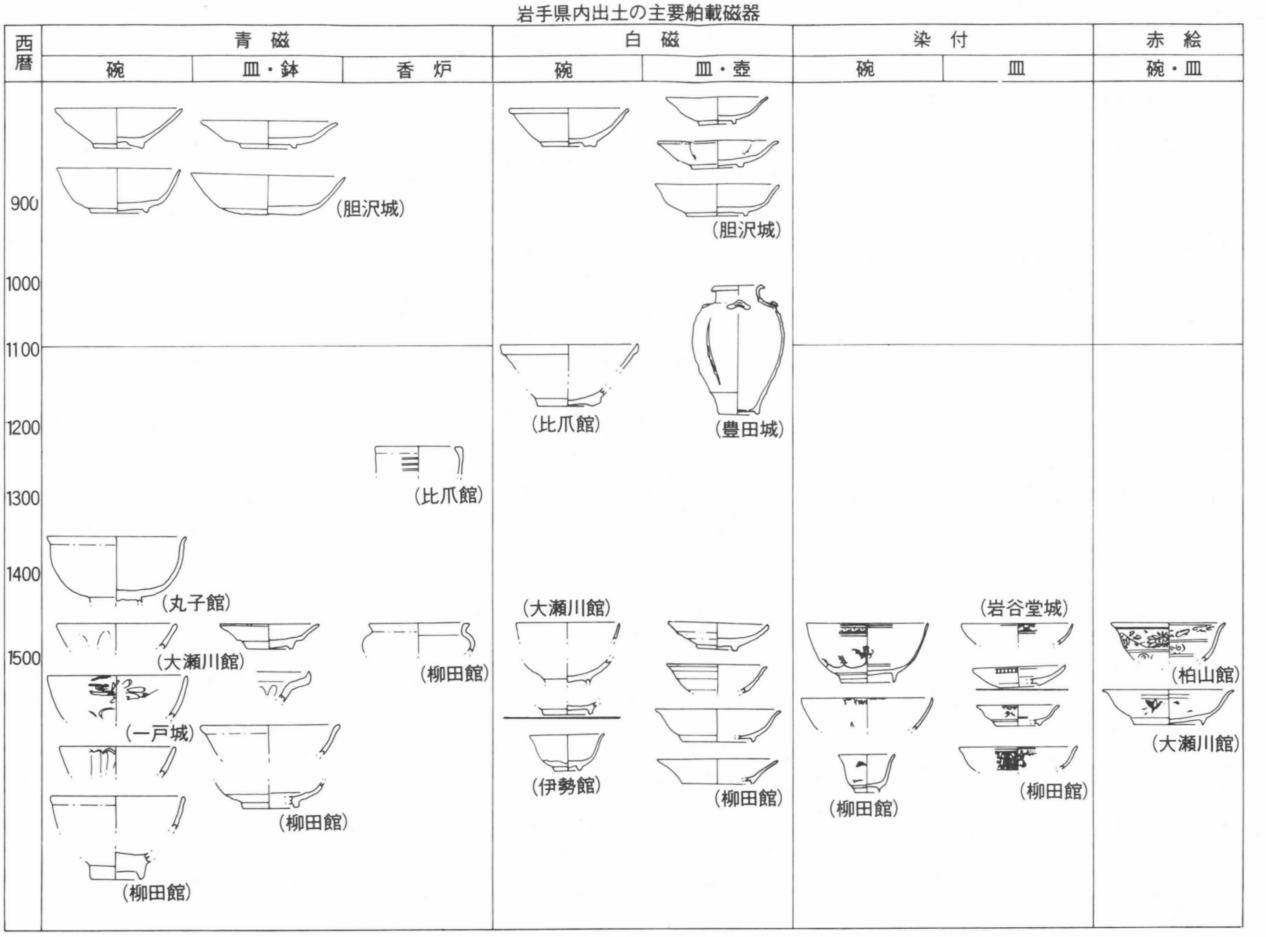
14世紀後半から15世紀にかけては、和賀氏の臣鬼柳氏の居城とされる北上市丸子館跡（註15）から、瀬戸黒褐釉壺・灰釉瓶・碗・皿、美濃天目碗等の国産品と青磁無文碗・皿、白磁皿等の舶載品の出土があり、豪族屋敷跡の繋Ⅲ遺跡（註16）には、瀬戸灰釉卸し皿・折縁深皿・瓶等の東海産灰釉陶器と輸入品の青磁碗、白磁碗がある。いずれも若干の地方窯陶器を伴っている。

15世紀後半から16世紀の陶磁器は、城館遺跡を中心に著しく増加する。北上川本・支流域には、紫波町柳田館（註17）、石鳥谷町大瀬川館（註18）、北上市鹿島館（註19）、和賀町岩崎城（註20）、江刺市岩谷堂城（註21）、金ケ崎町柏山館（註22）、大東町伊勢館（註23）、千厩町牧の巣館跡（註24）等があり、馬渕川流域では、一戸町一戸城（註25）、二戸市九戸城（註26）、沿岸の宮古市金浜館跡（註27）等があげられる。出土点数に多少があるが、主として瀬戸・美濃の東海産施釉陶器と、中国陶磁器・朝鮮陶器であり、在地産等の陶器が散見される。

国内産の施釉陶器には、瀬戸灰釉皿・卸し皿・鉢・耕・褐釉壺、美濃灰釉碗・皿等のほか、天目茶碗・茶入・茶壺などの喫茶用具、水滴等の文房具類があり、中国産青磁を雛形とする灰釉線描蓮弁文碗・皿などが多い。また、常滑甕、殊州系擂鉢、土師質皿・香炉・火鉢等がみられる。

中国明代の陶磁器では、青磁無文碗・雷文帯碗・線描蓮弁文碗・陵花皿・菊花皿・盤・袴腰香炉・酒会壺、白磁碗・皿・盃・水注・梅瓶、染付碗・皿・盃、赤絵皿等がある。白磁皿には切高台皿・内湾皿・外反皿・端反皿、染付皿には内湾皿・端反皿・碁筒底皿があり、器形や口径の大小など器形の異なる碗・皿類が混在する。また、染付碗・皿に

岩手県内出土の主要舶載磁器



描かれる文様には、牡丹唐草文、草花文、蕉葉文、渦状文、玉取獅子文、十字華文、雷文、菱格子文、折枝文、人物文寿字文等があり、「福」や「大明年造」等の銘をもつものが含まれる。これらの大部分は食膳用具であり、大型品や優品はほとんどみあたらない。

16世紀末から17・18世紀における陶磁器は、柳田館、伊勢館、牧の巣館、九戸城跡（註28）等の中世末期からの城館遺跡に若干の出土があり、その大部分は国産品によって占められる。唐津灰釉皿、唐津系青緑釉皿、志野皿、美濃灰釉皿・天目碗、伊万里染付碗・皿・青磁碗・皿等があり、しだいに伊万里系染付碗・皿や東海産の陶磁器とともに在地窯雑器が増加している。輸入品では中国清代の染付皿が認められるにすぎない。

そのほか、18世紀後半から19世紀末までの遠野南部家27～32代の墓所出土の陶磁器40余点等、墳墓から出土する陶磁器がある。

3．城館跡出土陶磁器の特徴

古代における陶磁器は政治的要因に負うところが大きいが、中世城館跡出土の陶磁器はその組成や特徴によって大別4期に分けられる。

前期の12～13世紀は、圧倒的な比率を占める土師質土器に東海産の瓷器系陶器、須恵器系陶器、舶載陶磁器を伴う段階である。前者には壺、甕、鉢があり、その大部分は常滑・渥美産の壺である。後者では青磁碗・皿、白磁碗・壺のほか、青白磁の合子等若干が含まれるが、白磁が舶載品の60%以上を占め、碗に比して四耳壺が多く、器種が限定される傾向がみられる。

中期の14～15世紀は、舶載品が減少するなど全体に希薄になるが、青磁の大型品や優品が散見される。国内産では瀬戸灰釉碗・皿・瓶、美濃天目碗等の施釉陶器、珠洲系擂鉢や地方窯甕・壺等の無釉陶器があり、瀬戸灰釉陶器が主体をなす。舶載品では青磁碗・皿・瓶・壺、白磁皿があり、しだいに飲食品等の小型品が増加する。

後期の16世紀には多種多様な陶磁器が多量に搬入され、ことにも舶載品が国内産を凌駕する。国内産には、瀬戸・美濃灰釉碗・皿、天目碗、常滑甕等のほか、文房具・茶器等の施釉陶器があり、美濃灰釉碗・皿が著しく多い。土師質土器には香炉や火鉢等があるが、中期と同様きわめて少量である。舶載品は青磁、白磁、染付、赤絵の碗・皿・盃、褐釉壺等であり、大量生産される小型品の食膳用具がほとんどを占める。

末期の16世紀末から17世紀前半にかけては国産品に転換する過渡期と解され、輸入陶磁器が途絶え、国産の唐津灰釉皿、美濃・志野皿等があるが、絵唐津や美濃折縁皿など未確認の資料も多い。

県内における城館出土の陶磁器は、武士階級の成長とともに浸透し、御家人層からしだいに「館持」武士階級を中心に受容される過程と把えられる。舶載品の輸入量が増大する第3期はもっとも受容層が拡大する段階であり、その内容は土師質土器の減少や国内産製品の産地別比率の相違等、特異性も指摘されるが、国内状況に共通する点が多い。

註1　水沢市教育委員会　1984　胆沢城跡　昭和58年度発掘調査概報
　奈良県立橿原考古学研究所附属博物館　1984　奈良・平安の中国陶磁ほか
2　矢巾町教育委員会　1984　徳丹城跡　昭和58年度発掘調査概報ほか
3　伊藤博幸　1984　岩手県考古学会発表資料ほか
　岩手県教育委員会　1979　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ
4　北上市教育委員会　1972　北上市極楽寺跡
5　岩手県教育委員会　1981　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅹ
6　平泉町教育委員会　1983　柳之御所跡発掘調査報告書　第11・12次発掘調査概報ほか
7　岩手県教育委員会　1980　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅴほか
8　江刺市　1982　江刺市史　第5巻
9　紫波町教育委員会　1983　比爪館遺跡　第6次発掘調査報告書ほか
10　東和町教育委員会　1961　東和町丹内山神社経塚発掘調査報告ほか
11　板橋　源　1959　天台寺土踏まず丘発掘記　岩手史学研究所収
12　平泉町教育委員会　1984　柳之御所跡発掘調査報告書　第13・14・15・16次発掘調査概報
13　岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　1986　埋蔵文化財調査略報　昭和60年度
14　岩手県埋蔵文化財センター　金ケ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ
15　北上市教育委員会　1983　丸子館遺跡発掘調査略報　北上市立博物館研究報告　第4号所収ほか
16　岩手県埋蔵文化財センター　1980　御所ダム建設関連遺跡発掘調査報告書
17　岩手県教育委員会　1980　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ
18　同　1981　同Ⅷ
19　北上市教育委員会　1975　鹿島館遺跡調査報告書Ⅰほか
20　和賀町教育委員会　1967　平安初期郡衙遺跡　岩崎城の発掘
21　岩手県埋蔵文化財センター　1984　埋蔵文化財発掘調査略報　昭和58年度
22　同　1983　館山遺跡第2次発掘調査報告書
23　大東町教育委員会　1984　伊勢館遺跡発掘調査報告書
24　千厩町教育委員会　1981　発掘調査
25　一戸町教育委員会　1982　一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱほか
26　二戸市教育委員会　1985　表面採集遺物ほか
27　岩手県埋蔵文化財センター　1985　岩手の遺跡ほか
28　二戸市教育委員会　1983　橋場（九戸城跡）遺跡発掘調査報告書
29　遠野市教育委員会　1978　遠野南部家墓所改葬調査概報ほか
30　岩手県教育委員会　1982　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XVほか

城館跡等出土の穀物類

調査員　高　田　和　徳

岩手県内で穀物（籾痕を含む）の出土した遺跡は、現在まで44に達している(注１)。時代毎の内訳は、弥生時代５、古墳時代３、古代（奈良～平安時代）20、中世11で、時代不明が５となる。古代のうち、奈良時代まで遡るのは２しかなく、平安時代が大半で17を数えており、県内では平安時代になり穀物の出土例が急増していることを示している。

平安時代の遺跡は、調査例そのものが、他の時代に比較して多いことにもよるが、弥生時代から奈良時代までの出土例がいずれも籾痕で、穀物そのものが出土していないことや、平安時代以降、籾のほかに大麦・小麦・小豆・粟・などの穀物を伴っていることから、あるいは生産力が向上したことを裏づけているのかもしれない。中世になると、大半が城館跡からの出土であり、城館跡では調査例に比較し、その頻度が高いこともその特徴となっている。

以上の遺跡は、小田島禄郎により報告された浄法寺町銭瓶平、岩手町竹花遺跡のように、戦前に調査されたもの(註２）もあるが、ほかはいずれも戦後の調査によるもので、しかも昭和45年以降の大規模開発に伴う調査で出土したものが多い。

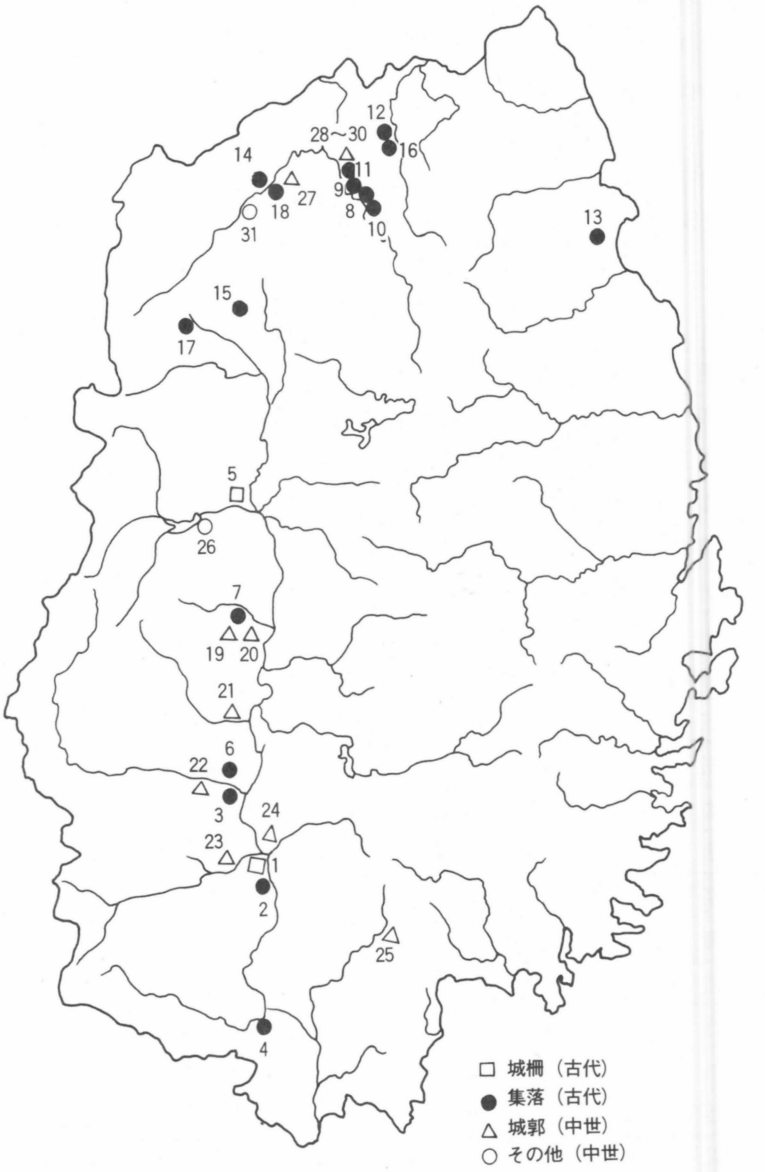
付表　岩手県内出土の穀物類について(平安時代以降)

No.	遺跡名	種別	所在地	時期	出土穀物の概要	調査年度
1	胆沢城	城柵	水沢市佐倉河字渋田	平安(９C)	籾（掘立柱建物跡柱穴）	昭和29～31年
2	真城雷神	集落	水沢市真城雷神上野団地	平安	米	昭和48年
3	猫谷地	集落	江釣子村猫谷地	平安(9～10C)	籾（土師器甕）、籾塊（竪穴住居址）	昭和48、49年
4	機織山Ⅱ	集落	一関市機織山	平安(10C)	籾塊、小豆（土師器甕）	昭和50年
5	厨川柵	城柵	盛岡市前九年	平安	籾	昭和32年
6	下谷地B	包含地	江釣子村北鬼柳	平安(9～10C)	籾痕	昭和49年
7	上平沢新田	集落	紫波町上平沢新田	平安(9～10C)	米	昭和50年
8	田中Ⅲ	集落	一戸町岩舘字田中	平安(10C)	籾（竪穴状遺構）	昭和52年
9	田中Ⅳ	集落	一戸町岩舘字田中	平安(9～10C)	籾（竪穴状遺構）	昭和55年
10	馬場平２	集落	一戸町岩舘字馬場平	平安(10C)	小麦（竪穴住居址内の木製容器）	昭和52年
11	上野B	集落	一戸町一戸字上野	平安(10～11C)	籾痕（土師器内黒坏）	昭和59年
12	江刺家Ⅳ	集落	九戸村江刺家	平安(10～11C)	籾、粟、小豆、大麦(竪穴住居址内の容器)	昭和56年
13	野田	集落	野田村中平	平安	米	―――
14	銭瓶平	集落	浄法寺町銭瓶平	平安	籾痕	大正９～13年
15	竹花	集落	岩手町一方井字竹花	平安	米(米か籾か不明)	大正９～13年
16	川向Ⅲ	集落	九戸村伊保内字川向	平安(10C)	籾痕	昭和55年
17	長者屋敷	集落	松尾村松尾大花森	平安	籾痕	昭和54～55年
18	五庵Ⅰ	集落	浄法寺町駒ケ嶺字五庵	平安、中世	粟、稗(平安、竪穴住居址)、麦（中世）	昭和59年
19	柳田館	城館	紫波町中平字片寄	中世(16C)	籾（米、籾塊）、大麦粟、小豆、粟	昭和50、51年
20	大瀬川館	城館	石鳥谷町大瀬川	中世(16C)	籾(米)、大麦、小麦、小豆、稗、ソバ、緑豆	昭和49年
21	古館	城館	花巻市中根子字古館	中世	籾、小麦、小豆(竪穴状遺構)	昭和47年
22	岩崎城	城館	和賀町岩崎	中世(15～16C)	米	昭和41年
23	館山	城館	金ケ崎町上宿	中世	米（掘立柱建物跡柱穴）	昭和54年
24	岩谷堂城	城館	江刺市岩谷堂字館下	中世	米（遺構外）	昭和58年
25	伊勢館	城館	大東町鳥海字清水	中世	籾（土擴）	昭和57年
26	繋Ⅱ	集落	盛岡市繋字湯の館	中世	籾穀	昭和50年

27	五　庵　Ⅱ	集落、城　館	浄法寺町駒ケ嶺字五庵	中近世(16~17C)	籾(米)、大麦、小豆、ソバ、粟、稗	昭和59年
28	一　戸　城	城　館	一戸町一戸字北舘	中世(15~16C)	籾穀と米塊(掘立柱建物跡柱穴)	昭和54年
29	一　戸　城	城　館	一戸町一戸字北舘	中世(15~16C)	籾、大麦、小豆、ソバ(堀)	昭和58年
30	一　戸　城	城　館	一戸町一戸字北舘	中世(15~16C)	籾(米)、大豆、小豆、稗、小粟(竪穴状遺構)	昭和59年
31	水　　神	墓	安代町字土沢	中世	米	昭和59年

ここでは、平安時代以降の、中世城館跡を中心にその概略を紹介する。

古代の城柵では、水沢市胆沢城(註３)盛岡市厨川柵擬定地（註４）から、いずれも昭和20年代後半から30年代前半の調査で、１～２粒が出土しているが、その内容は必ずしも明らかでない。むしろ、平安時代では集落遺跡から良好な資料が得られており、江釣子村猫谷地遺跡(註５)九戸村江刺家遺跡(註６)、一関市機織山遺跡（註７）では、竪穴住居跡内の土師器甕、あるいは木製容器から出土しているし、一戸町の田中Ⅲ遺跡(註８)、田中Ⅳ遺跡(註９)では、カマドをもたない小規模な竪穴状遺構から、稲穂のまま多量に出土している。このような竪穴状遺構は、県北地方ではすでに奈良時代の遺跡でも検出されているが(註10)、田中Ⅲ・Ⅳ遺跡は平安時代中期の遺跡である。出土した籾の中には、芒の付くものがあり周辺で作付けされたことは確実である。平安時代の分布を見ると、県南部では北上川流域沿いに限られるが、機織山Ⅱ遺跡で小豆が出土したほか、米以外の出土例は無い。一方県北部では、江刺家Ⅳ遺跡で、米・粟・大豆、一戸町の馬場平遺跡（註10）で小麦、浄法寺町の五庵Ⅰ遺跡（註11）で米を混じえずに粟・稗がそれぞれ出土しており、県南部とは対照的である。

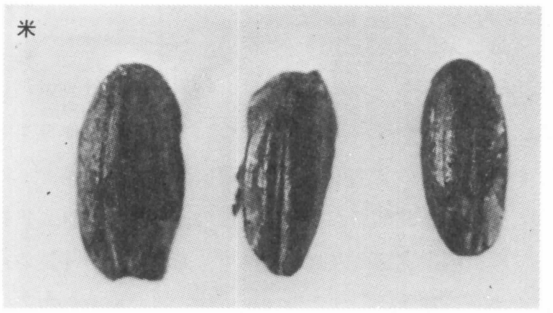


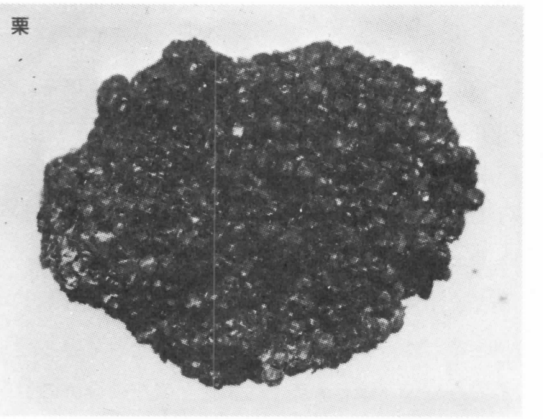
穀物類出土遺跡分布図

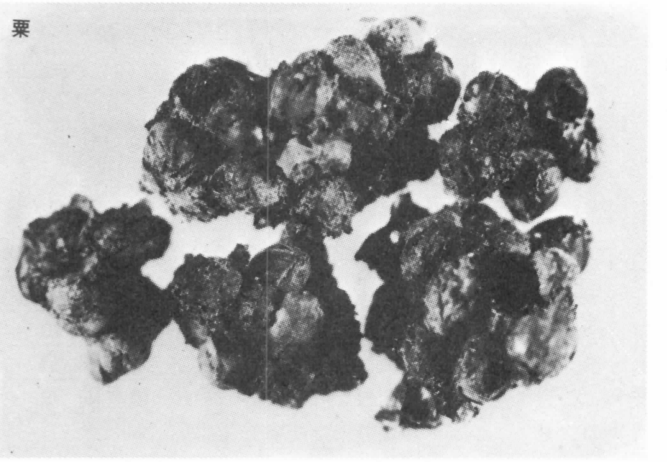
中世城館跡では、紫波町柳田館跡（註12)、石鳥谷大瀬川館跡（註13)、一戸町一戸城跡（註14)、花巻市古館遺跡（註15）でかなりまとまって出土している。とくに大瀬川館、古館遺跡、一戸城跡では、竪穴状遺構から大量に出土している。各遺跡の出土概要は次の通りである。

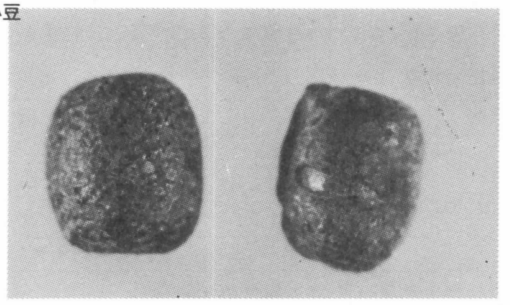
柳田館跡　紫波郡紫波町片寄字中平

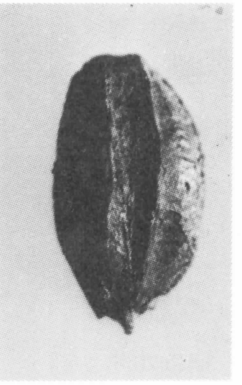
南部信直の家臣である中野康実の居城で、16世紀後半から17世紀にかけての存続期間が想定されている。昭和50年から51年にかけて調査されており、籾（米も含む）、大麦、粟、小豆が出土している。籾はほぼ全域に分散し、その他の穀物もこれに混在した状態となっており、１ケ所に偏在することはない。籾は焼膨れするものや虫喰いのものもあり、二次加熱により塊状となった籾や粟もある。遺構に伴って出土したものでなく、焼失後削平地等の形成により分

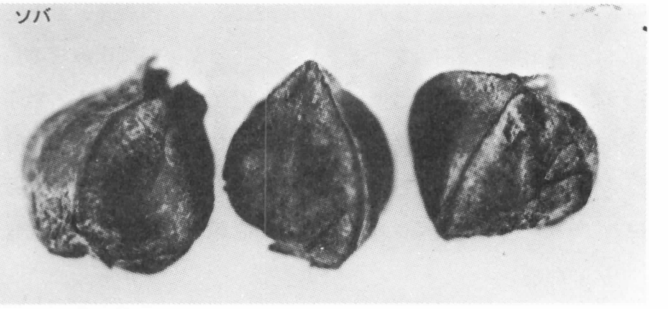












一戸城跡出土穀物（昭和58年度）

散したものである。

大瀬川館　稗貫郡石鳥谷町大瀬川

稗貫氏の家臣である瀬川隠岐の居館で、16世紀中頃中心の城館である。籾（米）、大麦、小麦、小豆、緑豆、稗、ソバが、掘立柱建物跡の柱穴、竪穴状遺構、堀などから出土している。とくに、竪穴状遺構２棟から米が出土しているが、壁に板材を並例させた１棟から、炭化物や草木灰とともに塊状の籾が出土しており、なかには稲穂と見られるものも含まれている。

一戸城跡　二戸郡一戸町一戸字北館、大沢

一戸南部氏の居城で、15～16世紀、とりわけ16世紀を中心とする城館である。昭和54年と57～60年にかけて調査された。昭和54年の調査で大規模な掘立柱建物跡の柱穴から米塊と籾穀が出土したほか、昭和58年には、籾、大麦、小豆、粟、ソバの実が堀跡から出土しており、とくに米と小豆の量が多い（付　図）。平場から混入した状態となっている。昭和59年の調査では、張り出しをもつ竪穴状遺構や整地面の覆土から、大豆、小豆、稗、籾、粟、小粟が出土している。とくに、竪穴状遺構の１棟から、大豆、小豆、稗

が藁とともに多量に出土し、若干の籾、粟、小粟を混じえている。他の1棟からは、大豆、小豆、籾、小粟が出土しているが、同じ遺構から釘を用いた木製容器が出土しており、竪穴内での貯蔵方法が多様であったことを示している。

古館遺跡　花巻市湯口町大字中根子字古館

稗貫氏の一族である根子氏の居城で中館とも呼ばれる。陶磁器が出土していないため不明であるが、16世紀を中心とするものと思われる。張り出しをもつ4棟の竪穴状遺構から、米、小麦、小豆が出土しているが、米は焼脹されたものや虫喰いのほかは、いずれも籾の状態で出土している。

その他、浄法寺町の五庵Ⅱ遺跡では、駒ケ嶺館の後方の平場で検出した掘立柱建物跡の柱穴、竪穴から籾(米)、大麦、小麦、ソバ、粟、稗、岩崎城(註16)、館山(註17)、伊勢館(註18)、岩谷堂城(註19) から米が出土している。

以上が中世城館跡から出土した穀物類で、大麦、小麦、小豆、粟、稗は、すでに平安時代に出土しているが、中世では、ソバ、緑豆、小粟の類例が追加され、おもな穀類のほとんどが出土していることになる。城館跡の竪穴状遺構から多量に出土する穀物は、兵糧のためと貯蔵であろうか。

出土穀類のうち、米については、粒形とその計測値の比較により、古代から中世の遺跡について対比する作業も進んでおり、古代の北上川流域と馬渕川流域という県北と県南部、さらに県北部でも馬渕川流域の一戸町田中Ⅲ・Ⅳ遺跡と、瀬月内川流域の江刺家遺跡では微妙な違いがあるが古代の米は、基本的には弥生時代以降、東北地方に広く分布していた短粒を主体とし、円粒が若干含まれるのに対し中世城館跡から出土する米は、短粒を主体とするが、長粒も一定量含まれることから、古代から中世にかけてのある時期に、別種の稲が導入された可能性が強い（註20）との見解も出されており、まだ資料も少く、地域的な偏りもあるが、岩手県内での稲の系譜にまで言及できうる状況となってきている。

註(1)　一戸城跡　昭和59年度発掘調査概報　一戸町教育委員会　Ⅴ　岩手県内出土の穀粒について、表1、岩手県内出土穀粒一覧表では40遺跡を掲載したが、その他に次の4遺跡での出土を確認した。

No.	遺跡名	種別	所在地	時期	出土穀物の概要	調査年度
1	上野山	集落	久慈市長内町	奈良	籾痕	昭和58年
2	湯舟沢	集落	滝沢村	弥生	籾痕	昭和58年
3	高柳	集落	滝沢村	古墳	籾痕	昭和60年
4	竹花	集落	岩手町一方井字竹花	平安	籾	大正9～13年

註(2)　県下に於ける竪穴及びチャシに関するものその1、岩手県史跡名勝天然記念物調査報告第4号

註(3)　文化財調査報告第四集　胆沢城跡、水沢市所在、岩手県教育委員会　昭和32年

註(4)　厨川柵　盛岡市文化財シリーズ第1集　盛岡市教育委員会　昭和54年

註(5)　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書XVI、岩手県教育委員会　昭和57年

註(6)　江刺家Ⅳ遺跡発掘調査報告書Ⅰ　(財)岩手県埋蔵文化財センター　昭和59年

註(7)　東北新幹線関係埋蔵文化財報告書Ⅰ　岩手県教育委員会　昭和54年

註(8)　一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ　一戸町教育委員会　昭和56年

註(9)　前掲8

註(10)　中曽根Ⅱ遺跡発掘調査報告書　二戸市教育委員会　昭和56年

註(11)　一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　一戸町教育委員会　昭和58年

註(12)　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅳ　岩手県教育委員会　昭和55年

註(13)　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅷ　岩手県教育委員会　昭和56年

註(14)　一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　一戸町教育委員会　昭和57年
一戸城跡　昭和58年度発掘調査概報　一戸町教育委員会　昭和59年
一戸城跡　昭和59年度発掘調査概報　一戸町教育委員会　昭和60年

註(15)　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅶ　岩手県教育委員会　昭和56年

註(16)　岩崎城の発掘　和賀町教育委員会　昭和42年

註(17)　岩手県教育委員会調査　未報告

註(18)　昭和57年度伊勢館遺跡発掘調査報告書　伊勢館　大東町教育委員会　昭和59年

註(19)　岩手県埋蔵文化財発掘調査略報　(財)岩手県埋蔵文化財センター　昭和60年

註(20)　佐藤敏也　SBOI出土炭化米について　前掲14　一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ所収

本　　文

（Ⅱ）

城館跡一覧表

盛　岡　市

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
1	1	雫石町	繋	繋	上野館		繋字萪内沢	丘陵、城	山林	郭、堀			
2	2				萪内館		〃　〃	山頂、〃	〃	〃			
3	3				館市館	繋古館	〃 館市	〃　〃	〃	〃 堀、土塁		手塚伊織、館市氏（館市家文書）	
4	4				湯ノ館		〃 湯ノ館	〃　〃	〃	〃　〃		田口氏？	
5	5				新城館		〃 堂ケ沢	〃　〃	〃	〃	（一部雫石町）	綾織広信か	
6	6	盛岡市	猪去	猪去	猪去八幡館		猪去字田面野木	丘陵　〃	〃				
7	7				猪去館		〃	〃　〃	〃 畑	〃　〃 土塁		猪去斯波氏（斯波系図）	
8	8		上鹿妻	上鹿妻	小和田館		上鹿妻字小和田	〃　〃	〃	〃　〃			
9	9		上太田	上太田	太田館		上太田字館	平地、居館	宅地、境内	〃 土塁		太田勒負（奥南盛風記）	
10	10		下厨川	下厨川	里　館		天昌寺町ほか	丘陵、〃	〃　〃	〃	権現坂		
11	11				安倍館	厨川城	安倍館町	〃　城	〃　〃	〃 堀		工藤行光（吾妻鏡）	
12	12		上田	上田	上田城		上田	〃　〃	〃				
13	13		仁王	仁王	慶善館	不来方北館	内丸	〃　〃	〃		不来方	福士慶善（祐清私記ほか）	14
14	14				淡路館	〃　南館	〃	〃　〃	公園		〃	〃　（　〃　）	13
15	15		新庄	新庄	花恒館	花坂（上）館	天神町ほか	〃　〃	境内ほか	郭、堀		三上氏	
16	16				中野館		茶畑	〃　〃	〃			中野康実（永享軍記）	
17	17		東中野	東中野	新山館		〃	〃　〃	宅地				
18	18		東安庭	安庭	葛西館		東中野字見石	〃　〃	〃 ほか	郭、腰郭		葛西氏	
19	19				安庭館		東安庭字館	〃　〃	境内ほか	〃　〃			
20	20				蝶ケ森館		〃　蝶ケ森	〃　陣場	山林	〃 堀、土塁			
21	21		川目	川目	仁反田館		東山	〃　城	畑	〃　〃 腰郭		仁反田忠常	
22	22				川目館		川目	〃　〃	山林				
23	23				戸仲館		〃 戸仲	〃　〃	〃			川目館に同一か。	
24	24		下米内	下米内	佐々木館		下米内字寺並	〃　〃	〃	〃 腰郭、堀			
25	25		上米内	上米内	米内館		上米内字畑井野	〃　〃	畑地ほか	〃 堀、土塁		米内氏（諸家系図）	

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
26	26	盛岡市	仁王	仁王	盛岡城	不来方城	内丸	丘陵、城	公園	郭、堀、土塁		南部信直ほか（内史略）	
27	27		中下太田	下太田	志和城		中太田方八丁	平地、官衙	水田ほか	築地、溝ほか	方八丁	（旧跡遺聞）	

※遺構未確認のものに次のものがある。向館・矢沢館・至沢館・館山（以上上米内）、大志田館・大志田古館（同大志田）、阿部館、元信館（同元信）、山王館（同山王）

岩手町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
28	1	岩手町	川口	川口	沼崎館		川口幅の上	平地	宅地	全体150×70m、西に北上川、東に長さ60mの空堀1、土塁2。		現在は消滅	2
29	2				川口城	豊城 古城	〃	丘陵	山林、畑 境内	二郭。東方の小館は40×40m。西方を大館という。空堀2。部分的な腰部1。		川口氏	
30	3		一方井	一方井	一方井城（新館）	輪台城	一方井13地割	〃	山林、畑 境内	南北の2郭。北の郭は70×80mで堀2。南の郭は60×90m。西方に3重堀。その間に土塁。南部の東側に削平された段。		一方井氏。	
31	4				一方井城（古館）	イチョウ館 一本杉館	〃 15地割	〃	山林、畑 境内	南北の2郭。周囲に堀。北郭は30×70m。南郭は80×100m。土塁も存在したらしい。			
32	5			黒内	黒内館		黒内4地割	〃	山林、境内	東西2郭、北と東方に空堀、西郭が主郭で、その南方に土塁。他に出丸あり。			3、4
33	6		沼宮内町	新町	沼宮内城	青山城 民部館	沼宮内11地割	〃	山林、境内 畑	規模300×180m。三郭と見張台。各郭には空堀がめぐる。		沼宮内民部常利	
34	7		御堂	沼宮内	尾呂部館		〃 23地割	〃	山林、畑	規模90×70m。東西に空堀と土塁。郭のみは50×60m。			
35	8			子抱	子抱館		子抱6地割	〃 山城	〃、境内	丘陵下から山頂まで堀らしいものがあるが詳細不明。			
36	9			久保	落合館		〃 9地割	〃 連郭式	畑	規模180×110m。主郭は70m四方で、南側に三重堀、腰郭あり。土塁2。			
37	10				横田館	エゾ館	久保字横田	〃	山林	規模200×120m。4重堀をめぐらす。頂部の平場に竪穴様のもの12ケ所。			
38	11			江刈内	江刈内館		江刈内15地割	〃	畑	規模100×60m。北は崖。東方に三重堀。一部に幅6mの土塁。			
39	12			大坊	大坊館		〃 19地割	〃	山林	規模170×140m。東方に二重堀、西方に三重堀。頂部に30m西方の平場。			

雫石町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
40	1	西山村	長山	長山	湯ノ沢館		長山字有根	丘陵、居館？	山林	郭、空堀			
41	2				有根館		〃 〃	〃 砦	〃	主郭70×50m、腰郭、空堀？			
42	3				篠森館		〃 館	〃 城	〃		館		
43	4				的 館		〃 篠ケ森	〃 〃	〃	空堀			
44	5				長山館	岩井花館	〃 狼沢	〃 居館	〃 境内	主郭30×60m、腰郭、空堀、土塁			
45	6				土樋館	雫石城	〃 中上	山頂、城	〃	郭30×25m、空堀			
46	15				柿木館		〃 柿木	平地、居館	水田、学校				
47	7	御明神村	上野	上野	上和野館		上野字上和野	丘陵、城	山林、境内	郭			
48	12				和野館	曽利館 佐五館	〃 曽利	平地、居館	水田、宅地				
49	13				天神館		〃 天神	〃 〃	〃				
50	14				新里館		〃 片子	〃 城	畑、境内	郭			
51	8		御明神	御明神	中の館	中野館	御明神字清水川	山麓 〃	山林	郭90×60m、45×30m、空堀、井戸			
52	10				大 館		〃 志戸前 山津田	山頂 〃	〃	郭、空堀			
53	11				高見館		〃 滝沢	山麓、居館	水田、畑				
54	9		橋場	橋場	小赤沢館		橋場字明神下	〃 城	山林 〃	郭90×100m、30×40m、空堀、土塁			
55	16	雫石村	雫石	雫石	北浦館		万田渡	平地、居館	畑、境内			北浦五郎重任（岩手郡誌）	
56	17				源太堂館		八卦麻見田	〃 城	〃 山林				
57	18				雫石城	雫石館 八幡館	下町	丘陵 〃	〃 宅地	郭、空堀		戸沢滴石氏、斯波雫石氏（雫石町史）	
58	19				古 館		古館	〃 居館	宅地、畑		古館		
59	20	御所村	安庭	安庭	矢川館		西安庭字矢川野	山頂、城	山林	郭			
60	21				戸沢館		〃 戸沢	平地、居館	〃 水田			戸沢氏（雫石町史）	
61	22				田屋館		〃 下戸沢	丘陵、城	〃 〃	郭50×90m、40×50m、空堀、土塁			
62	23				舛沢館	野曽木館	〃 除	平地、居館	〃 〃	郭85×40m、100×60m、空堀、土塁	館		
63	24				矢櫃館	安倍館	〃 栃ケ沢	丘陵、砦	山村	郭、空堀	館ケ沢		
64	25		南畑	南畑	大村館		南畑字上台	山麓、城	宅地、水田				

葛　巻　町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
65	1	葛巻町	江刈	江刈	泥這館	エゾ館	江刈字泥這	山城	山林	平場を２本の空堀で区画。下位の斜面に６段			
66	2				本木館		〃　本木	段丘	畑	70×50m の平場の東方に空堀。西方に虎口状。			
67	3				西里館		〃　西里	丘陵	山林、畑	規模50×100m 。西方に堀跡。			
68	4				車門館		〃　車門	山城	畑	規模150m 四方。東と北面に腰郭。堀４。			
69	5				山王館		〃　滝沢	段丘、居城？	山林、境内	山王神社境内。25m 四方の平場の三方に腰郭			
70	6				栗山向館		〃　栗山	山頂	〃	詳細不明。			
71	7				泉田向館		〃　泉田	〃	〃	〃			
72	8				くれ坪館		〃　小苗代	丘陵	畑	丘陵端部。約500m 。堀３。		横溝氏	
73	9				宗光館	江刈城	〃　寺田	〃	山林	平場60×40m 。北側に堀2本。南側に土塁状。			
74	10				戸花館		〃　大沢真下	〃　居城	畑	規模160×95m 前後。空堀３。			11
75	11				真下館	大沢館	〃　〃	〃　〃	〃	南北２郭（100×85m 、85×80m ）。中間に空堀（長さ80m ×幅15m ）			
76	12				鳩岡館		〃　打田内	〃	山林、畑、工場	規模150×80m。丘陵を二重堀で分断。北斜面に二重堀。南斜面に帯郭。頂部に土塁。斜面に竪穴様のもの。			
77	13				高家領館	エゾモリ	江刈川字高家領	山頂	山林	山頂部の60×55m か。詳細不明。			
78	14		葛巻	葛巻	上平館		茶屋場字元町	山麓	〃　校地	一部に土塁状のもの。破壊で詳細不明。			
79	15				元町館		〃　〃	丘陵	〃	規模200×100m 。丘陵基部を三重堀で分断。三段の平坦部。堀の両側に土塁。東南部に大手口。		工藤将監	
80	16				葛巻館		城内小路	山城、丘陵	〃	八幡館と鏡沢館、葛巻館からなるか。		葛巻氏	
81	17				上野沢館	和野沢館	田代字赤石野	丘陵	〃	規模330×260m 。頂部平坦部180×50m 。丘陵のくびれ部に空堀。礎石？			
82	18				猿方館		古川戸字猿方	山頂	〃	詳細不明。			
83	19				小田館		小田字後	山麓	畑	150m 四方に空堀。西側に70×40m の平場。			
84	20				昼沢館		小屋瀬字昼沢	丘陵	山林	規模50×100m。稜線を三重堀で分断。頂部にも三重堀。平場南に土塁。頂部平場に竪穴様のもの。			
85	21				扇ノ沢館		小田字後	山頂	〃	山稜を堀で切断。西側斜面に3段。（20×70m）			
86	22				星野館		星野字サドア沢口	山麓	畑	規模190×160m 。北と南は沢で区画。西方の山陵を堀で切断。			
87	23		田部	田部	寺畑館		田部字寺畑	丘陵	山林	丘陵先端部。西方の山陵を堀で切断。規模120×90m 。平場60×20m 。			
88	24			冬部	冬部館		市部内	山頂	〃	規模150×100m 。西方山陵を堀で切断。北側に腰郭風のもの。平場に竪穴様のもの。			
89	25				田屋館		田屋	丘陵	〃	丘陵端部。規模120×80m 。東方に空堀１。			

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
90	26	葛巻町	葛巻	葛巻	宇別東館		宇別	丘陵	山林、畑	詳細不明。			
91	27				椛木館		椛木	〃	〃	平場2(50×50m、40×50m)。堀1。			
92	28				中沢館		中沢	〃	〃 畑	規模100×100m、頂部に50×60mの平場。北と南に空堀各1。			
93	29				大石館		小屋瀬字大石	〃	〃	規模70×30m、周囲斜面に段築成。			
94	30				小屋瀬館		〃 〃	〃	〃	規模100×50m。頂部平場100㎡。周囲斜面4～9造成。そこに30ケ所の竪穴様のもの。			
95	31				荒谷館		〃 荒谷	〃	〃	丘陵基部を堀で切断。南側に腰郭様のもの3段、竪穴様のもの。面積約1000㎡。			

西根町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
96	1	西根町	平館	平館	稲荷山館		平館字蟹沢	丘陵	山林	平場(170×170m)。東に空堀。		（岩手郡北における城館屋敷について）	
97	2				平館城		〃 〃	〃 山城	〃	400×400mの丘陵。裾に堀がめぐる。空堀と二つの郭。		平館氏	3、4
98	3			堀切	堀切城		〃 堀切	〃	〃	主郭は長方形(140×70m)。斜面を4段築成。丘陵基部の南に土塁。東に空堀。		堀切氏	
99	4		寺田	寺田	寺田城		寺田字八幡	〃	〃 畑	全体200×140m。東西北に二重堀。		北氏、または工藤氏、惟子氏	
100	5				下斗内館		〃 斗内	〃	〃	全体90×60m、西に土塁。他は斜面。			4
101	6		田頭	田頭	田頭城		田頭字館越	〃 居城	〃 公園	全体300×130m。東西に堀。斜面に段築成。		工藤直祐	
102	7			平笠	新井館	平笠城 新館	〃 平笠	段丘	水田	松川北岸の低位段丘。開田され詳細不明。			
103	8		寺田	惟子	赤間館		惟子字川原目	丘陵	山林	丘陵頂部160×90m。東方に空堀。西方に土塁。		惟子氏（天正頃）	
104	9			荒木田	荒木田城		荒木田	段丘	〃 畑	東に荒木田川。その他の三方は二重の空堀。南北2郭からなり規模は230×120m。		荒木田光恒	

玉　山　村

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
105	1	玉山村	藪川	藪川	蒲田館		藪川字堀米頭	山頂	山林	規模140×90m。比高200mの部分を二重堀で切断。帯郭をもつ東西の2郭。			
106	2		玉山	玉山	玉山館		玉山字館	丘陵	畑	大館(150×70m)と小館(40×25m)の2郭。空堀・段築成もあり。	館前館のぐし	玉山氏	3、4
107	3				二子沢館		〃　二子沢	〃　居館	〃	山頂の堀にかこまれた平場(130×90m)と腰郭(190×40m)。土塁。		玉山直秀嫡子大和？	2
108	4				館花	館鼻	〃　館花	〃	山林	規模160×40m。2本の堀で3郭。北斜面に2段。			2
109	5			日戸	日戸館	一本杉館	日戸字古屋敷	〃	〃	規模200×100m。堀を伴う3郭。	馬場、的場	日戸氏（川村飛騨守）	
110	6				祝の沢館		〃　祝沢	平地	畑	100×200mの台地を呼んでいるが詳細不明。			
111	7			川又	川口平館	もぐら館	川又字赤坂	丘陵、単郭式	山林	50×60mの単郭。			5
112	8				町川又館		〃　〃	〃	〃	空堀のめぐる3郭。規模150×60m。			5
113	9				館	釘の平	〃　中館	〃	〃				
114	10				堀館		〃　〃	山麓、単郭式	〃	規模100m四方。単郭で山際に堀。		屋号に館がある。	
115	11		渋民	渋民	平田野館	下くらの館	渋民字大前田	平地	水田、畑	北上川東岸の不整形なる郭。			
116	12				御供山館		〃　岩鼻	丘陵	山林	規模130×65m。堀に区画された南北の2郭。南郭前面に2段。			11
117	13			武道	八幡館	判官堂	芋田字上武道	平地	山林、水田、境内	北上川東岸。25×13mの小郭のほかは詳細不明。			
118	14			門前寺	門前寺館		門前寺字館	〃　居館	山林	北上川と濁川の交点、背後を堀で囲んだ単郭(80×50m)。		鵜逸左衛門次郎？	2、5
119	15			下田	下田館		下田字生出袋	〃	畑	堀で区画した2郭。	館、小館	下田秀祐	
120	16				ふん館	下田八幡館	〃　牡丹野	〃	〃　山林	堀で区画された三郭。西方に土塁。			15
121	17			川崎	矢城館		川崎字向川原	〃	水田、宅地	北上川と松川の合流点。東西空堀。150×300mの不整形			15
122	18			松内	松内館	横崖山	松内字松内	丘陵	山林	70×50m。東西に空堀。南北には段築城。			15
123	19				館		〃　館	平地	水田、畑				
124	20		巻堀	好摩	中塚館		好摩字中塚	〃	〃　〃	かつては3郭があったものか。北側に堀らしきもの。			
125	21			馬場	桝沢山館		馬場字状小屋	山頂	山林	50×25mの項部に郭。空堀がめぐり、一部で二重堀化。			
126	22			巻堀	熊堂	えぞ館	巻堀字中道	丘陵	畑	沢で区切られた台地をえぞ館という。	遠矢場的場		
127	23			馬場	小館	ワンコ山	馬場字滝の沢	〃	山林	丘陵の西を二重堀で切断。東と中央に堀を伴う2郭。			
128	24			巻堀	西郡館		巻堀字西郡	〃　単郭式	〃　畑	山稜を切った90×90m。			
129	25			永井	段の平		永井字鳥木沢	〃	〃	段の平と呼び、50mの空堀。			

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
130	26	玉山村	巻堀	永井	小谷崎館	谷地田山	永井字永井沢	〃 単郭式	山林	南と西に二重堀。80×14mの単郭。	館石館の下		
131	27			巻堀	桑畑館		巻堀字桑畑	丘陵	〃	単郭で100×100m。西から南へ空堀。			
132	28			馬場	葛巻館		馬場字田茂内	〃	〃	単郭で40×15m。南に堀1。北面に4段。			
133	29		渋民	渋民	愛宕山	城山	渋民字愛宕	〃	寺社	愛宕神社の50×30mの平場を城山という。			
134	30				山屋館		〃 岩之沢	山麓	畑、宅地	100×300mの平場。			
135	31			川崎	敷屋森		川崎字川崎	平地	畑	100×36mの平場をもつ。堀らしきものがあるが詳細不明。			
136	32		巻堀	馬場	前田えぞ館		馬場字赤坂	山麓	山林	駒形神社東南に堀らしきものもあるが、その他は不明。			
137	33				二子館		〃 太子堂	丘陵	〃	北高50m。三重堀で区画された平場。			
138	34		藪川	藪川	肝入屋敷館		藪川字肝入屋敷	〃	〃	比高40mの台地上に20×10mの平場。			
139	35				向井沢堀米館	堀こ	〃 向井沢	山麓	〃	60×50mの単郭。北に空堀。			
140	36				軽米沢堀米館	〃	〃 軽井沢	〃	〃	30m四方の平場。東を沢が三方を空堀がめぐる。			

滝沢村

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
141	1	滝沢村	大釜	大釜	大釜館		大釜外館	平地、居城	畑	改変され詳細不明。		大釜氏	
142	2				八幡館	高館 大釜館	〃 白山	丘陵	山林	規模100×80m。東方に土塁。南から東に空堀。			
143	3		大沢	大沢	エゾ館		大沢館	〃	畑	規模90×70m。北西に空堀。			
144	4		鵜飼	鵜飼	御仮屋山	鵜飼館	鵜飼字御庭田	〃 平山城	山林、宅地	南北250m×東西170mの規模とされるが、宅地化のため詳細不明。堀の一部残存。		福士（鵜飼氏）	
145	5		篠木	篠木	篠木館		篠木字上篠木	〃	〃	比高30mの丘陵上。頂部に本郭。西に出郭をもつ。かつて堀あり。			
146	6		大沢	大沢	大沢館		大沢字籠屋敷	〃	〃	比高20m。規模120×250m。二段の郭。南側に犬走り、土塁、堀の一部が残存。			
147	7		篠木	篠木	参郷の森館		篠木字参郷森	〃	〃	200×120mの独立丘陵。頂部に土塁。丘陵に空堀。			

松　尾　村

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
148	1	松尾村	松尾	松尾	小屋の沢高地集落		松尾小屋の沢	山城？	山林	二ツ森の山頂部と対岸の丘陵山頂部に竪穴群。	二ツ森		
149	2				北　館	下河館	〃 中松尾	山城	山林、畠、宅地	赤川と長川によって侵食された丘陵の先端部。南側から西に延びる空堀。		北愛一（松尾村誌）	
150	3				佐々木館	左京館 柵　館	野駄字谷地中	〃	畠、宅地、水田	北館の西南、赤川の南の河岸段丘上。遺構はみられない。		佐々木左京（松尾村誌）	
151	4			野駄	野駄館		〃　館	〃	山林、公園	西根町田頭との境の丘陵。山頂部に主郭の平場。	野駄館		
152	5			寄木	寄木館		〃　大沼	〃	山林	鴨田山の東麓、鴨田川とアセ沼川に挟まれた丘陵の先端部、小規模な平場と腰郭。			
153	6				蝦夷館		寄木畑	〃	〃	周辺に沢が入る独立丘陵で頂部に平場。西側に空堀。			
154	7			野駄	田中館		野駄野駄	〃	山林、畠、境内	神社裏手の丘陵、小規模な郭状の平場。			

紫　波　町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
155	1	紫波町	土館	北片寄	弥勒寺館		土館字弥勒地	山頂、城	山林	郭、空堀、土塁			
156	2			上・下土	寺　館	源勝寺館	〃 関沢	山麓　〃	〃　畑	〃　〃　〃　園地			
157	3			館	太郎館	山王海館	〃 小清水	山地　〃	山林	〃　〃　〃		山王海太郎（内史略ほか）	
158	4				笹森館		〃 笹森	山麓　〃	〃　畑	〃　〃　〃			
159	5				笹木館		〃 田面木	丘陵　〃？	山林	井戸、空堀			
160	6				金田館	ジサヤ	〃 金田	〃　居館	畑、境内	郭、堀			
161	7				浦田館		〃 浦田	〃	山林、〃	〃　空堀、土塁			
162	8				愛宕山館		〃 和山	山頂	〃	〃　〃　〃			
163	9		赤沢	赤沢	的場館		赤沢字的場	丘陵	〃　畑	〃　〃　〃			
164	10			船久保	船久保館		〃 船久保	〃　城	〃　〃				
165	11				田村館		〃 清水袋	〃	畑			田村治兵衛（赤沢村郷土誌）	
166	12				加賀館	清水館	〃 加賀館	〃	〃				
167	13				赤沢館		〃	山頂、城	山林	郭、空堀、土塁		赤沢氏（紫波郡誌）	
168	14		大巻	大巻	古　館		大巻字上山	山麓	畑、宅地				

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
169	15	紫波町	大巻	大巻	大巻館	河村館	大巻字花立	山頂、城	山林	郭、空堀、土塁、井戸	城山	河村秀興	
170	16				梅ノ木館		〃 梅ノ木	平地、居館	畑、宅地		館平	（紫波郡誌）	
171	17				赤川館		〃 長沢尻	〃 〃	水田			葛原義敬（長徳寺文書）	
172	18		宮手	宮手	谷地館		宮手字谷地館	〃 〃	〃 宅地	堀			
173	19				陣ケ岡		〃 陣岡	丘陵、陣場	山林、境内	〃 土塁		源頼朝（吾妻鏡） 南部信直（祐清私記）	
174	20				泉 館	泉屋館	〃 泉屋敷	平地、居館	宅地	〃 幅4m、長さ20m残存			
175	21				久々館		〃 久々館	〃 〃	山林	幅5mの空堀。土塁。			
176	22		二日町新田	二日町新田	戸部（こぶの）御所	西御所	二日町字南七久保	丘陵 〃	〃 宅地				24
177	23				吉浜衛館		〃 向山	〃 〃	〃 畑			高田吉兵衛（内史略）	〃
178	24				高水寺城	郡山城 斯波館	〃 古館	山頂、城	山林、公園	郭、空堀、土塁、井戸	古館山 城山	斯波家長 中野康実（内史略）	
179	25		南日詰	南日詰	樋爪館	比爪館	南日詰字箱清水	平地、居館	畑、宅地	堀		藤原俊衡（吾妻鏡）	
180	26				善知鳥（うとう）館		〃 滝名川	〃 〃	〃 〃	幅7.5～11mの空堀。土塁。柵列。	古宅		
181	27		平沢	平沢	太郎館		平沢字的場	〃 〃	宅地		的場		
182	28				平沢館		〃 館	〃 〃	水田、境内			築田大学（奥南落穂集）	
183	29		佐比内	上・下佐比内	古 館		佐比内字古館	丘陵	山林	郭、空堀、土塁	古館		30
184	30				佐比内館		〃 神田	山頂、城	〃 境内		神田	河村秀清（封内郷村誌）	
185	31				牛ノ頭（うしのかしら）館		〃 牛の頭	丘陵	水田、畑	堀		河村氏（南部諸城の研究）	
186	32				平栗館		〃 平栗	〃	畑、山林				
187	33		片寄	中・南片寄	柳田館	片寄城 吉兵衛館 中野館	片寄字中平	〃 城	山林	郭、空堀、土塁		中野康実（内史略）	
188	34				墳 館	漆館、古館	〃 漆立	〃 〃	〃				
189	35				上久保（うわくぼ）館		〃 上久保	平地、居館	宅地、畑	幅5m、深さ3mの空堀			
190	36		北田	北田	星川館		北田字星川	丘陵	山林	郭、空堀			
191	37				畑沢館	北田館 梅ノ木館	〃 畑沢	山頂、城	〃	〃 〃			
192	38		稲藤	稲藤	稲藤館	フクベ館	稲藤字田屋	平地、居館	畑			稲藤大炊（奥南落穂集）	
193	39		犬吠森	犬吠森	犬吠森館	東 館	犬吠森字沼端	丘陵、城	山林、境内	郭、空堀、土塁		東民部（紫波郡誌）	24
194	40		江柄	江柄	江柄館		江柄字大志田	〃	〃			江柄式部（紫波町史）	

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
195	41	紫波町	遠山	遠山	高間館	西野館	遠山字西野々	山頂	山林				
196	42				遠山館		〃 新田	〃	〃 境内				
197	43		栃内	栃内	栃内館		栃内字栃内	平地、居館	水田、宅地	堀		栃内秀綱（紫波町史）	
198	44		中島	中島	中島城		中島字上長根	〃	畑 〃			中島安将（奥南落穂集）	
199	45		東長岡	東長岡	長岡館		東長岡字館	山頂、城	山林 配水場	郭、空堀、土塁	館山	長岡氏（南部古実記）	
200	46		犬渕	犬渕	西田館		犬渕字西田	丘陵	山林、境内	郭、幅4m、深さ1.3mの空堀。高さ1.3mの土塁。			
201	47		彦部	彦部	機織館	彦部館	彦部字機織	山頂、城	〃 畑			彦部氏（彦部村誌）	
202	48		北日詰	北日詰	北条館		北日詰字城内	平地、居館	畑、宅地		城内	北条氏（紫波町史）	
203	49		星山	星山	星山館		星山字間野村	〃 〃	〃 水田			星山左馬丞（奥南盛風記）	
204	50		下松本	下松本	松本館		下松本字下二合	〃 〃	境内、宅地	幅9～12mの堀		松本清兵衛（紫波郡誌）	
205	51		上松本	上松本	山館		上松本字内分	山地	山林				

矢巾町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
206	1	矢巾町	不動	白沢	白沢館		白沢	平山城	公園	主郭(132×33m)、腰郭、空堀？など。腰郭に熊野神社。		白沢百助	
207	2			太田	谷地館	太田館	太田字谷地館	屋敷？（平城）	水田	遺構は確認できない。		太田冠者師衡？	
208	3			北伝法寺	座主館		北伝法寺字館前	山城	山林	主郭(32×22m)、腰郭(10数段)、2～3段の空堀、寺院跡、神社、建物跡、石碑、塚などが隣接。			
209	4			岩清水	岩清水館		岩清水字城内	〃	〃	主郭(60×30m)、腰郭(10数段)、尾根は三重の空堀で区画、中腹に熊野神社跡。		岩清水氏？	
210	5		煙山	煙山	煙山館		煙山	〃	〃	主郭(31×16m)、腰郭(10数段)、空堀、犬走りなど。主郭に石組遺構、中腹に観音堂、立石など。		煙山主殿	
211	6		徳田	高田	高田館	吉兵衛館	高田字北田	屋敷？（平城）	神社境内	堀跡が一部に遺存、鎌倉時代の古碑。		高田吉兵衛？	
212	7			西徳田	徳田館		字五百刈田	平城？	畠	確実な遺構はない。		徳田掃部？	
213	8		煙山	煙山	いたこ館		煙山字鳶ケ平	〃		所在地不明			
214	9		不動	室岡	室岡館	久保屋敷	室岡字久保	屋敷	宅地	掘立柱建物跡、溝、土壙など。		室岡源兵衛	
215	10		徳田	西徳田	徳丹城		西徳田	平城	水田ほか	内郭、外郭ほか。			

都南村

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
216	1	見前村	東見前	東見前	古館		東見前字古館	平城	畠、宅地	戦前には土塁と、それに沿う空堀が見られた。	館倉部		
217	2		西見前	西見前	見前館		西見前字館	〃	水田、畠、宅地	水田中の微高地。遺構はほとんど確認できない。	館	見前若狭（奥南落穂集）	
218	3	飯岡村	上飯岡	上飯岡	飯岡館		上飯岡字赤坂	〃	山林、畠、境内、宅地	秋葉神社境内からその背後へかけて、土塁、空堀がみられ、腰郭を数段めぐらす主郭へと続く		飯岡平九郎（志和軍戦記） 飯岡弥六郎祐貫（奥南落穂集）	6、7
219	4		飯岡新田	飯岡新田	向中野館		飯岡新田字才川	〃	水田、畠、宅地	土塁状の高まりがあった。	南館・北館	東野文七（志和軍戦記）	3
220	5		永井	上永井？	永井館		永井字前田	〃	水田、宅地	永井小学校敷地に接する水田。かつて柱痕が出土した。		永井八郎延明（奥南落穂集）	
221	6		湯沢	湯沢	大館		湯沢字館	平山城	畠、宅地、水田	舌状台地の先端。郭の北から東面の一部にかけて空堀。		杉山一学（志和軍戦記）	3
222	7		羽場	羽場	小館	羽場館	羽場字百目木	〃	畠、宅地	鹿妻堰の段丘崖に面し、南面は自然の沢で区画する。主郭の北と西を空堀で切り、北に腰郭、西に二の郭。		岩倉常太郎（志和軍戦記）	
223	8	乙部村	乙部	乙部	乙部館		乙部字館	〃	畠、宅地、境内	乙部川の北岸に南北に空堀を四ケ所切り、北面に腰郭状の平坦部をとる。		乙部兵庫（奥南落穂集）	
224	9		大ケ生	大ケ生	大萱生館		大ケ生字城内	山城	山林、畠、宅地	張り出した丘陵の付け根を空堀で切断。各郭との間にも空堀。	北館・南館	大萱生玄蕃（祐清私記）	
225	10		黒川	黒川	黒川館		黒川字沢田	〃	山林、畠、境内	高陣山から西に延びる丘陵を空堀で切断、西側斜面に腰郭。	館林	黒川某（紫波郡誌）	
226	11		手代森	手代森	手代森館		手代森字館	〃	畠、山林、境内	沢口山の西麓、北面は沢、南面に空堀。主郭西南部に腰郭。		手代森秀親（紫波郡誌）	

花巻市

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
227	1	花巻市	湯口	円万寺	円万寺館		円万寺字高円万寺	山城	境内、林	現円万寺観音堂のある山地一帯。斜面に細い帯郭。		円満寺氏	
228	2			中根子	中館	古館 万丁目館 根子中館	中根子字古館	平城	宅地、畑	東西250m、南北300mの規模。堀と土塁とに区画された三郭をもつ。東端の堀は幅10～15m、長さ100mほど。自動車道に伴う調査で建物跡を検出。	古館	根子周防	
229	3			鉛	幕館		鉛字館	丘陵		豊沢川上流の右岸丘陵部。詳細不明。	館		
230	4			太田	上館	根子館	太田字下宿	〃	境内、林	昌観寺の東側、豊沢川右岸の比高6mの段丘にある。空堀と土塁が残る。	下宿	根子氏	
231	5		笹間		姉内館		笹間字姉内沢			所在地不明。		和賀行義？	
232	6			中笹間	笹間館		〃 槐田	平地	田畑	宇南川右岸にある比高2mの低台地。東側台地基部を直状堀で切断。		笹間氏	
233	7			栃内	栃内館	栃内城 館屋敷	〃 栃内	〃	境内、宅地 水田	八坂神社付近一帯60m×60mほどの区画で土塁あり。		栃内氏	
234	8			轟木	轟木館		〃 轟木	〃 単郭式	宅地、境内	笹間の各街道が集結する場所。高い土塁を方形にめぐらし、その外側を水堀で区画。	館	轟木兵庫守	
235	9		湯本	小瀬川	小瀬川館	小瀬川城 新主館	湯本字小瀬川		〃 畑	台川と鍋割川の合流点。台地の基部を堀切で切断、内郭は南北の2郭に分けられる。台地下方に土塁、堀がある。		稗貫為重 稗貫氏最初の居館といわれる。	
236	10			金矢	湯ノ館	湯楯	湯本金矢	平山城	畑、砂利採取場	台川右岸に突き出た台地上。比高15m。台地を堀で三郭に区画しているが、東半分は消滅。		高橋氏	

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等(文献)	関連城館
		昭30	明20	藩政									
237	11	花巻市	湯本村	台	台城	湯の高館	湯本中屋敷	山城	山林	温泉療養所の北西、標高360m の山頂。 湯ノ館の詰城か。			
238	12			大畑	大畑館		〃 大畑	平山城	畑、宅地	花巻温泉入口東方の小山にある。周囲に堀と土塁をめぐらし、尾根続きを堀で切断する。		大畑杢允	
239	13			北湯口	銭根館		北湯口銭根	平城	山林、畑	銭根西側の平野部。詳細不明。		北湯口伊豆	
240	14		宮野目	東宮野目	本館	十八ヶ城？	宮野目字本館	〃 居城	畑、宅地	花巻市街北西2kmの瀬川右岸台地上。北側は段丘崖。東側と南側の一部に数本の巨大な堀跡が残る。方形か。	本館	稗貫氏	
241	15			西宮野目	宮野目方八丁		〃 方八丁	〃	校地、空港、林	花巻空港の北東で北上川が北から東に蛇行する右岸一帯の台地上。深さ10m ほどの谷が東西に走り、南側の段丘崖寄りに二重の土塁が残る。	方八丁	平安時代？伝源頼義陣所	
242	16			葛	矢ノ目館	矢根館	葛矢ノ目	平城？	畑、宅地	詳細不明。		伝安倍氏？	
243	17			上似内	古館	似内館	宮野目上似内	〃		北上川沿いにあるというが遺構不明。		似内氏	
244	18		花巻町	花巻	日居城		松園町天下田	平城	宅地、林	本館より瀬川上流2kmにあり、巨大な堀跡が5～6本残る。本館より大きい。	日居城	稗貫氏？	
245	19		花巻川口町	川口	南館	川口館	川口町	平城？		位置不明。		川口輝勝	
246	20		宮野目	葛	上ノ山館		葛上ノ山	平城	田畑、宅地	遺構不明。		葛氏	
247	21				小森林館		葛			〃。		小森林氏？	
248	22		花巻町	花巻	花巻城	鳥谷ヶ崎城	城内	平山城、居城	宅地、境内	北・東には北上川、南に豊沢、西側を深い堀をめぐらす。本丸、二の丸、三の丸よりなるが、現在は内堀の一部と円城寺門、鐘楼が残るのみである。	城内	稗貫氏？北秀愛	
249	23		根子	西十二丁目	十二丁目城	古館、上館	西十二丁目	平山城？	田畑、宅地	北上川と豊沢川とが合流して南に直流する獅子ヶ鼻の台地にあった。台地の後背にあたる西側に堀があったというが現在はない。	仲町、反町	伊藤氏。四十八城破却の一つ。	
250	24			下根子	下館	根子下館向館	下根子高畑	平城	〃	豊沢川の右岸低位段丘上。比高2mほどの台地を堀で切断2郭をなす。根子中館と対峙する位置にある。		根子氏	
251	25		矢沢	矢沢	古館	矢沢館	矢沢八幡	平地	〃 宅地	八幡の地であるというが遺構不明。		伝矢沢左近広道	
252	26			高木	〃	槻木館	〃 槻木	〃	〃 〃	北上川と猿石川とが合流していた胡四王山の西側というが遺構不明。		伝槻木下野守光治	
253	27				〃		高木古館	平山城		比高20m の突出丘陵部。細い堀で尾根を切り東西二郭に造る。			
254	28			矢沢	胡四王館		矢沢胡四王山	山城	公園、境内	胡四王神社境内の周囲の斜面に浅い二重の空掘が認められる。発掘調査により竪穴式住居等を検出する。			
255	29		根子	外台	上館		外台南城小学校	平地	校内	位置・遺構とも不明、前九年の役における安倍橘に対する源頼義の向陣場と伝える。			
256	30		湯口	膝立	〃	膝館	円万寺膝立	〃	宅地、水田	根岸付近の微高地。細い溝が東西に数本走っており、奈良時代の柵というが根拠はない。	膝立、十二位		

大　迫　町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
257	1	大迫町	亀ケ森	亀ケ森	御所ガ館	衣更着館	亀ケ森羽黒堂	丘陵、居城？	山林、畑	田子屋集落の北側丘陵上。尾根を堀で切断、三方に帯郭をめぐらす。平場70m×60m。井戸跡と白山社。	館、馬場	衣更着掃部？	
258	2				廻館	杉館	〃 沼畑	山城	山林	沼畑集落の西方山頂。頂部に95×45mほどの楕円形の空堀。北側に土塁。	廻館山		
259	3				御堂鼻館		〃 鉢	丘陵	畑	鉢集落の北方丘陵先端部、空堀の一部が残るが、他は破壊。先端部に貞治七年銘の碑。			
260	4				山根館Ⅰ		〃 沢田	〃	山林	切牛集落の北側丘陵部。東側にⅡの館。空堀が楕円形にめぐる。110m×40m。		館跡ではない可能性もある。	
261	5				山根館Ⅱ		〃 〃	〃	〃	Ⅰと同じつくり、隅丸長方形に堀がめぐる。90×40m。			
262	6				稲荷館	小館	〃 館	段丘上、連郭式？	水田	稗貫川左岸段丘上。段丘面を幅3～7mの堀で区画。主郭は50×40mの台形。開田により消滅。	館、小館		
263	7				八幡館	亀ケ森城	〃 三日市	山城、居城	山林、神社	中興寺裏山一帯。主郭は80×60m。二の郭は70×30mで堀切。南側の山に空堀二重。周囲に3～4段の帯郭。水堀跡あり。	八幡館	八十沢外記 亀ケ森玄蕃外 （南部家寛政記録）	
264	8		大迫町	大迫	藤館	内館	大迫ぶどう沢	〃	畑、山林	ぶどう沢集落の北側山地中腹。平場、井戸、帯郭。平場70×30m。山頂部に物見台跡。			
265	9				中居館	薬師館	〃 川原町	〃	公園	愛宕山町民公園。東・北側に帯郭。北側下手に堀と言われる池。与五助館の南。規模200×100m。	日陰	大迫氏一族？　大迫城の一部？	10、13
266	10				与五助館		〃 〃	〃	畑、山林	中居館とは旧大迫街道を隔てた北側にあたる。西側、南側に数段の帯郭。平場80×60m。		〃　〃	9、13
267	11				天神館	藤四郎館	〃 下町	台地上	校庭	旧大迫街道北側。台地の先端部を空堀で切断。現大迫高校グランドのため整地。	屋敷	田中藤四郎	
268	12				日陰館		内川目古館		山林	古館集落の南方、大迫城は沢を越えてすぐ北側。山地頂部に浅い空堀。200×150m。		大迫城の一部？	
269	13		内川目		大迫城	古館 右近館 桂林寺館	〃 〃	山城	〃 神社	桂林寺の南方丘陵上。三方に帯郭。後方尾根を空堀で切断。主郭と二郭。主郭50×75m。二の郭40×75m。	古館	大迫右近。天正二十年破却。 （南部四十八城注文）	9、10、11、12 （14、15）
270	14			内川目	雲南館		〃 雲南	段丘上	畑	雲南館という屋号あるが、遺構等不明。			
271	15				馬場館		〃 沢	〃	〃	雲南館の南方。馬場館という屋号があるが、遺構等不明。			
272	16				番館	水戸屋敷	〃 八木沢	〃	草地、畑	八木沢集落の東方、八木沢川左岸にある。八木沢川を石垣によって流れを変えている。70×30mほどの平場あり、金山の番所跡か。			
273	17				小付内館	日向館	〃 小付内	山頂	山林	小付内集落入口東方山頂。尾根を幅4mの堀で切断、平場と帯郭が2～3段。平場50×13m、9×20mの二つ。			
274	18				館ケ森		〃 向村		畑、宅地	平場と帯郭状のものがあるが、詳細不明。	館ガ森		
275	19				鍋屋敷館		〃 鍋屋敷	〃		熊野山神社周辺を館といっている。帯郭らしき段もみられるが、不明。	館、馬場先的場、大弓下弓		
276	20				糸治森館		〃 黒森	〃	山林	糸治森の山頂、山頂に空堀。			
277	21				折壁館		〃 折壁	台地上	畑、宅地	新旧二ケ所あり。前者は折壁林交館裏の台地で遺構は不明。後者は屋号館の下の上の台地幅2m、高さ2mほどの土塁あり。北側は狭い段。平場85×20m。	館の下		
278	22				中ノ見館		〃 中ノ貝	山頂	山林	中ノ貝砂防ダムの南側。平場らしきものはあるが遺構不明。	館		
279	23				高館	サッケゾ館	〃 久出内	〃	畑、山林	遺構の詳細不明。	的場		
280	24		外川目	外川目	堂の前館		外川目下中居	丘陵上、居城	畑	明確ではないが平場70m×40m。北・東・西に帯郭らしき段。		堂の前彦次郎？	
281	25				源蔵館		〃 田中	山頂	山林	山頂に25×6mほどの平場と、その下方に幅1×2mの空堀。			

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
282	26	大迫町	外川目	外川目	館の鼻	松原館	外川目田中	段丘上	宅地、畑	平場があるが、詳細不明。平場48×31m。	的場		
283	27				八木巻館	沼津館 板橋館 沢崎館	〃 沢崎	山頂	山林	尾根2カ所で堀切し、北・東面に幅3～4mの帯郭。平場は32×10m。	八木巻沢崎	佐々木左近？	
284	28				旭の又館		〃 旭の又	〃	〃	旭の又集落の南側山頂、幅6mの堀で尾根を切断し、そのまま帯郭となって山頂をめぐる。平場は35×7mであるが、帯郭に囲まれた範囲は90×30mほど。			
285	29				岩脇館		〃 岩脇	〃	畑、山林、墓地	帯郭と平場らしきものがみられるが、詳細不明。		岩脇帯刀？	

石鳥谷町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
286	1	石鳥谷町	好地	大瀬川	大瀬川館	館山、古館 瀬川城、旧館	大瀬川字古館	山城、居城？ 連郭式	山林、 高速道	6～7郭なる連郭式山城。各郭とは土塁・空堀によって区画されている。東西300m、南北400m。発掘調査により三つの郭と建物跡などが検出された。		瀬川隠岐守外	
287	2			富沢	芳館	芳達	富沢字山屋	山頂？	山林、畑	耳取川の北方の山頂。山の中腹の東西方向に幅3.5～4mの堀跡。一部に土塁。			
288	3				富沢館		〃 館	段丘上、連郭式	山林、水田 境内	東側に葛丸川、北側にはモエナ川がある。三郭以上からなると思われ、幅10～18mの堀が東西に3本、南北に2本みられる。他は水田のため不明。規模200×200mぐらい。	館、掘子田	富沢氏	
289	4			長谷堂	長谷堂館		長谷堂字女鳥沢	山頂	山林、境内	長谷寺の北側山頂。米斗利神社との境に幅3～5mの堀と土塁。東側の斜面には空堀と5段以上の郭。頂部の平坦地には女鳥沢稲荷神社。規模200×200m。		沢田氏	
290	5			大興寺	大興寺城		大興寺	山頂	〃 〃	大興寺の北東山地。西側に伸びる尾根を、幅1.5m、深さ2mの堀で切断。			
291	6				堀の内		〃 字松田	平地	水田、宅地	東西方向に長い長方形。内側に堀、外側に土塁。屋敷跡か。			
292	7			北寺林	北寺林館		北寺林字佐手花	丘陵	山林、宅地、 水田	県道によって南北に分断。北方には2本の空堀と1本の土塁。南方頂部には稲荷神社、規模180×120m。			
293	8		八幡	中寺林	寺林城	寺林館	中寺林字館前	平地		光林寺周辺の北方と西方の一部に幅6～7mの堀と土塁が二重にめぐる。南西にも南北に走る堀跡らしきもの。平場250×250m。		河野通重外	
294	9		好地	好地	数馬館		好地字数馬	段丘	山林、宅地	東北自動車学校周辺を言うが不明。			
295	10				館		〃 上好地	平地	水田、畑	石鳥谷小学校北方上好地付近と伝わるが、詳細不明。			
296	11				堀子田		〃 〃	〃	〃 宅地	石鳥谷町立病院北方の稲荷神社周辺。北・西方向に堀。今は不明。			
297	12				備中館		〃 青雲台	丘陵	〃 畑	西側に鎌倉街道が通る。石鳥谷小学校グランドの北東から南東方向に幅17～25mほどの堀。また北方の段丘面に土塁があったというが不明。200×200mの規模。			
298	13				小館		〃	段丘		東流する大沢口川が北上川に合流する北岸の段丘上。西側に幅8mの堀が一部残る。規模60×60m。			
299	14		八幡	黒沢	黒沼館		黒沼字道海	平地	境内、畑、 宅地	三方を川に囲まれた微高地。北西隅に幅4.5mほどの堀。長楽寺に接して幅5m、長さ72mの土塁。		黒沼清太夫？	18
300	15				堀の内		〃 田の尻	〃 屋敷形	水田、境内、 宅地	黒沼館の南東、西方川向に小森館。南方に柳館、江曽館がある。八雲神社南東方向に東西に伸びる堀があったというが不明。			
301	16			小森林	小森館	小森林館	小森林字小森館	丘陵、居城	山林、宅地	東流する滝沢川が急激に南流する地点の右段丘上にある。。東西300m、南北400m。南と北の2郭。北の郭が300×300mと大きい。郭間は幅の広い堀と内側の土塁とで区画する。		小森林治郎	
302	17			江曽	古館		江曽字塚根	平地		滝沢川が南流する段丘の東縁。南北・東西方向に3～5mほどの堀と土塁が現存。規模100×70m以上。			
303	18				江曽館	北館、中館	〃 直町	〃 居城	〃 〃	滝沢川の南西段丘上にあり、南東を北上川が流れる。南側には上幅20mの沢。北側に幅11～20mの堀と土塁が130mほど残る。南側で柳館と接する。規模300×500mほど。		藤原源太夫弘長外、柳館と連なる同一館の可能性あり。	

地図	No	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等(文献)	関連城館
		昭30	明20	藩政									
304	19	石鳥谷町	八幡	江曽	柳館	矢の目館 矢の根館	江曽字柳館	平地	山林、畑	滝沢川西岸の段丘上。北方で江曽館と接する。滝沢川より南方に堀。郭を区画するように西側にもみられる。堀に沿って一部に土塁が残存。郭内に弘潤神社古井戸。300×200m。	柳館	安倍氏、柳原氏。江曽館と連なる。	18
305	20		新堀	新堀	新堀城	上館 新仙寺館	新堀字椛野	山城	〃	北上川東岸に張り出した山陵上。南郭が高く、北・西に二郭が続く馬蹄形に近い複郭。西側を除いて空堀と土塁。	的場、升形、殿屋敷	新堀作兵衛、江刺長作外	23、24
306	21				殿屋敷		〃 北島	平地、屋敷	水田、宅地	新堀城の西方平地。二重の堀と幅2m、長さ30mの土塁があったというが不明。			20
307	22				土堀		〃 長谷場	〃 屋敷？	〃 〃	屋敷があったというが詳細不明。	土堀	藤根氏？新堀作兵衛外	
308	23				侍従館	侍中館、中館	〃 塚原	〃	畑、境内	堀で区画された複郭。大日如来堂付近に幅5～9mの堀が東西方向に2本、南北方向に1本。規模180×180m以上か。	北堀	新堀作兵衛外	20
309	24				下館		〃 中野	丘陵、居城	山林、畑地	侍従館の南西300m。北側を東西に流れる八幡川から空堀を引いて郭を南北に画す。南の郭が大部分を占め、二重堀と土塁を築く北西隅に馬出し。南東の小山には愛宕神社、その下方を空堀がめぐっているため詰城としたか。規模250×250m以上。		新堀氏？	20、23
310	25				堀子田		〃 明戸	平地	田畑、境内	金剛寺南側に、東西・南北方向の堀があったというが詳細不明。			
311	26			戸塚	赤間館		戸塚	丘陵	山林	戸塚森の東方丘陵地。不明。			
312	27		八重畑村	滝田村	笹原館	館	滝田字笹原	〃	宅地	稗貫川を南に臨む段丘上。東西・南北に一部堀と土塁。面積は3,500㎡ほど。	館	滝田大学	
313	28				端館	端方館	〃 橋方	平地	田畑、宅地	熊野社の北西段丘上というが遺構不明。			
314	29				大川原館	大川原館	〃 才ノ神	丘陵	〃 〃	稗貫川が南流から急に西流する右岸段丘上。南西に幅3m、長さ37mの土塁。北東に堀というが不明。規模150m×150mほど。		大川原氏？	31、32、33
315	30			関口村	下館		関口	平地、連郭式	〃 〃	稲荷神社周辺に往時は四郭のうち下館があったというが不明。	館下町	関口氏	
316	31				中館		〃	丘陵	〃 〃	北上川東岸、稗貫川が合流する微高地。南方で関口館と接する。北・南側に堀と土塁が残る。	中館	〃	一連のもの 30、32、33
317	32				関口館		〃	〃 居城	〃 〃	中館・南館との間にあり、北・南に堀の一部と古井戸が残る。	館、堀端	関口主膳（ここが主郭か）	一連のもの 30、31、33
318	33				南館		〃	〃	〃 〃	下館、中館、関口館と続く一番南側にある。南側に幅40mの堀。四郭の規模は南北300m、東西200mぐらいか。		関口氏	一連のもの 30、31、32
319	34			猪鼻	猪鼻館	広済寺館	猪鼻字曲谷地	〃	境内、山林	広済寺北方、南東に幅9m・長さ50mの空堀が南北に残る。北西隅に古井戸。主郭は73×55mほど。	馬場前	猪鼻　広済 猪鼻弥十郎 同一人物？	
320	35			八重畑	八重畑館	館、大館	八重畑字館	平地、連郭式	田畑、宅地	二郷川と北上川合流点の左岸段丘。南北方向に幅9m、深さ7m、長さ98mの堀跡。また一郭には土塁等もみられる。規模は300×250mほど。	館、桝形	八重畑信濃守、八重畑豊前守	
321	36			五大堂	隅っこ館		五大堂	山城		光勝寺の東方。山神社がある標高133mの山地。下方に幅2m、高さ3mの堀が鉢巻状にめぐり、外側に土塁がみられる。規模200×300m。			

東　和　町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
322	1	東和町	十二鏑	安俵	安俵城		安俵	平城、連郭式	宅地	旧猿ケ石川の河岸段丘。空堀と方形で南北の３～４郭よりなる。550×100m。	館、館小路古館	安俵、小原氏	
323	2				押蕪館		〃　六本木			旧猿ケ石川の段丘沿いの六本木台地付近と考えられるが不明。	高館、腰館	小原時義	
324	3				釜糖館		〃　六木沢			安俵城の北西台地。五輪石塔。		小原（釜糖）四郎	
325	4				星兜館	干甲館	〃			愛宕神社の奥、段状の平坦地や屋敷跡が続き、丘陵続きの尾根を空堀で切断。			
326	5				高　館		〃　六本木			六本木台地の高台上というが不明。			1、2、3
327	6			東晴山	晴山館	笹　館 八重樫館	東晴山			銀杏岡の台地というが不明。		和賀秀実	
328	7		小山田	上小山田	小山田館		上小山田字宿		境内、山林	滝沢寺境内周辺と伝えるが不明。	宿	小山田彦九郎為直	
329	8		中内	南成島	成島館		南成島	山城	山林	猿ケ石川の東側山頂部にある。約１haの頂部南斜面に細い空堀。		成島源太左エ門	
330	9			毒沢	毒沢館		中内字毒沢	〃	〃	毒沢集落の西側の山頂部。37×13mの主郭を中心に幅10m以上の帯郭が３～４段。各尾根は幅広い空堀で切断し、北東尾根続きに小さい郭をもつ。		毒沢	
331	10				宿　館		毒沢字宿館	〃		毒沢集落の東側の独立丘陵。遺構は不明。	宿館	毒沢館の一部？	
332	11			浮田	車　館		上浮田	〃	〃	山居沢西側丘陵頂部。斜面部に帯郭、丘陵続きに空堀。南側の空堀と土塁は４重となっている。		浮田佐兵衛	
333	12			石持	鍋倉館	蚊倉館	石持	〃		腰郭も認められる。慶長6年南部利直の本陣。南北に長い頂部1haの周囲に帯郭と空堀。		石持亀倉	
334	13			宮田	宮田館		宮田			熊野神社の丘というが遺構不明。		畠山義泰？	
335	14		谷内	倉沢	倉沢館		倉沢	〃		福蔵寺西南の裏山頂部。数段の郭を設け、これらを太い空堀で囲む。丘陵の基部は三重の堀で切断している。平場140×60m。		小原藤次郎義郷	
336	15		中内	田瀬	堂地館		田瀬	〃		堀があるらしいが場所不明。		小田代肥前	
337	16				田瀬館		〃　宿			頂部平場の周囲に１～２段の帯郭がめぐり、丘陵基部は深さ10mの空堀で切断。			
338	17				安倍館		〃　野金山			猿ケ石川左岸。前九年の役の砦？			
339	18		谷内	鷹巣堂	古　館		鷹巣堂			鷹角氏の居館というが、詳細不明。		鷹角氏	
340	19			小原	経ケ森館		小原			遺構不明。		小原政直（応仁元年の役の臣）	
341	20			館迫	館迫館		館迫			猿ケ石川左岸の立石神社境内という。詳細不明。			
342	21			谷内	花　館		谷内			詳細不明。			
343	22		十二鏑	十二ケ	土沢城	江刺城	東和町土沢	平山城	公園、他	本館、中館、西館、東館、無名郭、大手桜丸、斉雲郭など。慶長十七年築城。		江刺氏	

北　上　市

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
344	1	相去町	相去	相去	相去城	鶴野館	相去町山根	丘陵、詰城	山林	南北250m、東西200m。主郭(100四方）の周囲と丘陵基部に土塁と空堀。東斜面に腰郭。	館下	相去安芸（仙台領古城書上）	
345	2				岩の目館		〃　岩の目	段丘、居館	宅地・畑	南北100m、東西60m。単郭式。後背(南側)に幅約7mの堀切跡。			
346	3				高前田館		〃　大谷地	〃　〃	荒地	開田工事で破壊。安永の風土記書上げに東西38間、東北31間とあり。		（安永風土記書上）	
347	4				館前館		〃　六原上ノ町	丘陵　〃	山林	牛頭天王境内（東西50m、南北40m）以外に遺構不明。			
348	5				谷地館		〃　大谷地	平地　〃	宅地	遺構不明。		和賀氏一時立籠る	
349	6				道正森館		〃　六原道正森	丘陵　〃	山林	道所森頂部東西200m、南北80mの範囲と推定されるが、遺構不明。		道正（「仙台領内古城書上」）	
350	7	稲瀬町	稲瀬	門岡	一夜館		稲瀬町上門岡	〃	〃	バス停上門岡の北側。遺構不明。			
351	8				松ノ館		〃　〃	〃　詰城	〃	東西南北約100m。単郭式。周囲に帯郭数段。		門岡三郎・同四郎（北上市史）	
352	9				曽　館	僧　館	〃　内門岡	平地、居館		南北約200m、東西約50m。南北三郭からなり、堀跡。広く破壊。	座主坊	菊池氏（北上市史）	
353	10				八王字森館		〃　〃	山頂、詰城	神社境内	頂部は自然の平坦面。山腹に幅3mの帯郭。曽館の見張所か。			
354	11				斎羽場城		〃　下門岡	段丘、居館	〃	主郭(80m×20m)以外破壊。全体で約100m四方か。一部堀跡。		及川若狭吉種（「仙台領内古城書上」）	
355	12	口内町	福岡	下口内	青丸館		口内町亀岩	丘陵、詰城	山林	遺構不明。		及川杢助（「風土記御用書出」）	
356	13				小屋館		〃　〃	〃　居館	畑	南北約120m、東西約100m。単郭式。北側に堀、東側に帯郭。	堀切、的場	伝藤原秀衡 及川杢助（「風土記御用書出」）	12
357	14				荒野原館	小谷館	〃　長洞	〃　〃		推定規模南北約150m、東西約100m。牧草地ととして全面破壊。	小谷峠	（「口内の古城・館」）	
358	15				桜　館		〃　金峯山	〃	山林	位置不明。	桜館	（　〃　）	
359	16				下口内古館		〃　雲南	低丘陵・居館	畑	遺構不明。	古館	及川氏（「口内の古城・館」）	
360	17				梁川館		〃　草刈場	丘陵　〃	神社境内	菅原神社境内約40m四方。台地基部に堀切跡。		（「口内の古城・館」）	
361	18			上口内	新山館		〃　飛	〃　〃	〃	東西約70m、南北約100m。単郭式。東側に帯状腰郭。		（　〃　）	
362	19				八谷崎館		〃　長坂	〃	宅地	遺構・規模とも不明。		伝和泉三郎忠衡（「口内の古城・館」）	
363	20				浮牛城		〃　松坂	〃　居館	神社境内 山林	東西約250m、南北約200m、東側丘陵基部を幅約6mの堀で切り、主郭周囲に腰郭。	西門、土門 鬼丸、大手門	口内帯刀、古内志摩、中島監物（「中島家文書」）	
364	21			小池	小池古館	古　館	〃　小池	〃　〃	山林	東西約100m、南北約150m。単郭式。全周幅約5m深さ約3mの空堀で囲繞。		（「風土記御用書出」）	
365	22			水押	中屋敷古館		〃　水押	平地　〃	宅地	南北約100m、東西約80m。南北2郭。主郭後背に堀跡。西側に井戸跡。	亀井戸	（　〃　）	23
366	23				中山館		〃　〃	段丘、居館	山林	中屋敷古館の西。東西約50m、南北100mの平場。			
367	24			柧ノ木田	柧ノ木田館	古　館 柧ノ木田城	〃　柧ノ木田	丘陵　〃	宅地	東西約100m、南北約180mを範囲とするが、主郭の及川林屋敷は、東西約30m、南北約60m。堀あり。	館沢	柧ノ木田大炊（風土記御用書出）	
368	25				柧ノ木田古館	大和館	〃　〃	〃　詰城	山林	東西約50m、南北約120m。2郭。丘陵基部に堀切、東斜面に帯郭。		柧ノ木田大和（風土記御用書出）	

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
369	26	黒沢尻町	立花	立花	泉館	安倍館	黒沢尻町立花字沢野	段丘、居館	宅地、畑	東西約250m、南北約100m。北側後背部堀切、幅約10m南側帯状腰郭。土塁一部残存。単郭式。	泉屋敷	伝泉三郎（『和賀郡誌』）	
370	27				陣ケ丘	陣ケ森	〃 字下野	山頂、詰城	公園	東西約100m、南北約200m。主郭を主体とした複郭。幅約5mの堀と帯郭。見張場状出崎。		伝源義家（『北上市史』）	
371	28				高館		〃 字塩釜	丘陵、〃	山林	東西約300m、南北約200m。5郭以上の複郭式。北側幅約15mの堀、南側3段の腰郭。	元宿	伝藤原仲光（『和賀郡誌』）	
372	29				立花館	館	〃 字館	平地、居館	宅地、畑	範囲、遺構不明。北側を舟橋という。	宿	（北上市史）	
373	30				明城		〃黒岩字山根	丘陵	山林	小田島正三宅裏。遺構不明。	明城	伝万内悪次郎（北上市史）	
374	31				黒岩城	岩崎塞、千曳城	〃 字下岩崎	段丘、居館	宅地、寺院境内、畑	東西約200m、南北約500m。主郭の千曳城と外郭からなる。元館と主郭周囲に堀跡。		初期は和賀義行か。月斎義信（「鬼柳文書」「和賀御分限録」）	
375	32				三坊木館		〃 字三坊木	〃 〃	畑	中央橋付近だが範囲、遺構とも不明。		三本木法師（「和賀御分限録」）	
376	33				湯沢館		〃 字湯沢	丘陵、居館	〃	頂部約150m×100mで自然面。遺構不明。		湯沢七郎兵衛（『北上市史』）	
377	34	更木町	更木	更木	市野川原館		更木町市ノ川	平地、〃	水田	遺構不明。		伝八重樫氏（「和賀御分限録」）	
378	35				堀ノ内		〃 堀ノ内	〃 〃	宅地、畑	範囲、遺構とも不明。		伝小田嶋氏（『北上市史』）	
379	36				更木館	館、八幡館	〃 大竹字館	丘陵、詰城	畑	東西約200m、南北約400m。桑畑として広く破壊。北面に数段の腰郭、丘陵基部に堀切。		和賀氏（「邦内郷村誌」）	62
380	37				野中館		〃 野中	平地、居館	河川敷	北上川の川欠で消失。		斎藤重蔵	
381	38				梅ケ沢城	梅ケ沢館	〃 梅ケ沢	山頂、詰城	山林、畑	開田工事で全壊。井戸もあったというが館との関係不明		多田宗親（和賀氏）（「源姓和賀系図」）	36
382	39				下欠野館		〃 八天	段丘、居館	草地	東西約100m、南北約150m。北西端に主郭。堀跡埋没。		小原藤次郎（「和賀御分限録」）	
383	40				羽久保館		〃 〃	丘陵、〃	宅地、水田	南北約150m、東西約100m。遺構不明。		更木主水正（「和賀御分限録」）	
384	41				天王館		〃 〃	〃 〃	山林、畑	東西約100m、南北約150m。主郭周囲に空堀。南側斜面に二段の腰郭。その他竪堀。	八森	梅ケ沢氏（「和賀御分限録」）	38
385	42				山王館		〃 〃山王平	丘陵		下田屋敷ともいう。範囲遺構不明。		糖塚倉右エ門	
386	43	黒沢尻町	立花	立花	堀ノ内		黒沢尻町平沢字沢目	〃 、居館	山林	屋号堀ノ内。東西約200m、南北100m。幅約2mの堀切	堀ノ内	小田嶋氏か（『北上市史』）	
387	44				堀ノ内		平沢字荒屋敷	平地、居館	宅地	南側に幅約8mの堀割。	堀ノ内	平沢氏か（北上市史）	
388	45				柿ノ木館		〃 字祭田	丘陵、〃	山林	赤坂から平沢に境する一帯の高台地という。		柿ノ木氏（更木村誌）	
389	46	更木町	更木	更木	道見館		更木町大竹	〃 〃	〃	大竹字槻の木から臥牛長根にかけてという。遺構不明。		晴山隼人（〃）	
390	47				松ケ沢館		〃 山寺松ケ沢	〃 〃	〃	泉沢の上で松ケ沢という高地というが遺構不明。		松ケ沢六宗	
391	48			臥牛	乱場館	欄間館・藍婆館	〃 臥牛字長根	山頂、詰城	〃	東西約120m、南北約40m。馬背状の複郭。南側に帯状腰郭。東後背に堀。		小田嶋氏か（〃）	
392	49				観音館	餅の沢館	〃 臥牛字餅の沢	山麓	〃	臥牛観音堂を中心とする約2ha。遺構不明。		伝猿ケ石嶋子、餅ケ沢氏（〃）	
393	50	飯豊町	飯豊	飯豊	飯豊城		飯豊町中館	平地、居館	宅地、畑	瀬畑街道が中館部落をつけぬけるあたり。遺構不明。		飯豊豊後	51
394	51				飯豊森館		〃 十文字	山頂、詰城	神社境内山林	東西約50m、南北約100m。頂部に狭い平場、南斜面に4段の帯状腰郭。	飯豊森		50

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
395	52	飯豊町	飯豊	成田	岩田堂館		飯豊町成田	山頂、詰城	神社境内	八幡神社境内、遺構不明		岩田堂隠岐	62
396	53				小館		〃 〃	平地		小館と称する屋号あるが遺構不明。		赤坂権頭	
397	54			成田	成田館		〃 〃	段丘、居館	水田	東西南北約200m、後背堀切、開田によって全面破壊		成田氏	
398	55	黒沢尻町	黒沢尻町	里分	古城場		黒沢尻町孫屋敷	平地	宅地	方八丁の西方地名。範囲遺構不明。			
399	56				黒沢尻柵	安倍館	黒沢尻町中川岸	平地;居館、城柵	宅地	堀跡が一部残った他は区画整理によって全面破壊		伝安倍正任（「陸奥話記」）	27
400	57				八方丁		〃 上川岸	〃、城柵	〃	黒沢尻柵跡の北側をいう。遺構不明。	方八丁	伝源義家（『和賀郡誌』）	
401	58				向陣場		〃 下川岸	〃、陣地	〃	黒沢尻柵跡西南地区をいう。遺構不明。		伝安倍宗任	
402	59	二子町	二子	二子	小鳥崎館		二子町小鳥崎	丘陵、居館	山林	東西約100m、南北70m。東西2郭からなり、東に帯郭、西と南に幅約5mの堀。	館下、千苅	都鳥平馬（「和賀御分限録」）	
403	60				才羽場館		〃 才羽場	平地、〃	宅地	範囲、遺構とも不明。		筒井縫殿介	62
404	61				鶴渡柵		〃 通り	〃、城柵	〃	二子幼稚園付近という。範囲、遺構不明。		伝清原武則	56
405	62				二子城	飛勢城	〃 宿	丘陵、居城	山林、宅地 寺社境内	東西約500m、南北約100m。居館、重臣屋敷跡に堀、前面に帯郭。出城あり。	馬場野・坊館 宿	和賀氏本城（『和賀郡誌』）	
406	63	鬼柳町	鬼柳	上鬼柳	鹿島館	羽場館	鬼柳町宿	段丘、居館	山林	東西約420m、南北約200m。7郭からなり、堀や土塁が残るが一の郭から三の郭まで破壊。	〃	鬼柳義邑（「奥南落穂集」）	64
407	64			下鬼柳	丸子館	笊渕館	〃 笊渕	〃 〃	〃	東西約300m、南北約250mで3郭からなり、主郭破壊。堀、土塁。	丸子	鬼柳伊賀守（「鬼柳文書」）	63
408	65				白髪館	崎山館	〃 西裏	〃 〃	神社境内	白髪神社境内（主郭50m×15m）と南館観音堂境内（20m×15m）からなる。遺構不明。	南館	初期は鬼柳光義か。鬼柳蔵人。	
409	66				都鳥館		〃 町下鬼柳	平地、居館	空地	旧鬼柳小学校跡地。約100m四方か。遺構不明。		都鳥兵馬	
410	67			上鬼柳	柳上館	羽場館	〃 柳上	段丘、〃	山林	東西南北約50mの出崎で、南後背に堀切、内部に古墓群あったが全面破壊。谷の西側に一郭あり。羽場館とはこれら全体か。		鬼柳伊賀守（『岩手県管轄地誌』）	
411	68				願念館	妥女屋敷	〃 田中	平地 〃	宅地	羽場（葉場）屋敷という地が田中17番にあり。この付近を元年ともいう。	的場跡	葉場妥女守恒義、願念隠岐。（「和賀御分限録」）	

和　賀　町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
412	1	和賀町	岩崎	岩崎	岩崎城		岩崎	段丘、平山城	公園、畑	東西約600m南北約300m、本丸、二の丸、三の丸、城内土塁、堀跡。	城内	岩崎弥右エ門	21
413	2			煤孫	下須々孫館	煤孫城 観音館	煤孫字観音館	〃　居館	神社境内 畑、山林	東西約250m南北約170m。主郭を中心に3郭。これらは堀と土塁で分離。主郭前面に帯郭。		煤孫下野守治義か	
414	3			山口	福田館	タテ	山口字福田	〃　〃	〃　〃	東西南北約100m。南側2重堀西側にも堀。幅約7m深さ約3m。単郭。		福田氏か	
415	4			岩崎	兵庫館		岩崎字梅の木	〃　陣地	運動場	破壊、砂利採取による。		南部信直	1
416	5			煤孫	上須々孫館	林崎館	煤孫字本郷	〃　居館	山林	東西約400m南北約200m。沢を境に新（林崎館）旧の郭あり。両郭後背に堀・土塁。	本郷	和賀基義後に煤孫上野介義重か。	
417	6				八幡館		〃　字小田中	〃　〃	神社境内	範囲・遺構不明			
418	7			山口	月館		山口48地割	〃　〃	山林	南北68m東西60mの方形単郭。周囲に幅6mの堀			
419	8				田中館		〃　字東田中	〃　〃	畑	東西230m南北100m。南北二郭堀切にて分断。堀幅約6m深さ2m。土塁一部残在			
420	9				馬場館		〃　字馬場館	山麓	墓地	範囲・遺構不明			
421	10			岩沢	下仙人館		岩沢字下仙人	段丘、居館	山林	東西60m南北40mの単郭、後背堀切。堀幅約7m深さ約2m	たてし	仙人別当浄念坊	
422	11			山口	水沢館		岩沢	段丘、詰城	山林	東西南北約50m。単郭式。堀切幅約4m、深さ約2m。			
423	12		横川目	横川目	蛭川館		横川目字蛭川	〃　居館	宅地	東西約90m南北約70m。単郭式。北と西に堀と土塁があったが破壊。			
424	13				蟹沢館	八幡館、館森 カンジャダテ	〃　字蟹沢	山頂、詰城	山林	東西140m南北約100m。東西2郭。幅約5mの空堀がめぐる。			
425	14				古館		〃　字古館	平地、居館	宅地	東西約110m南北約50m。東西2郭。幅約7.5mの空堀。		小原左京の一族	
426	15				戸花館		〃　字戸花	段丘　〃	水田	東西南北約90m。単郭式。開田にて破壊		小原左京	
427	16				時田館		〃　字時田	〃　〃	〃	南北約200m東西約100m複郭式（3郭）。西側後背を堀切。主郭の堀幅約6m。深さ約3m。			
428	17		藤根	長沼	長沼館		長沼	平地　〃	〃	位置不明			
429	18			藤根	八幡館	タテ	藤根字稲葉	〃　〃	〃	東西約200m南北約40m。複郭式（3郭）空堀跡。		伝八幡太郎義家、藤根氏	
430	19				堀ノ内		〃　〃	〃　〃	〃	堀跡らしい水田と池あり			
431	20				谷地館		〃　字谷地館	〃　〃	宅地	屋号だが遺構不明。			
432	21		岩崎	岩崎	七折館		岩崎字七折	段丘、陣地	山林	東西南北約60mの単郭式。幅約7m、深さ2mの堀と、帯郭。		南部信直	
433	22				陣場		〃　字下中嶋	平地　〃	水田	水田にて破壊。範囲不明。		南部信直	1

湯田町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
434	1	湯田町	湯田	湯田	藤倉館	藤念館	本屋敷	山頂、見張台	山林	山頂（藤倉山）に近い突出部で5m×3m。遺構不明。		小田嶋氏の見張所か、	
435	2				八幡館		鷲之巣	〃	神社境内	独立状丘陵で頂部八幡神社境内は10m×8m。遺構不明	八幡矢つくし沢	伝八幡太郎義家	3
436	3				安倍館		無地内	丘陵	ダムサイト	無地内沢と和賀川の合流点。平場は約10m×5m。遺構不明。八幡館とともに伝承の館跡か。		伝安倍貞任	2
437	4				川尻館		川尻字館	段丘、居館	宅地	公民館付近、範囲不明。			
438	5				中館		湯田	山頂、詰城	山林	東西南北約100m。東側を除き堀と土塁がめぐる。内郭が段々に造成されている。		中館左衛門尉	
439	6				虎間館		〃	平地、屋敷	墓地	南北約50m東西約30m。北側に幅約4mの堀状凹地。			
440	7				虎館		下前	山頂、詰城		東西南北約40m。後背に幅約5mの堀跡。			
441	8				左草館	館	上左草	〃　〃	山林	南北約50m東西約30m。丘陵基部幅約5mの堀切。周囲に幅約3mの帯郭。			
442	9				とんねじろ	槻沢館	槻沢	丘陵	〃	遺構範囲とも不明	とんねじろ		

江釣子村

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
443	1	江釣子村	江釣子	下江釣子	五条丸館		下江釣子五条丸	平地、居館	宅地・水田畑地	西郭70m×55m、東郭50m×65m、後背（北側）に堀跡と土塁。	館屋敷、前館	不明	
444	2				江釣子城	古館？	〃　〃　宿	〃　〃	山林寺社境内	東西95m、南北50mの単郭、後背（北側）に幅10～25m、深さ3mの堀跡。		江釣子民部（和賀郡誌）	3
445	3			上江釣子	江釣子城		上江釣子林妻	〃　〃	水田	地籍図では東西約120m、南北約80mの方形で副郭あり。		創建は和賀家臣野田氏か後、江釣子氏の居館。	2
446	4			新平	新平館		新平（日平）	丘陵、居館	山林	東西約80m、南北約120mの単郭、幅約4m、深さ約1.5mの堀跡。			
447	5			鳩岡崎	鳩岡崎三館		鳩岡崎堂前	平地、〃	水田・畑地宅地	北側と西側に土塁と堀跡。東西約75m、南北約60mの単郭式		鬼柳氏か（「鬼柳文書」）	
448	6			滑田	下糖塚古館		滑田下糠塚	〃　〃	〃　〃	範囲不明、近世の環濠屋敷か			
449	7			新平	新平環濠屋敷		新平（日平）	〃　屋敷	宅地	東西約60m南北約65m、北と西に幅約3mの堀跡。	屋号「大日平」	旧新平の肝入宅	
450	8			上江釣子	田代主殿屋敷		上江釣子田代	〃　屋敷	宅地・畑地	東側に長さ約40m、西側に約60mの堀跡（幅約5m）。			

沢内村

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
451	1	沢内村	沢内	新町	毘沙門館	田代館	新町	山頂・詰城	山林	南北約120m 東西約70m。内郭数段にて造成。土塁・堀は丘陵基部から北側へとのびる。		青山下野守冠者義季	
452	2				典膳館	天神館	〃 字第1地割	丘陵・居館	〃	南北約280m 東西約180m。複郭式。堀・土塁。特に主郭と二の郭間が巨大な堀。		片倉典膳	
453	3			太田	八幡館		太田字第3地割	山頂・詰城	〃	東西約220m 南北約120m。堅固な腰郭。2重の堀切。全体を帯郭が囲繞		太田主膳	
454	4				深沢館		〃 字第2地割	〃 〃	〃	東西約70m 南北約25m、段差の低い平場で構成、尾根筋4ケ所に堀切。	まちぶね	筒井縫殿助	
455	5			猿橋	御所の目館	七内館	猿橋字七内	〃 〃	〃	南北約100m 東西約60m、内部は数段の腰郭からなり、最頂部は5m×7mと狭い。周囲に帯郭。		太田玉助	
456	6			川舟	川舟館		川舟	〃 〃	〃	南北約230m 東西約100m。最頂部数段の平場からなり主郭不明。南側に腰郭7段。北西端に見張台。尾根筋数ケ所堀切。			
457	7				右京館		〃 字貝沢	〃 〃	山林・神社境内	南北約130m 東西約60m、但し主郭たる神社境内は10m×10m。北と南に傾斜の強い帯郭。		佐竹太夫	
458	8				安ケ沢館		安ケ沢	段丘・居館	山林・荒地	南北約60m 東西約100mか。堀跡あったと伝わるが不明。			
459	9			猿橋	古館		七内	山頂・見張台		突出部山頂にて平場なし。御所の目館の出城か。			
460	10			太田	飯豊鼻館		飯豊	山頂・見張台	山林	頂部平場は50㎡。20mほど下って帯状の堀が東側をめぐる。			
461	11			川舟	若畑館		若畑	丘陵・詰城	〃	南北約80m 東西約30m。北側に腰郭3段、西側丘続きを堀切、堀の幅約5m、深さ約2.5m。			
462	12			前郷	堀田館		前郷	平地・居館	〃	南北約80m 東西約70m、南側陸続きに堀切跡。東側に幅約4mの帯郭。	館の畑		
463	13			太田	七ツ釜館		飯豊	段丘	神社境内	境内は南北約50m 東西約20m。堀等は見当らない。伝承化のみか。			
464	14			前郷	寺館		前郷	〃	山林	南北約60m 東西約40m。堀幅約6m。土塁。館としてまとまりがない。			

水沢市

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
465	1	水沢市	佐倉河	八幡	上館	古館 速瀬館	佐倉河字八ツ口	平地連郭式	果樹園	平場、堀。		（安永風土記）	
466	2				胆沢城	方八丁	〃 渋田他	平地単郭式	水田ほか	内郭、外郭。		（〃）	
467	3				館	長城館 タ川端館	〃 北館	〃 居宅	宅地ほか	平場。		（〃）	
468	4			佐野	佐野館	タテッパタケ	〃 宿	〃 単郭式	畑ほか	平場。		（〃）	
469	5			下河原	御伊勢館		〃 白井坂	〃 連郭式	宅地ほか	平場、堀。		（〃）	
470	6				堀ノ内館	上館	〃 竈堂	〃 居宅	雑種地			（〃）	
471	7				毘沙門館	南館	〃 天井町	〃	水田ほか	詳細不明。		（〃）	

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
472	8	水沢市	佐倉河	下河原	下河原内館	轟館	佐倉河東館	〃 単郭式	水田ほか	平場		(安永風土記)	
473	9				東館		〃 〃	〃 〃	宅地	詳細不明		(〃 〃	
474	10				要害館	桐山屋敷	〃 〃	〃 〃	畑地ほか	平場ほか		(〃)	
475	11				赤井館		〃 〃	〃 〃	〃	〃			
476	12			茄子川	嶋館	那須川館 古館	〃 嶋館	〃 輪郭式	〃			(〃)	
477	13			跡呂井	館	跡呂井館	神明町	〃	宅地	詳細不明		(〃)	
478	14		水沢町	塩釜	水沢城	要害	表小路	〃 単郭式	宅地	〃		(〃)	
479	15			北下幅	築館	塩釜古館	築館	〃 連郭式	水田ほか	平場ほか		(〃)	
480	16		佐倉間	栃木	常楽寺館		佐倉河字曽根田	〃	〃	詳細不明		(〃)	
481	17		水沢町	塩釜	要害館	要害館	〃 後田	〃 単郭式	〃	平場ほか			
482	18				寿安館	福原館	福原	〃 〃	〃	〃			
483	19		真城	須江	片子沢館		真城字片子沢	平地単郭式	林ほか	〃		(〃)	
484	20				須江城	四郎館	〃 南塩加羅	〃	〃	詳細不明		(〃) (古城書上)	
485	21			堤尻	堤尻館	堤尻沢館	〃 大檀	段丘 〃	〃	平場ほか		(安永風土記)	
486	22			中野	馬篭館		〃 馬篭館	〃 〃	〃				
487	23				折居館		〃 要害ほか	〃	土取場	詳細不明		(安永風土記)	
488	24			瀬台野	瀬台野館	瀬台野古館 館	〃 寺後ほか	平地 〃	林		垣ノ内	(〃)	
489	25		姉体	上姉躰	上姉体城	館	姉体町字寺の西	〃 〃	宅地ほか	平場ほか		(古城書上)	
490	26		真城	中野	中野城	館	真城字館	〃 〃	〃	〃		(〃)	
491	27		姉体	下姉躰	西館		姉体町字天神林	〃 〃	〃	〃		(安永風土記)	
492	28				道場館		〃 〃	〃 〃	〃	〃		(〃)	
493	29				松川館		〃 〃	〃 〃	〃	〃		(〃)	
494	30				内館	下姉体城本丸	〃 〃	〃 連郭式	〃	〃		(古城書上)	
495	31		羽田	羽黒堂	羽黒堂館	蝦夷の砦	羽田町字御山下	山地 〃	山林	堀、平場ほか		(安永風土記)	
496	32				羽黒堂城	古館	〃 八木沢	〃 〃	〃	〃 〃		(〃)	
497	33			鶯沢	北鵜ノ木館	卯ノ木古館	〃 北鵜ノ木	丘陵 〃	水田ほか	〃 〃			

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
498	34	水沢市	羽田	鴬沢	鴬沢館		〃 篭	山地 〃	山林	堀、平場ほか			
499	35			黒田助	黒田助城	館	〃 門下	〃 輪郭式	〃	〃 〃		（古城書上）	
500	36		黒石	黒石	鵜ノ木館	館	黒石町字鵜ノ木	丘陵単郭式	〃	平場ほか		（安永風土記）	
501	37				鶴城館	黒石古館	〃 鶴城	山地輪郭式	〃	〃		（ 〃 ）	
502	38				下柳館	下谷木	〃 下柳	丘陵居宅	〃	〃			

江刺市

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
503	1	江刺郡江刺町	伊手	伊手	下館		伊手字新山	丘陵、不明	畑、宅地	80×50m の丘陵。遺構等は不明。			
504	2				宇津良館		〃 宇津良	山城	山林	宇津良集落の西北方の山頂。頂部平場40×50m 。その北方下位に巾５m の帯郭２段。さらに北方下位に堀１。規模50×120m 。		佐藤某？	
505	3				陣馬館		〃 沢田	丘陵、不明	〃 畑	残丘状の丘陵。80×200m 前後。頂部平場下位に帯郭状のもの１段。		八幡太部義家の陣場？	
506	4				建久館		〃 久田	山城	〃 〃	久田地区東北方の山頂。頂部平場150×50m 。東方下位に巾５m の帯郭１。さらにその東方に堀１。		佐藤某？	
507	5				小野間館		〃 松ノ木田	山頂 〃	〃	北方に張り出した山陵。頂部広場25×50m 。その下位に巾10m 前後の帯郭風のものが取り付くが、あるいは堀か？			
508	6				上館		〃 館ノ下	山城	〃 〃	南北にのびる山陵。頂部平場40×100m 。南北端に堀各１。東方下位に帯郭状のもの３段。		佐藤某？	
509	7				菊池館		〃 字馬場先	丘陵、居城	畑	的叟寺東方の丘陵端部。遺構不明。80×100m 前後か？	大手	菊池恒義？慶長年間菊池恒一の孫信方地頭となり、この地に住し、明治迄存続。家中10軒。寺１、足軽20軒ありし由。	
510	8				古館		伊手、隅川	丘陵、居城	畑、境内	住吉神社一帯の由であるが詳細不明。50×50m 前後か？		藤原氏隆？	
511	9				山谷館		〃 地ノ神	〃 不明	水田	地の神集落の北とされるが遺構等不明。			
512	10				荒谷城	古館 新谷館	〃 荒谷	〃 居城	境内	頂部平場（荒谷神社ののる）50×30m 。その南方下位に80×100m の平場。さらに南方下位に巾30m の帯郭。北端部に堀１。		及川左近？ 藤田右兵衛宗景（正保２年饗父但馬の時、上口内から移封。延宝６年滅）	
513	11				愛宕古館	天久館	〃 愛宕	〃 〃	山林、境内	愛宕神社ののる丘陵端部。頂部平場30×20m 。西方下位に50×50m の平場。	堀切		
514	12		藤里	横瀬	沼尻城		藤里字石名田	〃 〃	〃	比高50m の愛宕神社ののる山とその東南方の山。頂部平場30×50m 。その下位に帯郭状のもの数段。規模 200 × 100m 。		及川弥兵衛直澄？	
515	13				掛ノ上館		〃 沢田	山城	山林	頂部平場20×50m 。その下位に堀が囲む。規模20×100m 。		及川某	
516	14				大平城	大平館	〃 前田	山頂、不明	〃	標高180×200m の山陵といわれるが、遺構等一切不明。			
517	15				長信田城	長志田城	〃 芦ノ口	丘陵	〃	土仏観音ののる丘陵。頂部平場80×40m 。南方下位に帯郭状のもの数段。		長信田飛弾守？	
518	16			浅井	倉迫城	三河館 三州館	〃 寺沢	山城	〃	本杵の集落北方の標高 147m の山頂。頂部平場30×40m 。その南辺に土塁１。西南方下位に巾10m の帯郭２段。西方下位に堀１。	本杵	江刺三河の武将左衛門。天文年中？	
519	17				妻ノ神館		藤里字本杵	丘陵、居城	畑	毘沙門山の麓の丘陵端部。頂部平場50×60m 。北隣に３m 下位に50×30m の平場。		大同年中、高橋国春？	

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
520	18	江刺郡江刺町	藤里	浅井	智福館	毘沙門館	藤里字智福	山城	山林	智福愛宕神社裏山。頂部平場知福愛宕神社裏山。頂部平場80×60m。その下位に巾8mの帯郭2段。南方にのみ堀1。規模200×100m。			
521	19				雁前館	仮前館 雁舞館	〃 外の沢	兵陵、不明	水田、宅地	智福神社の東方。遺構残存せず詳細不明。		葛西の家臣及川梯之助？	
522	20				岩清水館		〃 前村	〃 〃	〃 〃	前村集落東方丘陵端部。頂部平場80×50m。南方に帯郭状のもの2（30×10m、50×50m）。西限に堀1。		中田出雲？	
523	21		米里	人首	高屋城		米里字向木細工	山麓 〃	宅地	不明	高屋敷	高屋則氏？	
524	22				古歌葉館		〃 館沢	丘陵、居城	山林	西南方へ張り出す丘陵端部。堀2で2区画。西方は80×50m、東方は40×80m。		藤原秀衡家臣門脇帯刀？	
525	23				山居館		〃 滝壷	山頂 〃	〃	人首川直上の山頂。東限に堀1。頂部平場30×40m。南辺に沿って土塁1。その東北方下位に平場40×80m。		藤原泰衡の臣吉田某？	
526	24				人首古館		〃 古館	〃 〃	〃	標高297mの頂部。東館・南館・西館の三平場。各平場下位に帯郭1。(南館のもののみ腰めぐりと呼ばれる)。		阿部重胤？	
527	25				人首城		〃 城内	丘陵、〃	境内、公園	人首の裏山一帯。西にのびる丘陵端部。東方に堀2あり。3区画に分かれる。平場下位に腰郭1段、そこに土塁。南西に桝形門。全体規模150×250m。		江刺氏家臣人首氏、安蘇峰理？慶長11年沼辺摂津守重仲。以後「要害」として扱かわれる。	
528	26				坂本館		〃 坂本	〃 〃	山林	人首川南岸の北にのびる丘陵端部。平場80×40m。北・西の下位に帯郭1。南方下位に巾5m×長さ50mの平場1。			
529	27				小田館		〃 小里原	〃 不明	水田	開田で詳細不明、かつては80×80m前後の平場ありし由			
530	28				川辺館		〃 和山	〃 居城	山林	南北にのびる丘陵頂部。頂部に平場2。北は30×50m。南は20×80m。南端に堀1。			
531	29				鳥谷森館		〃 小沢	山城	〃	標高370mの山頂。頂部平場30×50mか。北方下位に巾5mの帯郭数段。		葛西の臣佐野某？ 天正年間藤田但馬	
532	30				八幡館		〃 杉の下	山頂、不明	〃	八幡館山の頂部西方。頂部に平場40×30m。			
533	31		玉里	次丸	玉崎館	鳥城 高城 マトバ館	玉里字玉崎	〃 居城	〃	玉崎神社東北方の丘陵端部。西端に堀。頂部平場40×100m。東方下位に帯郭状のもの。		次丸道海入道？天正中減？	
534	32			角掛	羽山城	鳥羽館 松館 羽山館	〃 長倉沢	山城	〃	上樋茂井野北方の山地。頂部平場50×35m。東南方に尾根を切る堀1。南方下位に帯郭三段。		菊池蔵人武垣？天正18年没。	
535	33				青篠館	古館	〃 大松沢	〃	〃	青篠集落の江刺東中学校南方。頂部平場30×80m。南方下位に帯郭2段。西南方中腹に堀1。全体規模100×150m。	館ケ森	菊池右馬之允(江刺兵庫家老)？	
536	34				牛安館		〃 大森前	平地、不明	水田	大森観音堂東方。開田され詳細不明。			
537	35		梁川	菅生	葛西館		梁川字大尻	丘陵、居城	山林	月山神社西南方丘陵先端。頂部平場40×70m。西・南・東方下位に巾4mの帯郭1。北端に堀1。		葛西一族？	
538	36			栗生沢	栗生沢館	鶴の館 鶴野館	〃 小林	山城		小林集落南の丘陵の先端。頂部平場20×30m。その周囲に堀をめぐらす、内部の2つの平坦地を区切る。南から先端にかけての斜面には帯郭状のもの。		栗生沢内記？天正年間減	
539	37			野手崎	小屋敷館	小屋敷城	〃 小屋敷	丘陵 〃	水田	梁川中学校東方の丘陵。開田のため詳細不明。かつては100×70mの平場と堀がありし由。現在は北西部にのみ残存。		高間館主菊池親孝の弟掃部敏勝？天正18没？	
540	38				小梁川館	野手崎城 高屋敷館	〃 館下	山城	山林、宅地	同一地点について、別称が3つある。若干の時間差があるか。小梁川館は本丸30×50mの長方形。南面に帯郭3。西端に堀。高屋敷館は小梁川館の下位の100×60mの平場。	本丸、二の丸、武道館 大手門	寛永21小梁川宗影　天正19大立目内匠	
541	39				高間館	中田館	〃 大洞	〃	〃	東西にのびる山陵。東端に堀。北面に堀2。南西下位に帯郭2～3。内郭は6区画前後。規模300×150m前後。		菊池次郎親孝？天正11築城、同18滅	
542	40				蜂森館	建久館	〃 猫沢	丘陵、居城	〃 畑	丘陵先端。頂部平場80×50m。南方下位に帯郭3。東限に堀。丘陵頂部平場80×100m。	建久館	榊原行光？のち蜂須賀氏？	
543	41				中居館	中井館	〃 水上沢	〃 〃	〃	丘陵頂部平場80×100m。規模1ha以上か。西～南限に堀。	中井館	安藤居盛？	
544	42				間木館		〃 向川目	〃 見張台	〃 境内	滝沢神社境内。頂部平場20×15mあるのみ。			
545	43				古館	石刎古館	〃 石刎	〃 居城		愛宕神社ののる丘陵先端部。頂部平場80×30m。南方下位に帯郭2。東限に堀。	古館	仙台藩大藩士中村九平治？天正19～寛文12？	

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
546	44	江刺郡江刺町	広瀬	軽石	軽石城	矢ノ沢館	広瀬字内山	丘陵、居城	山林	東西方向の丘陵頂部。東限に堀。頂部平場80×40m。下位巾10mの帯郭2段。		軽石又兵衛	
547	45			鴨沢	二丁目館	二丁の目館	〃 下日向	〃 〃	宅地	広瀬川北岸の南へのびる丘陵端部。宅地化で詳細不明だが南面に帯郭2段？かつては北限に堀ありし由。			
548	46				鴨沢館	石館城 山館城 月夜館	〃 西風	〃 〃	山林	南北方向にのびる丘陵頂部。頂部平場40×80m。南・西限に堀、北方下位に帯郭3。		葛西の臣菊池武貞？	
549	47			歌書	歌書城		〃 宝良	山城	〃	宝良集落東北方山頂。頂部広場20×30m。南方下位に巾3mの帯郭1。		菊池左馬允？	
550	48				大内館		〃 〃	丘陵、居城	〃 畑 宅地	吉祥寺東方の丘陵先端部。基部を2本の堀で区切る。主郭と思われる平場は40×70m。東方下位に帯郭1、南方下位に同2段。		歌書帯刀	
551	49				松館		〃 松館	山城	山林	松館集落東方の山頂。頂部平場40×8m。下位に巾4mの帯郭2。全体規模100×50m。		江川善門？	
552	50			一の関	一の関館	古館	〃 中嶋	丘陵、居城		西にのびる丘陵端部。東端に堀。主郭80×50m。その下位の西から北に帯郭1。北方張り出しに平場30×40m。		一関玄蕃？	
553	51			二の関	二の関館		〃 川原	平地、不明	水田、宅地	開田等で詳細不明	館		
554	52			三の関	三の関館		〃 山影	〃 〃	水田	広瀬川の南岸丘陵端部。詳細不明だが60×40m前後か。南・東・西辺に堀の痕跡。		三の関讃岐？	
555	53		岩谷堂町	片岡	片岡城	根岸館	岩谷堂字根岸	丘陵 〃	境内	不明、正重寺、太子堂附近？		片岡重朝？	
556	54				岩谷堂城	柄杓城 岩谷堂要害	〃 館山	山城	〃 校地	岩谷堂高校敷地。連郭式。本丸90×90m。周囲に土塁。二の丸150×200m。三の丸（詳細不明）。内堀3。東西に帯郭状のもの数段。本丸に八幡神社。延慶二年古碑。		葛西重任、永正年間？天正18滅。19年伊達領化。萬治2以降。岩城宗規・岩谷堂要害所拝領。以後、明治推新まで継続。	
557	55			餅田	豊田城	豊田館	〃 下苗代沢	〃 不明	境内、畑	詳細不明だが、100×80m か。田辺希元の豊田城址碑あり。	五位塚	藤原経清？藤原清衡？	
558	56		愛宕	高寺	天間館		愛宕字天間	平城	宅地 〃	北上川東岸の沖積地上の微高地。遺構等の詳細は不明。		下川原氏家臣天間氏	
559	57			田谷	池向城	田谷城	〃 池向	〃	水田	水田化され、詳細不明。江刺郡志によると、四周に堀ありし由。150×175m 前後か。	光明寺屋敷	江刺舎人？江刺清秀？	
560	58			二子町	鴻ノ巣館		〃 力石	〃	〃 線路 宅地、畑	詳細不明だ が、堀は発見済。		高野若狭	
561	59		田原	石原	東館		田原字土公	平地（微高地） 不明	水田、宅地	伊手川の形成した沖積地中の微高地。開田で詳細不明。100×75m 前後か。		館屋敷準人	
562	60			原体	内館		〃 内館	丘陵、不明	〃 〃	詳細不明。100×100m 前後か。	館	原体主膳？	
563	61				虚空蔵館		〃 虚空蔵	〃 〃	〃 〃	山居集落と思われるが詳細不明。昭和40年代には、堀・土塁が存在せし由。150×100m 前後か。		及川清勝？	
564	62			太田代	太田代古館		〃 高根下	山城	畑、山林	高根下から外田へむかう道路際の丘陵、頂部平場20×30m。その南北に20～30m ×50m の平場各1。東南方下位に帯郭状のもの数段。	古館	太田代伊豫（菊池氏）？	
565	63				太田代城	太田代古館 古館	〃 〃	〃	山林、境内	五十瀬神社ののる山。頂部平場80×50m。東西に巾10mの帯郭状のものがあり、あるいは堀跡か。		太田代伊豫（菊池氏）？	
566	64				大平古館		〃 大平	〃	〃	比高50m の山頂。頂部平場80×40m。西方に10×40m の帯郭1。	館		
567	65				大万館		〃 太田	山頂、不明	〃	標高260m の山頂、遺構無し。			
568	66				小万館		〃 〃	〃 〃	〃	耕田寺北方の山頂。頂部平場50×80m。東限に高さ、巾各2m、長さ200m の土塁各2。規模150×75前後。			
569	67			小田代	鳶館	とびが森館	〃 下田代	山城	〃	比高約70～80m。頂部平場50×80m。北方下位に帯郭状のもの2段。40×20m と40×30m。西限に堀1。長さ40m。			
570	68				清水城	清水館	〃 深沢	〃	〃	南北に平場各1。100×50m と50×30m。それぞれの東限に堀がつく。		小沢肥前（小田代主膳）　興国寺（小田代）に清水城後衛の額あり。また山門の門扉は清水城城門の由。	
571	69				蒼前館	蒼前森館	〃 〃	山頂、不明	〃	標高130m の山頂。頂部平場8×10m。その下位に平場30×20m。			

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
572	70	江刺郡江刺町	田原	小田代	館ヶ森館		田原字宮地	丘陵、不明	水田	興国寺南方。開田のため詳細不明。かつて井戸等あり。200×100m前後？			
573	71		稲瀬	倉沢	深山古館	新山館 古館	稲瀬字内倉沢	〃　〃	山林、畑境内	新山神社西方丘陵。頂部は平坦なるも詳細不明。新山神社がのるのは帯郭か。			
574	72				鶴羽衣柵		〃　下台	〃　〃	山林、畑	比高20mの丘陵端部。東・西館。西館は1ha、西方に小郭をつく。東・南・西の三方に堀。西に土塁。下位に腰郭。		安倍家任?葛西の臣小沢馬之允?	
575	73				白幡城	白旗城	〃　瀬谷子	〃　〃	水田	五十瀬神社北方の丘陵端部。100m×100mで2郭からなる。南北に堀、西方に土塁1。		源頼義？	
576	74				方八丁		〃　下台	平地　〃	〃	詳細不明。		源頼義	
577	75				伊豆堂館		〃　小倉沢	丘陵、居城	山林、畑	二つの郭あり。西館50×100m。東館70×80m中間に堀1、西館の北に堀1。			
578	76				沼館	方八丁	〃　沼館	平地、不明	水田	水田化し、詳細不明。			
579	77				柏原館		〃　柏原	〃　居宅	畑	詳細不明。		寛文年間中目長重（大学）禄500石、北辺警備	
580	78				佐野平館	神明館	〃　佐野向	丘陵、不明	〃	〃			
581	79			三照	兵部館	比浦館	〃　正源寺台	〃　居宅	山林、水田境内	詳細不明だが、北と西に堀各1。		伊達の臣、後藤孫兵衛居宅	
582	80			石関	茶臼城		〃　新田	〃　居城	山林	頂部平場80×70m（円形）下位に帯郭2段。北に堀。門跡？		石関左近？	

前沢町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
583	1	前沢町	生母	赤生津	赤生津城	東館	生母字斉田	山麓	水田、畑	平場ほか。			
584	2		前沢町	目呂木	安倍館	安倍塚	稲置字安倍館	平地	水田	詳細不明。			
585	3		白山	上麻生	上麻生城	大麻生野柵 大麻生城	白山字内館	〃	〃	〃			
586	4		古城	小山	九郎館	小山城 小山古館	古城字南上野	丘陵連郭式	山林、畑	平場ほか			
587	5			中畑	古城方八丁		〃　宿の前	平地	水田ほか	詳細不明。			
588	6		白山	六日入	白山方八丁	稲置方八丁	白山字合野	〃	〃	〃			
589	7		前沢町	白鳥	白鳥館	白鳥城 白鳥古城	白鳥字白鳥館	丘陵連郭式	山林ほか	郭、堀、土塁ほか			
590	8		古城	小山	宗角館		古城字姥沢	〃	〃	詳細不明。			
591	9		前沢町	白鳥	照井館		白鳥字照井館	〃	水田	〃			
592	10		生母	母体	内城	西館	生母字西館	山麓	水田、宅地	郭、堀、土塁			
593	11		古城	中畑	中畑城	樫山館	古城字水上西	平地連郭式	〃　〃	〃　〃　〃			

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
594	12	前沢町	古城	小山	八郎館		古城字高代寺	丘陵	畑				
595	13		前沢町	前沢	前沢城		前沢町字陣場	〃 連郭式	宅地	詳細不明。			
596	14		古城	小山	明後沢遺跡		古城字明後沢	〃	山林	〃			
597	15		白山	六日入	六日入城	六日入柵	白山字古城	平地連郭式	〃	堀、土塁			
598	16		前沢	白鳥	新城		白鳥字新城	丘陵	〃	詳細不明。			
599	17		生母	赤生津	羽場館		生母字羽場	山麓	水田	〃			

金ケ崎村

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
600	1	金ヶ崎町	永岡	永徳寺	安倍館	通天館	永栄字永徳山	山城	山林	堀、土塁			
601	2			百岡	大林城	百岡城	〃 柏山館	丘陵連郭式	山林ほか	堀、郭			
602	3		金ヶ崎	西根	金ヶ崎城	胡桃館	西根字白糸	段丘連郭式	宅地ほか	〃 〃			
603	4				三居寺館		〃 雛子沢	〃 〃	山林	〃 〃土塁			
604	5		永岡	永沢	頭防館		永沢字頭防下						
605	6		相去	相去	道所森館		六原字道所森	段丘輪郭式					
606	7		金ヶ崎	西根	鳥海柵	弥三郎館	西根字鳥の海	〃 連郭式	水田	郭、堀			
607	8				新井田館	八荒神	〃 八荒神	〃 〃	山林	〃 〃腰郭			
608	9			三ヶ尻	西根城	花館	三ヶ尻字川口田	〃 〃	宅地	郭、堀			
609	10		永岡	百岡	八幡館		永栄字九石	〃 〃	水田	〃 〃土塁			
610	11		金ヶ崎	西根	花館		西根字大森		〃				
611	12		永岡	永徳寺	細越城	参居館	永栄字茶畑		〃				
612	13			百岡	松本館	半入館	永沢字松本館	段丘	〃	郭、堀			
613	14		金ヶ崎	三ヵ尻	丸子館	三ヶ尻館	三ヶ尻字清水端	〃 連郭式	〃	〃 〃			
614	15			西根	五葉館		西根字揚場	〃 〃		〃 〃			
615	16		永岡	永沢	下館		永沢字下館						
616	17				明道館		〃 明道						

胆沢町

地図	No.	行政変遷			名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
		昭30	明20	藩政									
617	1	胆沢町	南都田	都鳥	要害	止々井館	南都田字本木	平地、居館	畑、宅地	推定200×100mの範囲に水堀。開田のため詳細不明。		止々井四郎、または千葉四郎	2
618	2			南下幅	机地館	盛興館	〃 古城	〃	境内	推定200×150m。所々に水堀の痕跡。	盛興、御田	机地平蔵	
619	3			都鳥	広岡館	医王館 飯坂館	〃 広岡	〃 居館	山林、畑	開田のため詳細不明、北面に120mの二重堀と土塁が残る。		飯坂出雲守（承応頃）	
620	4		若柳	新里	香取根館		若柳字新里	〃	境内	正福寺境内の150m四方。所々に土塁・堀の痕。		伝及川犬千代	
621	5			若柳	山田城	山田屋敷	〃 明神下	〃	畑、宅地	300×150mの範囲の所々に土塁・堀の痕。		千葉玄蕃亮貞治（文明頃）	
622	6			新里	新里館	角方館 若柳方八丁	〃 島塚	〃	水田	開田のため詳細不明。南方に堀らしい痕。		新里角方（康平頃）	
623	7			若柳	要害館		〃 要害	〃	〃 宅地	推定規模80m四方。一部に土塁残存。			
624	8				門ケ城		〃 愛宕	〃	山林 〃	胆沢川の段丘上に、段状の3郭がある。			9
625	9				鹿合館	山居館	〃 鹿合	山頂、砦	〃	比高70mの山頂、周囲に空堀・土塁がめぐる。		高橋盛富	8
626	10				猪の鼻館	栄の華館	〃 市野々	平地、居館	〃 境内	一辺100mの三角形。2郭あるが南郭は破壊、空堀・土塁が残る。		伝八谷定国の臣	
627	11		小山	堀切	隠息館	恩俗館 高田館	小山字下恩俗	平地	水田、宅地	残丘状の台地と伝えられるが詳細不明。			
628	12				小山方八丁館	かっこう	〃 方八丁	〃	畑 〃	200×150m。東西の3郭。南方に張り出しをもつ。			
629	13				高円館	西館 東館 高縁館	小山字堀切久保	〃	境内、宅地	東西の2郭。東方に土塁、全体規模不明。	東館		
630	14				荻館	館、矢矧館	〃 館	〃	畑 〃	呼称はあるが詳細不明。一部に土塁状の高まり。	荻屋敷		
631	15			徳岡	武田館	徳岡館 御屋敷	〃 鞍骨	〃 居館	〃 〃	一辺80mの微高地をいうが遺構は不明。		伝武田五郎成信	
632	16				大屋敷館	屋敷館	〃 屋敷	〃	〃 〃	東に白鳥川、南に岩堰川があり立地はよいが詳細不明。	馬場攻め垣	伝徳岡御左エ門	

衣　川　村

地図	No.	行政変遷 昭30	明20	藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
633	1	衣川村	上衣川	上衣川	接待館		上衣川字川東	平地	宅地	150×70mか。北と南の郭に土塁様のもの。		伝秀衡母居所	
634	2		下衣川	下衣川	琵琶柵		下衣川　〃	〃	山林	衣川柵跡の南、泉ケ館跡の西、詳細不明。	川端	貞任の庶兄成道	
635	3				衣川柵	並木屋敷	〃　〃	〃	畑、宅地	小松柵対岸の700×200mの平場、遺構不明。	並木前		
636	4				小松柵	小松館 北館	〃　川面	〃	水田	衣川と小成川の中間の120×40mの平場。小松柵擬定地。			
637	5				館代館	楯代館	〃　豊巻	〃	畑、宅地	衣川の右岸の80×60mの平場。土塁と堀の痕跡あり。	館代	安倍重任	
638	6				向館	迎館	〃　高田	〃	〃　〃	100×100mの地をいうが詳細不明。			
639	7		上衣川	上衣川	古館		上衣川字古戸	〃	山林	北股川の右岸の40×50mの平場。北と東に空堀。	古館		
640	8				安倍新城	安倍館	〃　石神	〃	〃	比高60m、２郭からなり周囲に腰郭をもつ。	館	安倍氏	
641	9				大森館		〃　大森	山麓	〃	大森山の東側の30×60m。中央に堀跡のある平場。	館前		
642	10		下衣川	下衣川	桝形森陣場	陣馬館	下衣川字日向	丘陵	〃	20×30mの平場であり、標高30m。		伝秀衡の物見台、烽台	

一　関　市

地図	No.	行政変遷 昭30	明20	藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
643	1	一関市	市野々	市野々	釣尾城	市野々城	萩荘字下本郷	梯郭＋連郭	山林	基部に空堀３、頂部平場を中心とした帯郭、連郭式に先端に郭。		小岩孫三郎（風土記）	
644	2				小山館	鷹巣城	〃　南沢	連郭	〃	基部に空堀。		小岩民部　（　〃　）	1
645	3				加持屋館		〃　上本郷	〃	〃	基部に空堀、堀底道。		菅原長門、後に小岩弥太郎（　〃　）	1
646	4				天蕨館		〃　天蕨	〃	〃	基部に空堀。		千田入道宗念（　　）	1
647	5				上沖館	白岩城	〃　上本郷	〃	〃	階段状に平場。		千葉兵庫　（　〃　）	1
648	6				小館		〃　市野々		〃	不明、擬定地。		小岩氏家臣佐藤修理（古記）	1
649	7				熊野館		〃市野々大岩		〃	釣尾城の一部の連郭となる部分をさすものか。		小岩氏家臣佐藤掃部道信（　〃　）	1
650	8		達古袋	達古袋	松原館	達古袋城	〃　松原	梯郭か？	山林、畑			小岩刑部（一説に小岩月心入道）（風土記）	1
651	9				栃倉館		〃市野々外山		山林	不明、擬定地。		菅原長門（古記）	
652	10		猪岡	猪岡	半目館	メッコ館 目半館	厳美町字下り松	単郭	〃		下り松	不明	
653	11				大森館		〃　大森	山頂梯郭	〃	空堀。	大森、山口	安倍貞任（風土記）	

地図	No.	行政変遷 昭30	明20	藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城管
654	12	一関市	五串	五串	遠矢館		〃 山口	単郭	〃	空堀、土塁	山口		
655	13				五串城	古館 茂庭城	〃 五串	囲郭	〃	空堀		千葉八右衛門	
656	14				抗丁館		厳美町字上野		山林	土塁、表面上にあまり特徴がみられない。		不明	
657	15		赤荻	赤荻	田高館		赤荻字雲南	囲郭	〃	土塁	福泉	不明	
658	16				赤荻城	日光館	〃 宿	直線連郭式	〃	空堀	宿	小岩大膳重光（風土記） （古城書上）	
659	17				宮田館		〃 宮田	単郭	〃	空堀、明瞭でない。	宮田	葛西一家（風土記） 萩荘氏（萩荘系図）	
660	18				若宮館	中条館	〃 中条	囲郭	〃	空堀	泥田山下	源頼義の陣所（風土記）	
661	19				臥牛城	伏牛城	山目字茶畑	連郭	学校	平場のみ	館	小岩駿河（ 〃 ）	
662	20		中里	中里	中里城	阿部沢館 古館	〃 中里	梯郭式	山林、畑	基部に空堀	中里	小野寺修理（ 〃 ）	
663	21				小石名沢古館		〃三反田	不明	宅地	不明、擬定地。		葛西家臣千葉下野（ 〃 ）	
664	22		一関	一関	一関城	高崎城 釣山城	一関市釣山	連郭	公園、山林	空堀、虎口。	釣山	小野寺伊賀、伊達兵部（ 〃 ） 留守政景（古城書上）	
665	23		三関	三関	三関城	白崎城	三関字白崎	囲郭	山林、畑	基部に空堀、土塁	白崎	千葉内膳（風土記）千葉五郎三部 （古城書上）二ノ関平蔵（葛西真記録）	
666	24			前堀	前堀城	要害館	前堀南白幡	不明	畑、宅地	不明	南白幡	葛西家臣小野寺左馬之丞（風土記	
667	25			狐禅寺	狐禅寺城	鶴ヶ館	狐禅寺字久田	連郭	山林	空堀、土塁、土橋		葛西家臣新柵太郎左衛門種次 （風土記、古城書上）	
668	26		下黒沢	下黒沢	下黒沢城	南館 片平館	萩荘	連郭の変形	〃	空堀、土塁、堀底道。		黒沢豊後義任（古城書上）	
669	27				市野館	秋葉館	萩荘字江川	梯郭	畑、神社	基部に空堀。	秋葉	小岩越中守小性（風土記）	29
670	28				鈴ヶ沢城		〃 鈴ヶ沢		道路敷	記録保存。		不明	
671	29				上黒沢城	片平館	〃 上黒沢	環郭	山林	空堀、大手口。		小岩越中守（古城書上） （風土記）	
672	30		上黒沢	上黒沢	小姓館		〃 上黒沢		〃	不明	大繋	小岩越中守小性（風土記）	29
673	31		真紫	真紫	的場館	西館城 西館	真紫字的場	連郭	〃	空堀。		小岩越中守黒沢より抱え （風土記、古城書上）	29
674	32			真滝	要害城	下要害城	〃 内ノ目	〃	〃	空堀、堀底道、土塁。			
675	33				牧沢城	内野目館	〃 細田	〃	〃	空堀、土塁。		細谷近江（風土記） 小岩越中黒沢より抱え（古城書上）	29
676	34				滝沢城	田中古館	真滝字館下	〃	〃	空堀、土塁。			
677	35		弥栄	楊生	楊生古城	宝館	弥栄字寺町	環郭	〃	帯郭が巡る。		千葉左近将監明清（大槻系図）	36
678	36				楊生新城	宝館	〃 沼畑	〃	山林、神社	空堀、帯郭		千葉清泰	35
679	37			富沢	古館		〃 茄子沢	連郭	山林、畑	空堀。		不明	

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
680	38	一関市	弥栄	富沢	廻館	富沢城上の館	弥栄字鶴巻		〃	平場のみ。		岩渕民部（古城書上） 富沢彦次郎久胤（葛西真記録）	
681	39				西風館	奈良井城西の目館	〃 内ノ目	直線連郭	山林	基部に空堀、階段状に平場。	内ノ目	不明	
682	40		舞草	舞草	羽場城		舞川字西平		水田	不明	館越	舞草内匠（古城書上、風土記）	
683	41				舞草城	干草館	平		〃	〃	平	佐々木左衛門尉五郎（古城書上） 佐々木左衛門四郎（風土記）	
684	42		相川	相川	八幡館		中島	単郭	山林	空堀、土塁、土橋	中島		
685	43				陣館		中入	囲郭	山林	土壇			
686	44				小屋館		中里	連郭	山林、畑	空堀、土塁		小屋野勇閑	

平泉町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形状	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
687	1	平泉町	長島村	長部村	佐藤屋敷	荘司屋敷	長島字生江田	丘陵、居館	すぎ林	平坦のみ、池跡といわれる狭い窪み。		佐藤荘司、古代末、「平泉史」	
688	2				長部館		〃 滝ノ沢	山頂、居城	山林、畑	主郭（105×35m、東西に長い）、北と東に土塁と堀がL字状に入る、その北にさらに堀が2本入るが遺構にともなうか否か不明、南西に2段の平場。	中館、搦目堂	長部兵部大夫、中世末、「風土記」	
689	3				道網館	西館	〃 竜ヶ坂	山麓、居城	水田	3段の平場、井戸、東山頂に見張り状の平場。		千葉修理、中世末、「古城書上」、「風土記」	
690	4				二反田館	内館	〃 二反田	丘陵、〃	水田、畑、宅地	主郭（90×80m）、東と南にL字状に堀、西と北に平場、堀を隔てて南に副郭。		千葉長門、中世末、「〃」、「〃」	
691	5				月館	築館	〃 月館	〃 〃	〃	残存状況は不良、主郭（90×80m）、東と西に堀、土塁状の高まり。	月館	口碑に及川雅楽亮、中世末、「風土記」	
692	6			小島村	館岡館	西館、古館	〃 館岡	〃 〃	〃	南北に長い丘陵に堀が3本、南に池があったといわれる平場、主郭（130×120m）	館、館岡、要害	不明、中世末、「古城書上」、「風土記」	
693	7				猪岡館	東城	〃 須崎	〃 〃	〃	北上川に向って扇状にひろがる丘陵に3本の堀、主郭（130×100m）		猪岡玄蕃、中世末、「〃」、「〃」	
694	8				小島館	古館	〃 古館	〃 〃	〃	八幡宮が中央にある主郭（150×140m）東に堀1本。	古館	小島三右衛門、中世末、「風土記」	
695	9		平泉村	戸河内村	鶴ヶ館	古館	平泉字南郷	山頂、砦	山林	北方にのびる稜線上、とくに遺構らしきものは発見できない。		黒沢兵庫、中世末、「〃」	
696	10				伊能館	戊館	〃 西郷	山麓、居館	水田	主郭（90×50m）、東西は自然の堀、尾根つづきはとくに遺構は発見できない。			
697	11			達谷館	達谷館		〃 北沢	山頂、砦	山林	東にのびる尾根に1本の堀切、東西に長い郭（50×25m）、堀切の東に平行して土塁あり。	要害	僧兵の拠った館跡と土地の者は話している、中世末。	
698	12			中尊寺村	泉ヶ城	和泉ヶ城	〃 泉ヶ城	平地、居館	水田、畑地	周囲を衣川によって囲まれた要害、主郭（160×160mの三角形）、北に副郭	〃	安倍貞任、泉三郎忠衡、古代後、「古城書上」「風土記」「平泉史」	
699	13				瀬原柵		平泉字瀬原	丘陵、居館	水田、畑地	不明		古代後、「陸奥和記」	
700	14				関山館		〃 衣関	山頂、〃	特別史跡	堀（規模・上巾4m下巾1.6m、深さ1.6m）が発掘調査によって金色堂前から金堂跡前を経て、直線的に大長寿院に向っているのを発見している。それとは別に現在大長寿院の北と西を囲む堀がみられる。			
701	15				辨慶屋敷		〃 坂下	平地、〃	特別史跡	とくに遺構らしきものは発見できないが古代末頃の古い五輪塔がある。		五輪塔は辨慶の墓と言われる。古代末、「風土記」「平泉史」	

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
702	16	平泉町	平泉	中尊寺	鈴木屋敷		坂下	平地、居館	特別史跡	とくに遺構らしきものは発見できない。五輪塔がある。		鈴木三郎重家古代末、「風土記」「平泉史」	
703	17				亀井屋敷		〃	〃 〃	特別史跡	とくに遺構らしきものは発見できない。位置が明確でない。		亀井太郎重清古代末、「平泉史」	
704	18				増尾屋敷		〃	〃 〃	特別史跡	とくに遺構らしきものは発見できない。		増尾十郎兼房、古代末、「平泉史」	
705	19			平泉	片岡屋敷		平泉字片岡	丘陵、〃	畑地、	不明		片岡八郎、「風土記」「平泉史」	
706	20				勅使館		〃〃 毛越	〃 〃	畑地、	とくに遺構らしきものは発見できない。土器片は表採出来る。		古代末、「風土記」「平泉史」	
707	21				国衡館	西永戸第	〃 倉町	〃 〃	学校用地	主郭（小学校校舎・校庭200×90ｍ）、西側に土塁、副郭（幼稚園）		藤原国衡、古代末、「風土記」「平泉史」	
708	22				隆衡館	高衡館	〃	〃 〃	畑地、寺、民家	国衡館の南、とくに遺構らしきものは発見できない。		藤原国衡、古代末、「風土記」「平泉史」	
709	23				高館	衣川館	平泉	山頂	山林、	北上川によって北東側はけずられている。主郭（20×20ｍ）、西側に堀１本、堀の西に副郭（北側に土塁）、南東方向に平場がつづく。	館下	藤原秀衡、源義経、民部少輔基成、古代末「古城書上」「風土記」「平泉史」	
710	24				柳之御所		平泉字柳之御所	丘陵、居館	水田、畑地民家、	全体約10万㎡、北上川によって北東側はけずられている。南西側は猫間が淵の要害、４本の堀によって５郭に分けられる。発掘調査によって新たに堀が１本、	柳ノ御所	藤原清衡、藤原基衡、古代末、「風土記」「平泉史」	
711	25				伽羅ノ御所	平泉館	伽羅楽	〃 〃	水田、畑地民家	柳ノ御所に南接、堀は現状ではみられない。北側に土塁、	伽羅楽	藤原秀衡、藤原泰衡、古代末、「吾妻鑑」「風土記」「平泉史」	
712	26				葛西屋敷		花立	山頂、〃	畑地、	主郭は土取りで破壊、副郭は国道で破壊、堀１本、	花立	葛西三郎清重より３代まで、中世初「風土記」「平泉史」	
713	27				大佛館		樋の沢	〃 砦	山林、	主郭（40×10ｍ）、東に平場、西に堀切り１本（自然の鞍部か）	館	黒沢豊前、中世末、「風土記」「平泉史」	
714	28				安土館	日向館	要害	山頂・山麓、居城	山林、水田畑地、民家	山頂主郭（80×50ｍ）、東に副郭、北西尾根つづきに堀切り１本、南側麓に３段の平場、板碑あり、	要害	安土日向守、中世末、「古城書上」「風土記」「平泉史」	
715	29				黒沢館		片同	山頂、砦	山林、	不明		中世末、「平泉史」	
716	30				鳥屋ケ崎館		更の上	〃 居城	〃	不明		鳥屋崎備中守、中世末、「風土記」「平泉史」	
717	31				新城館		高田前	〃 〃	〃	主郭（40×20ｍ）、北に副郭と平場、南側尾根つづきは堀切り（自然の鞍部か？）		中世末、「風土記」	

花泉町

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
718	1	花泉町	湧津	湧津	猪閉館		湧津字亥年前	平山城	山林	平場２段、主郭40×60ｍ。土塁、空堀		千葉越中	
719	2				白浜塞	湧津南館	〃 山中	山城	〃、畑	郭３。主郭26×30ｍ、腰郭、物見		岩渕藤三郎	4、5、6
720	3				湯山館	悪法師館	〃 松ノ坊	平山城	〃 〃	主郭20×45ｍ、下位に腰郭		秋星駿河	
721	4				紫館	北館 神楯城 井上城	〃 館	山城	畑、境内公園	長円形平場（60×120ｍ）。南西が本丸跡。北東に二の丸、下位の東から北面に腰部。大手口北隅、櫓。本丸南に堀その下位に水堀。北東腰郭下方に井戸。　、郭			2、5、6
722	5				下館城	下紫城 東城	〃 石畳	〃		主郭46×96ｍ、下位に腰郭。南側の虎口にむかい５本の堀。西方腰郭下位に堀、南側と堀間に土塁、南西土塁上に櫓。南西100ｍに物見、主郭25～30ｍ×100ｍ、	矢ノ目	岩渕豊前家真	2、4、6
723	6				熊倉館	池上柵	〃 熊ノ倉	〃	〃	主郭25～30×100ｍ、下位に幅10ｍの腰郭		岩渕伊勢経村	2、4、5

地図	No.	行政変遷 昭30	行政変遷 明20	行政変遷 藩政	名称	別称	所在地	形式	現状	遺構	地名	城主等（文献）	関連城館
724	7	花泉町	永井	東永井	青葉山城	東館 東永井館	永井字角屋	山城	山林	山頂に本丸35×72ｍ。その下位に腰郭３段。さらに下位南西に２段の郭、本丸北に二の丸（27×31ｍ）、その下位の西～南に土塁。その外方に堀。本丸に井戸。		照井次郎	12
725	8			西永井	高倉城	西永井館	〃 薬師沢	〃	〃	山稜上の２本の堀で区切られた３郭。主郭（22×60ｍ）。その周囲に堀。北方では腰郭化。主郭の南から西に土塁。主郭の周囲の堀の下位25ｍのところに土塁。西側に虎口、２の郭、３の郭にも腰郭。			
726	9				西永井館	内ノ目館 西館 岩坂館	〃 待井	〃	山林、畑	本丸頂部50×60ｍ。その南西下位に平場２、本丸南西・北東に堀、その外方に土塁。その外方に小郭。さらにその先に堀２。	内ノ目	菅原春道	
727	10				長崎柵		〃 長崎	〃	〃 〃	主郭は頂部（30×50ｍ）と２郭。主郭の北に堀。ほかに物見。			7、13
728	11				麻生沢館		〃 薬師沢	〃	〃	頂部に平場１、その下位に平場１		菅原道弘	12、14
729	12				釣野館	鶴の館	〃 〃	〃	〃	明治～大正の乱掘で破壊		菅原道慶	11、14
730	13			東永井	高崎館	下館	〃 岫前	〃	畑	規模120×250ｍ。上部に段築成の３区画。その下位に腰郭、現在の道路は堀痕が。		菅原長友	7、10
731	14			西永井	晴之中山柵		〃 鞍懸山	〃	〃、山林	平場２段。上位が主郭（43×50ｍ）ほかに堀と井戸跡。		菅原道正	12
732	15				大塚館		〃 杉則	〃	〃 〃 永田	平場２段。主郭（43×56ｍ）。主郭と二の郭の周囲に２段腰郭。南東下位に家臣屋敷地。堀。		大塚高瀬	
733	16				脇ノ田館	鶴の館	〃 薬師沢	〃	山林	単郭（38～31ｍ）、南東から南西に堀、その外方に土塁、北西150ｍに物見			
734	17		蝦島	蝦島	西館	蝦島館	油島字飛ケ沢	〃	〃、畑	平場３。本丸25ｍ四方。二の丸20×45ｍ。三の郭14ｍ四方。周囲に腰郭と堀。		佐々木安芸定信	
735	18		油田	下油田	蒲沢館	下油田城	〃 蒲沢	〃	〃	本丸31×30ｍ、二の丸20×51ｍ。本丸北ほかに堀、土塁。下方に物見。		千葉右馬亮定	30
736	19			上油田	上油田城	竹の下館	〃 穴ノ沢	〃	〃	本丸65×51ｍ、二の丸35ｍ四方。本丸の東方に堀、その外方に土塁。本丸・二の丸の南に腰郭。その下位に堀。本丸西郭に土塁、その先80ｍに物見。			
737	20				要害		〃 表谷地	平山城	宅地	平場23×55ｍと、２～３段築成	要害	遠藤主計	
738	21		蝦島	蝦島	猪岡館	泉沢館	〃 仮谷	山城	山林、畑	主郭23～28ｍ×65ｍ、その周囲に３段の腰郭			
739	22		花泉	清水	二桜館	清水城 舞鶴城	花泉字上館	〃	〃 〃 境内	頂部に主郭70×75ｍ。その下位に腰郭２段、主郭南西に土塁、主郭の西に堀２、土塁、清水。		清水清秀	
740	23		奈良坂	奈良坂	高森館	奈良坂城 白鷹城	〃 館前	〃	山林	頂部に本丸50×30ｍ、二の丸35×50ｍ。本丸下位に腰郭、堀と土塁。	館前	奈良坂大炊平家重	28
741	24				和泉館	小山城	〃 築館前	〃	〃	主郭頂部（15×37ｍ）、その下位に腰郭２段。主郭東方に土塁。		佐藤信定	27
742	25		花泉	花泉	高山館	金森城	〃 寺沢	平山城	〃、水田	規模6,800㎡。主郭の下位に幅５～15ｍの腰郭、南方～東方に堀、その外方に土塁。		金森内膳定利	
743	26			中村	須崎館	中村城	〃 寺田	平城	水田	開田のため詳細不明			
744	27		老松	峠	杉屋敷館	杉屋敷城	老松字佐野屋敷	山城	山林	平場３段。主郭80×52ｍ。二の丸60～26ｍ×76ｍ。南北から北西に堀。その外方に土塁。二の丸北東に土塁、その外方に堀、本丸に井戸。		寺崎石見守祈念僧、普賢院	
745	28			男沢	鷹取館	男沢城	〃 館平	〃	畑	頂部本丸55×66ｍ。西側に郭２。緩傾斜の北方が大手、北東に虎口。北方に土塁と堀。		及川重俊	
746	29				栄館	宮沢館	〃 上宮沢	〃	山林	稜線を堀２本で切る。頂部主郭25～55ｍ×65ｍ）、主郭下位に腰郭２段。幅10～30ｍ。主郭の北の堀に接し土塁、南東の隅に井戸と土塁。		長沢伊勢	35、36 37、38
747	30			峠	本丸館 （苟明館の）	峠城 嶺上城	〃 峠沢	〃	〃	北館と東館の間に堀。主郭80×30～70ｍ）の北と南に腰郭。主郭の西に３郭。南西に大手		千葉胤資	35、36
748	31		日形	日形	東館 （〃）	峠城東館	日形字上通	〃	〃	本丸館南方。主郭15～21×38ｍ。小郭10×23ｍ。主郭の南から西に土塁。主郭下位に堀、その外方に土塁、西側に腰郭。南西隅に虎口。		岩渕美作	34、36 37、38
749	32		老松	峠	西館 （〃）	峠城西館	老松字峠沢	〃	境内	稜線に平場17×29ｍ。八幡神社	宿	菅原与惣左ヱ門	34、35 37、38